

陣地ヲ攻略シ続イテ南京城ニ突入ヲ企圖シ右翼隊タル我聯隊ハ依然前任務ヲ続行スヘク命セラレ

聯隊ハ十二日午前〇時四十五分「歩三三作命甲第一三一號」ヲ以テ依然攻撃続行ニ関スル命令ヲ下達ス即第二大隊(欠除部隊)故ノ如ク依然工兵小隊ヲ配屬ス)ハ依然攻撃ヲ続行シ第一峰ヲ攻略シ爾後天文台北部高地ヲ攻撃シテ大平門ニ進出セシメ且第一峰攻略後特ニ北方ニ對シ警戒セシム又第三大隊(欠除部隊如故)ハ前面ノ敵陣地ヲ攻略シ第一峰南麓高地ヨリ明孝陵北端附近ニ亘ル敵陣地ヲ攻略シ天文台南部高地ノ敵陣地ヲ攻撃シテ富貴山ニ進出セシム而シテ兩第一線大隊ノ戰鬪地境ヲ第一峰東側閉鎖曲線高地ノ南麓第一峰南側小閉鎖曲線(二万五千分ノ一)天文院ヲ連ナル線(線上ハ左ニ屬ス)トシ其第一線ノ攻撃前進ハ砲兵射撃ノ效果ヲ利用シ其時期ハ別命スル如ク規定セリ

二、戰鬪經過ノ概要

聯隊ハ砲兵ノ協力ヲ得其火力ト相俟テ速ニ第一峰ヲ攻略セントシ早朝ヨリ準備スル所アリ之カ為師團司令部ヲ通シ野砲兵第三大隊ト協定シ射撃ヲ實施セシモ砲兵ノ威力ハ地形並觀測困難ナル為我陣地前ニ於テ適切ナル效果ヲ挙クルヲ得ス此処ニ於テ第二大隊長ハ砲兵第八中隊ヲ極力協力セシムルト共ニ速射砲大隊砲機関銃ヲ第一峰東方稜線第一線近ク推進シ密接ニ協力セシメ突撃ヲ敢行セント企圖ス聯隊長ハ聯隊予備隊タル第二大隊ヲ第二大隊長ニ与ヘ突撃ヲ推進セシメントシ自ら第一線近ク位置シ

(1) 此日前日同様聯隊ハ山上ニ位置シ左右兩隣接部隊トノ連繫ヲ保持スルコトナク独力山上ヲ西方ニ突進セリ

師團ノ協力砲兵トノ協同モ又前日ニ等シク諸種ノ關係上期待シ得サリシハ遺憾ナリキ

然レ共配屬砲兵中隊ハ觀測將校ヲ第一線右大隊長ノ許ニ派遣シ陣地ト電話連絡ニヨリ全ク其意圖ノ如ク効力ヲ發揮シ其彈藥欠乏セントスルヤ恰モ聯隊砲中隊上五旗西南側高地ニ進出して射撃ヲ開始シ砲兵中隊ノ射撃效果ヲ繼續シ△四八・五高地奪取ニ終始協力スルヲ得タリ

(2)

此日聯隊長ハ將兵ノ志氣ヲ振張シ一意第一峰ノ攻略ニ邁進シアルモ敵陣地ノ堅固特ニ山上地形ノ狹隘ニ我カ戰鬪威力ヲ俄ニ發揮スルヲ得ス而モ師團幕僚ヨリハ累次宮殿下ノ御意圖並ニ師團ノ意アル所ヲ電話ヲ以テ通報シ來ル聯隊長ハ転々光榮ニ感激シ聯隊ノ面目ニカケテ本日中午ニ第一峰ヲ奪取スルニ決シ極力第一線ノ推進ヲ督勵スルト共ニ其突撃ニ依ツテ既ニ獲得シタル戰果ヲ擴張シテ目的ヲ貫徹セント欲シ午後五時過キ軍旗及聯隊予備(當時第十中隊ノ二小隊ノミナリ)ヲ第一線「バラバラ松」高地ニ推進シテ最後ノ決ヲ与ヘントシ其前進ヲ命令セリ而シテ自ら△三八六高地ノ西端ニ於テ第一線ノ状況ヲ注視ス偶々午後五時三十分頃第七中隊ノ先頭統ヲ第一峰ニ攀登シ始メタルヲ以テ同高地ノ占領既ニ確實ナルヲ認め一先ツ軍旗及予備隊ヲ現在位置ニ停止ヲ命ジ日没直後「バラバラ松」高地ニ転位シ爾後ノ戰鬪ヲ指導セリ

即チ紫金山第一峰ノ高地ハ聯隊將兵感激裡ニ之ヲ占領シ万歳ノ声高ク日章旗ヲ夕暗高ク飄スヲ得タリ

テ之ヲ督勵ス兩第一線大隊ハ敵陣地前ノ障礙物ヲ排除シ午後一時頃第一峰東南麓バラバラ松ノ敵陣地(閉鎖曲線ノ高地?)ニ突入シ數時ニ亘ル近接戰ヲ交ヘテ逐次戰果ヲ擴張ス此間敵モ小銃機関銃ノ猛射手榴彈ノ投擲等ニ依リ執拗ニ抵抗シ又第一峰東北方地区ニ數線ニ陣地ヲ占領シアリシ敵兵ハ後退シテ第一峰北側方向ヨリ戰鬪ニ参加シ又第一峰南側地区ヨリ敵ノ後方部隊統々増加シ戰鬪漸次激烈ヲ加フ

本戰鬪ニ於テ相前後シテ第三機関銃中隊長菅野大尉第五中隊長脇岡大尉第九中隊長井原中尉間柄少尉横山少尉駒谷准尉等共ニ負傷シ第九中隊長代理福田少尉三輪少尉乙部准尉等壯烈ナル戰死ヲ遂ケタリ

然レ共我カ第一線ノ志氣ハ益々旺盛ニシテ配屬砲兵及重火器特ニ午後二時頃上五旗西南方高地ニ陣地ヲ變換セシ聯隊砲ノ猛射ニヨリ敵ヲ制圧シ終ニ日没前バラバラ松ノ高地ヲ確實ニ占領シテ戰果ヲ擴張シ午後五時半右第一線大隊ノ第七中隊ハ第一峰ニ攀登シ午後六時完全ニ同峰ヲ占領セリ其後第二大隊ハ第一峰西方鞍部ニ進出シ弘曉攻撃ノ目的ヲ以テ天文台高地ノ敵情地形ヲ偵察ス

三、我ニ関連セル隣接部隊ノ動作

第三大隊ハ其右第一線タル第九中隊「バラバラ松」高地ニ突入シ爾後戰果ヲ擴張セシモ前面ノ敵陣地堅固ナル為戰鬪ノ進捗意ノ如クナラサリシヲ以テ聯隊長ハ午後八時第一峰東南麓ニ於テ聯隊命令ヲ下達シ依然前任務ヲ続行スヘク督勵スル所アリ同大隊又其後積極的ニ邁進シテ夜半ニ於テ戰鬪頓ニ進捗セリ十二日ニ於ケル戰鬪經過概要要圖第三ノ如シ

其六、十二月十三日ノ行動

一、戰鬪經過ノ概要

十二日夕紫金山第一峰ヲ攻略セシ聯隊ハ追撃前進ニ轉移シ十三日午前七時半頃第二大隊第三大隊ハ相応呼シテ天文台高地ヲ占領シ同九時十分第二大隊ノ一部(第六中隊機関銃一小隊工兵一小隊)太平門ヲ占領シテ日章旗ヲ城門高ク掲揚セリ

聯隊ハ午前九時三十分一六師作命甲第一七一號ヲ受領シ一部ヲ以テ太平門ヲ守備セシメ主力ハ下関方向ニ前進シテ敵ノ退路ヲ遮断スヘキ命ヲ受ケ午前十時半出發第二大隊(二中隊欠)ヲ前衛トシ太平門―和平門―下関道ヲ下関ニ向ヒ前進ス而シテ進路ノ兩側部落ニハ敵敗殘兵無數アリ之ヲ掃蕩シツ、前進ヲ繼續セリ

午後二時三十分前衛ノ先頭下関ニ達シ前面ノ敵情ヲ搜索セン結果揚子江ニハ無數ノ敗殘兵舟筏其他有ユル浮物ヲ利用シ江ヲ覆テ流下シツ、アルヲ発見ス即チ聯隊ハ前衛及速射砲ヲ江岸ニ展開シ江上ノ敵ヲ猛射スル事二時間殲滅セシ敵二千ヲ下ラサルモノト判断ス

爾後聯隊ハ右側支隊長ト連絡シ其指揮下ニ入レリ

其七、參考トナルヘキ事項

一、敵ハ紫金山一帶ヲ相当堅固ニ占領シアリシモ防禦ノ重点ハ南北兩方向ニ指向シ東方稜線ヨリスル我カ攻撃ニ對シテハ弱点ヲ成形シ急造陣地並ニ配兵ノ増強ニ依リ補備セルカ如シ又敵ハ迫撃砲ノ外砲兵火力ヲ以テ稜線ヲ掃射スルコトナカリシヲ以テ我カ攻撃動作比較的容易ナリシモ敵ハ小銃特ニ重火器ヲ熾ニ集中シ又其ノ豊富ナル手榴彈ヲ山上ヨリ投下シテ屢々逆襲セリ然レト

モ敵ノ陣地ノ設備拙ニシテ比較的死角多ク且ツ小松林等ノ射界ノ清掃不充分ナリシヲ以テ我カ戦闘指導ヲ著シク容易ナラシメ死傷ヲ軽減スルヲ得タリ只山上ノ戦闘ニ於テ我ニ手榴弾不足セシハ第一線歩兵ノ士氣上ニ不利ナル影響ヲ与ヘタリ

二、第一線ニ對スル砲兵火力ノ協同ニ関シテハ師団幕僚ヨリ多大ノ配慮アリシニ拘ラス終始意ノ如ク実行セラレサリキ其ノ主ナル原因ハ歩砲兩指揮官ノ位置極メテ遠隔シ意思ノ疎通不可能ナリシト直接通信連絡ノ設備ナカリシニ因スルカ如シ然レトモ配属セラレタル砲兵中隊ハ直接第一線大隊長ノ許ニ觀測將校ヲ派遣シテ電話ヲ以テ砲側ト連絡シ第一線隊長ノ意圖ノ如ク射撃ヲ繼續シ大ナル効果ヲ發揮シタリ本戦闘ノミナラス北支及ヒ中支等ノ如ク特種ノ地形ニ於テハ寧ロ配属砲兵ノ機会及ヒ兵力ヲ今一層推奨シ且ツ砲兵ノ陣地占領上ノ觀念ヲ根本的ニ一掃シテ小銃火ヲ意トスルコトナク第一線歩兵ト同線ニ位置シテ適切ニ協同セシムル如ク指導スルコト肝要ナリ特ニ「トーチカ」陣地ノ攻撃ニ於テ然リトス

三、本戦闘ハ感激裡ニ終始シ將兵ノ士氣極メテ旺盛ナリキ聯隊ハ紫金山攻撃ヲ命セラレタルヲ以テ既ニ光榮ニ感シアリシノミナラス適時師団幕僚ヨリ殿下ノ御意圖ノ存スル所ヲ伝達セラレ更ニ感激措ク所ヲ知ラス尚幕僚ハ師団長ノ意圖ニ基キ聯隊ノ活動ヲ容易ナラシムル如ク懇切ニ所有援助ヲ施サレタリ即チ將兵ハ聯隊ノ面目ニカケ如何ナル難事ニ遭遇スルモ一刻モ速ニ之レヲ攻略スヘキヲ決意シ邁進セリ予備隊ニ在リシ中隊長ノ如キ攻撃開始直後直チニ第一線ニ使用セラルヘキヲ熱望シテ已マサルモノアリ山上ニ於ケル重傷兵中ニハ後送下山スルヲ肯セサルモノア

リ速射砲其他重火器ノ如キ人力ノ企及シ得サル努力ヲ以テ之レヲ山上ニ搬送シテ第一線ニ協力シ通信班ハ後半夜ノ暗黒裡懸崖深谷ノ間保線ニ努力シテ本部間ノ連絡ヲ完フシ山上ヘノ彈藥ノ補充糧食ノ運搬等モ又極メテ円滑ニ実施セラレ第一線ハ三昼夜ニ亘リ極力攻撃ヲ続行セリ而シテ聯隊内各部隊ノ協同ハ極メテ順調ニシテ遺憾ナク戦力ヲ發揮シ終ニ感激裡ニ第一峰ヲ占領シ軍旗ヲ捧ケ東天ヲ拝スルヲ得タリ只聯隊長ノ攻撃指導尚巧妙ニシテ一層迅速ニ第一峰ヲ攻略セシナランニハ軍全般ニ効果ヲ齎ス所大ニシテ上司ノ意圖ニ合セシ所アルヘキヲ想ヒ軫々慚愧ニ堪ヘサル所ナリ

戦闘詳報 附表

自昭和十二年十二月十日
至昭和十二年十二月十四日
歩兵第三十三聯隊死傷表

部隊号	区分		聯隊本部	第一大隊	第三大隊	聯隊砲中隊	速射砲中隊	戰鬥参加人馬		死		傷		生死不明	
	將校	准士官兵						將校	准士官兵	馬匹	將校	准士官兵	馬匹	將校	准士官兵
聯隊本部	(1)	6	(98)	105	(102)										
第一大隊	(3)	16	915	(38)	34	(32)	1	19	2	105					
第三大隊	11	(3)	706	(38)	35	(35)	1	16	3	49					
聯隊砲中隊	3		173		55		1	2	2						
速射砲中隊	2		98	(5)	15		2								
總計	38	(7)	2,197	(175)	137	(169)	3	37	5	159					

〔編注〕()は行李、輜重の人馬及馬取扱兵等の数を示す

自昭和十二年十二月十四日 步兵第三十三聯隊武器彈藥損耗表

種類	隊号	第二大隊	第三大隊	聯隊砲中隊	速射砲中隊	区分		種類
						小銃	銃	
消費	小銃	17,195	23,343	513		41,051		小銃
	機関銃	810	1,680			2,490		機関銃
	重擲彈筒	105	243			348		重擲彈筒
	手榴彈	12	275			287		手榴彈
	大隊砲榴彈	25	110			135		大隊砲榴彈
	拳銃		541	152		193		拳銃
	徹甲彈				45	45		徹甲彈
	速射砲榴彈				170	170		速射砲榴彈
	聯隊砲榴彈			227		227		聯隊砲榴彈
	武器	九三式野戰輕測遠機			1		1	
九三式隊鏡				1		1		九三式隊鏡
彈藥車				1		1		彈藥車
小銃		1	2			3		小銃
拳銃		1	1			2		拳銃
銃劍			3			3		銃劍
前盒			5			5		前盒
劍差			5			5		劍差
重擲彈筒機			1			1		重擲彈筒機
九双式鏡			1			1		九双式鏡
損失	前棍		1			1		前棍
	提桿		1			1		提桿
	円匙		2			2		円匙

自昭和十二年十二月十四日 步兵第三十三聯隊鹵獲表

種類	区分	員数
俘虜	校官	14
	士官	3,082
戰利品	馬匹	52
	小銃	1,440
	輕機関銃	82
	重機関銃	14
	銃劍	1,030
	十五糎重砲	8
	要塞輕砲	2
	高射砲	1
	高射機関銃	1
	拳銃	5
	速射砲	3
	山砲	2
	輕砲	2
	迫撃砲	6
	迫撃砲脚	4
	十五糎砲彈藥車	10
	測遠器	3
	通信機材	4
	青竜刀	2
	自動車	4
武器	器具	659
	小銃実包	197,630
	機関銃実砲	139,020
	輕機関銃実包	51,530
	手榴彈	8,515
	迫撃砲榴彈	150
	戰車砲実包	408
	高射砲彈	50,300

備考	備考	死体(概数)	区分	
			月日	員数
一、俘虜ハ処断ス 二、兵器ハ集積セシモ運搬シ得ス 三、敵ノ遺棄死体	備考 十二月十三日ノ分ハ処決セシ敗残兵ヲ含ム	二二〇	十二月十日	三七〇
			十一月	七四〇
			十三日	五、五〇〇
			以上四日計	六、八三〇

○歩兵第九聯隊第二大隊『戦闘詳報』第九号

自 昭和十二年十二月九日
至 同 十二月十三日

十二月十日 晴

一、午前二時三十分左記集合ニ関スル命令ヲ受領ス

集合ニ関スル命令(要旨)

十二月十日午前二時三十分
於 馬家橋

1 第九師団ハ南京城東南角附近ニ進出シ城壁ニヨル敵ト交戦中ナリ南京城東北角附近ニハ敵ノ十五糧級ノ野砲アリテ第九師団ヲ射撃中ナリ軍当面ノ南京城ニ攻略ノ端緒ハ師団ノ紫金山進出ニ依リテ開カル、状態ニ在リ

師団ハ目前ノ敵ニ追尾シ速ニ南京城ニ肉迫ヲ企図ス
旅団ハ爾後左翼隊トナリ本道(含ム)南側地区ヨリ攻撃前進ス

2 聯隊(Ⅲ2欠)ハ十二月十日払曉迄ニ上麒麟門附近ニ前進シ旅団長ノ隷下ニ入ラントス

3 諸隊ハ各露営地区毎ニ午前五時三十分迄ニ各村端ヲ先頭トシ本道上ニ行軍縦隊ニ集合スヘシ
第七中隊ハ適時馬家橋ニ帰還シ大隊ニ復帰スヘシ

二、左記大隊命令ヲ下達シ第七中隊ニハ電話命令ス

児玉隊命令

十二月十日午前三時
於 馬家橋

1、敵情並友軍ノ狀況ハ別ニ示セル如シ

2、大隊ハ本日上麒麟門(下麒麟門西方六百米)附近ニ前進スル目的ヲ以テ左ノ如ク午前五時二十分迄ニ集合スヘシ
P06、8、2MC BA ± 14ノ順序ニ第六中隊宿營部ヲ先頭トシ道路上ニ集合スヘシ

5ハ聯隊本部附近宿營部隊ト共ニ前進シ來リ集合地ニ於テ連絡ヲトルヘシ

7(2MC)ヲ屬スハ適宜出發午前六時三十分迄ニ下麒麟門ニ至リ^{1/2}
大隊ニ合スヘシ

3、予ハ午前五時三十分第六中隊ノ位置ニ至ル
隊長 児玉少佐

三、此頃林村西方高地ニ約一小隊ノ敵陣地ヲ占領シアリ
中隊長ハ第二中隊長ニ攻撃ヲ命ス

小隊長ハ同高地ヲ攻撃占領敵ハ後退シタルヲ以テ一ヶ分隊ヲ殘置シ中隊主力ニ合スヘク下麒麟門附近ニ前進途中要図ノ位置ニ於テ本道上ノ地雷ニ触レ十四名ノ死傷者ヲ出ス
中隊主力ハ之ニ追及午前五時二十分頃下麒麟門附近ニ達ス

四、旅団予備トナリ聯隊ハ下麒麟門附近ニ位置シ日没ト共ニ大隊ハ下麒麟門ニ露営ス

五、午後十一時師団命令ニ依リ第二大隊ハ師団予備トナリ明十一日午前七時三十分迄ニ馬郡北側ニ位置スル如ク命セラレ

六、午後十一時三十分明十一日午前六時部落南端ヲ先頭トシテ集合スル如ク命ス

十二月十一日 晴

一、予定ノ如ク午前六時麒麟舖ヲ出發馬郡ニ向ヒ前進ス

二、午前七時二十分左記要図ノ如ク位置シ師団司令部ト連絡ス

三、師団命令ニ基キ軍司令官宮殿下ノ護衛トシテ第八中隊服務ス

四、第六中隊ノ一ヶ小隊ヲ以テ土囊一二〇袋ヲ蒐集シ第一線ニ補給ス

五、現在地ニ於テ露営ス

十二月十二、十三日 晴

一、師団命令ニ依リ予備隊ハ依然現在ニ位置シ第一線ノ前進ニ伴ヒ小五頼松―農林場小五頼松―孝陵衛ニ躍進スルノ準備ヲナス如ク命セラレ

二、午後十時師団命令ニ依リ「予備隊タルII/9i(三ヶ中隊欠)

ハ即時出發西四子ニ至リ歩兵第九聯隊長ノ指揮ニ復スヘシ」ト午前四時連絡ヲトリ命令ヲ受領シ中山陵ニ展開ス

展開要図別紙第二ノ如シ

三、敵ハ退却セルヲ以テ直ニ追撃午後二時南京ニ入城シ城内ノ掃蕩ヲナス掃蕩実施要領別紙要図第三ノ如シ

〔編注 要図欠〕

備考	総計	歩兵第九聯隊第二大隊					部隊区分		昭和十二年 自十二月九日 至十二月十五日 歩兵第九聯隊第二大隊死傷表
		歩兵砲小隊	機関銃中隊	第八中隊	第五中隊	本部	將校	准士官下	
	17	1	4	4	3	5	將校	戦闘参加ノ人馬	
	597	63	157	184	123	70	准士官下		
	70		28			42	馬匹		
							將校	死	
							准士官下		
							馬匹		
							將校	傷	
							准士官下		
							馬匹		
							將校	生死不明	
							准士官下		
							馬匹		

備考	総計	歩兵砲小隊	機関銃中隊	第八中隊	第五中隊	大隊本部	部隊区分		昭和十二年十二月九日 歩兵第九聯隊第二大隊鹵獲表
							將校	准士官以下	
	19		4	5	10		將校	俘虜	
							准士官以下		
							馬匹		

○歩兵第二十聯隊第四中隊『陣中日誌』第五号
(昭和十二年十二月一日〜十二月三十一日)

十二月十二日 晴(日) 於 八四・六高地
一、黎明時敵ハ更ニ本戰場ノ要点タル西山高地ノ奪回ヲ企図シ執拗ニモ我左側背ヨリ約五十名ノ敵ハ猛烈ナル射撃ヲ浴セツム逆襲シ米ル第二小隊及予備隊ハ一齋ニ熾烈ナル火力ヲ發揚シ次イテ小隊長高倉准尉卒先々頭ニ立チ奮戦格闘十数分後之ヲ西方ニ擊退セリ本戰鬪ニ於テ高倉准尉及福島伍長並ニ大隊砲小隊長梅川曹長ハ格闘中敵彈ニ倒レ壯烈ナル最後ヲ遂ケ
二、大隊主力正面ハ本朝來極力彈雨ヲ冒シテ前進ニ努メ我カ配屬機関銃及輕機関銃ハ射撃ヲ以テ極力之ニ協力シタルモ容易ニ前進スル能ハス漸ク正午頃第二中隊ハ我カ中隊ノ北方西山高地ノ北部ヲ占領セリ又第十一中隊ハ南部西山高地西北側ニ逐次進出セリ

茲ニ於テ中隊ハ第二中隊ニ連繫シ更ニ西北側ニ向ヒ攻撃シ遺族學校方向ニ敗退スル敵ヲ猛射シ敵第二線陣地ニ對スル攻撃ヲ準備セリ
我大隊ハ茲ニ於テ完全ニ西山高地上ノ敵ヲ擊退シ得タルモ敵ハ遺族學校南北ノ陣地ヨリ終日猛烈ニ高地上ニ射撃ヲ集中シ且又紫金山方向ヨリ猛烈ナル砲撃ヲ受ケ多數ノ死傷者ヲ生シタリ中隊長ハ遺族學校附近ノ敵陣地ニ對シ攻撃ヲ希望シ意見ヲ具申スル所アリシモ聯隊命令ニ依リ前進ヲ統制セラレ現在ノ態勢ヲ以テ日没トナル
敵ハ夜ニ入ルモ頑強ニ抵抗シ我中隊ニ於テモ敵砲彈ノ為中隊長以下数名ノ負傷者ヲ出スニ至レリ
大隊ノ予備隊タリシ第三小隊中隊ニ復歸ス
三、中隊ハ大隊命令ニ基キ現在陣地ヲ確保スルト共ニ中山門附近ノ敵情地形ノ偵察ニ努メ夜ヲ徹ス
四、本日戦死傷者左ノ如シ

日	時	場	所	部	位	重	階	氏
十二月十二日	午前 七、二〇	同	同	頭部貫通銃創	即死	准尉	高倉龜之助	
同	一〇、四〇	同	同	胸部貫通銃創	同	伍長	福島治郎	
同	一〇、四〇	同	同	背部擦過銃創	同	一等兵	田中數夫	
同	午後 七、四〇	同	同	左手背貫通銃創	同	一等兵	白米山利一郎	
同	午後 八、〇五	同	同	右下肢貫通銃創	同	中尉	坂場清	
同		同	同	右腕及頭部爆創	同	上等兵	射場善夫	
同		同	同	右側腹爆創	同	一等兵	松岡京松	
同		同	同	右側膊擦過銃創	同	伍長	河北喜八	

五、火葬ノタメ進士伍長以下五名残置ス
六、現在員二三四名内入院四三名

十二月十三日 晴(月) 於 南京
一、西作命第一六七号ニヨリ午前七時三十分東南方山麓ニ集結シ本隊トナリ中山門ニ向ヒ前進ス
二、中隊ハ午後一時四十分中山門ヨリ入城西作命第一六八号ニ依リ城内ノ掃蕩ヲ実施ス

三、
歩兵一等兵 須川 淳
歩兵上等兵 中島定助
歩兵一等兵 瀬崎重吉
右入院中ノ処十二月五日退院本日中隊ニ追及ス
四、進士伍長以下四名火葬ヲ終ヘ遺骨ヲ奉シ中隊ニ追及ス
五、尋常糧秣トシテ一日分ヲ受領ス
六、現在員二三四名内入院四〇名

十二月十四日 晴(火) 於 南京
一、西作命第一七〇号ニヨリ午前十時ヨリ城内第二次掃蕩区域ノ掃蕩ヲ実施ス
敗殘兵三二八名ヲ銃殺シ埋葬ス
二、鹵獲兵器左ノ如シ

左 記

品目	数量	品目	数量
小銃	一八〇	拳銃	六〇
小銃	一一〇	眼鏡	二
拳銃	〇〇〇	手榴彈	二〇
彈	〇〇〇		

三、入院中ノ処本日中隊主力ニ追及ス
同 歩兵上等兵 山口定一
中野修一
四、尋常糧秣トシテ二日分ヲ受領ス
五、南京城内海軍部ニ於テ宿營ス
六、現在員二三四名内入院三八名

十二月十五日 晴(水) 於 馬群
一、西作命第一七四号ニヨリ午後一時城内海軍部出發紫金山東側地區掃蕩ノ目的ヲ以テ中山門ヲ經テ馬群ニ向ヒ前進ス
二、午後六時馬群ニ到着西作命第一七五号ニヨリ同地ニ露營ス
三、滋野上等兵以下十二名(内入院二名)水上輸送隊ヨリ掃蕩ス
四、部隊衛兵トシテ畑上等兵以下十六名服務ス
五、尋常糧秣トシテ三日分受領ス
六、現在員二三四名内入院四〇名

十二月十六日 晴(木) 於 硝石村
一、西作命第一七六号ニヨリ南京東側地區掃蕩ノタメ午前七時三十分露營地出發硝石村ニ向ヒ前進ス

- 二、午前十一時硝石村ニ到着別紙ノ如ク中隊命令ヲ下達シ配備ヲ完了ス
- 三、午後六時第一小隊中隊主力ニ追及ス
歩兵上等兵 木村 準
- 四、入院中ノ処衛生隊ニテ死亡ス(十二月五日)
- 五、現在員二三三名内入院三九名

- 十二月十七日 晴(金) 於 白水橋
- 一、西作命第一七八号ニヨル配備ニツクヘク午前八時三十分露营地出発白水橋ニ向イ前進ス
 - 午後〇時二十分白水橋着同地附近ノ警備ニ任ス
 - 二、西作命第一七八号ニヨリ第一小隊ヲ南京城内ニ派遣シ宿營準備及糧秣其ノ他物件ノ監視ニ任セシム
 - 三、志賀上等兵以下五名兵站部勤務ヨリ帰隊ス
 - 四、歩兵少尉 松尾 竹雄
歩兵上等兵 米田栄太郎
 - 右ノ者本日退院帰還ス
 - 五、部隊衛兵トシテ直下上等兵以下拾名服務ス
 - 六、現在員二三三名内入院三七名

- 十二月十八日 晴(土) 於 白水橋
- 一、西作命第一八〇号ニヨリ白水橋西北方地区掃蕩ノタメ大西伍長以下二十一名午前八時三十分出発午後〇時二十分帰隊ス
 - 二、歩兵一等兵 湯浅喜代治
 - 入院中ノ処十二月十五日退院本日中午隊へ復帰ス

- 三、勤務員左ノ如シ
1 日直將校 大槻 曹長
同下士官 前原 伍長
同 上等兵 増田上等兵
同 山上下等兵
- 2 部隊衛兵トシテ栗林上等兵以下九名服務ス
- 四、尋常糧秣トシテ二分受領ス
- 五、現在員二三三名内入院三六名

- 十二月十九日 曇(日) 於 白水橋
- 一、南京城内設營ノタメ河北伍長以下二十六名午後二時宿營地出発先行ス
 - 二、勤務員左ノ如シ
1 日直將校 田中 少尉
同下士官 平井 伍長
同 上等兵 下林上等兵
同 神田上等兵
 - 2 部隊衛兵トシテ畑上等兵以下九名服務ス
 - 三、現在員二三三名内入院三六名

- 十二月二十日 曇(月) 於 南京
- 一、西作命第一八一号ニヨリ警備ヲ第二大隊ト交代シ午前十時白水橋出発南京城内ニ向イ前進ス
 - 二、午後一時二十分宿營地ニ到着シ同地ニテ村落露營ス
 - 三、歩兵上等兵 志賀 菊治

○『第九師団作戰經過ノ概要』

その二 第九師団

目 録

- 四、現在員二三三名内入院三一名
- 入院中ノ処本日中午隊ニ復帰ス
- 十二月二十一日 曇(火) 於 南京
- 一、午前九時三十分ヨリ中隊長内務巡視ヲ行フ
- 二、午後一時ヨリ国民大会堂ニ於テ聯隊戦没死者ノ慰靈祭ヲ挙行セラレ勤務ニ支障ナキ將校以下参列ス
- 三、歩兵上等兵 中村 密
同 一等兵 浅田 久雄
同 一等兵 迫田 立夫
- 四、勤務員左ノ如シ
日直將校 松尾 少尉
同下士官 増田 伍長
同 上等兵 長谷川上等兵
同 下野上等兵
- 五、尋常糧秣トシテ三分受領ス
- 六、現在員二三三名内入院二八名

第一章 総 説

第二章 作戰經過

其一 上陸ヨリ広福鎮附近ノ戦闘

其二 陳家行附近ノ戦闘

其三 陳家行附近攻略後走馬塘「クリーク」ニ至ル戦闘

其四 走馬塘「クリーク」附近ノ戦闘

其五 蘇州河附近ノ渡河作戰

其六 蘇州河附近ノ側敵行動間側背掩護情況

其七 戦闘参加ヨリ蘇州附近敵陣突破迄ニ於ケル彼我損害ノ概数

第三章 追撃作戰

其一 中新涇鎮—崑山間

其二 崑山—蘇州間

其三 蘇州—常州間

其四 常州—淳化鎮間

其五 追撃間ニ於ケル補給情況

其六 淳化鎮附近ノ戦闘及追撃

其七 南京城攻撃戦闘

結 言

〔第一・第二章及び第三章其一〜其三略す〕

第三章 其四 常州―淳化鎮間

一、南京ニ向フ追撃発起

1、軍命令ノ概要及師団ノ部署

イ、師団ノ常州附近ニ進出スルヤ先ツ金壇城ニ次テ天王寺ニ更

ニ南京ニト三段ノ追撃命令ヲ受領セリ

ロ、師団ハ前記命令ニ基キ18 i B (欠19 i) ヲ基幹トスル追撃

隊ヲ先遣シ師団主力ハ十二月二日常州出發追撃隊ノ進路ヲ

追撃隊ニ統行セシム

二、追撃間ニ於ケル敵情並友軍ノ状態

1、常州出發當時ニ於ケル一般判断

敵ハ磨盤山系ヲ有力ナル部隊ヲ以テ扼守シ主力ヲ南京附近ニ

集結スルモノト判断セラレタリ

2、追撃間ニ於ケル敵情並友軍ノ状況附図第十一ノ如シ

三、追撃経過

1、(十一月三十日) 師団ハ常州西南部ニ集結中軍命令ニ基キ

18 i B (欠19 i) ヲ基幹トスル追撃隊ヲシテ余壇城ニ向ヒ追

撃セシム

2、(十二月一日) 師団ハ更ニ軍命令ニ基キ主力ヲ以テ金壇城ニ

前進準備中

(十二月二日) 更ニ南京ニ向ヒ追撃スヘキ軍命令ニ接シ追撃

隊ヲシテ引続キ南京ニ向ヒ追撃セシメ主力ハ之ニ統行セリ

3、追撃隊ノ行動

十二月一日 黃塘鎮

十二月二日 金壇城

十二月三日 薛埠鎮

十二月四日 二聖橋

十二月五日 淳化鎮東方地区

以上ノ如ク追撃隊ハ逐次進路上ニ在リシ一部ノ敵ヲ撃攘シツ

ツ一日平均六乃至七里ノ速度ヲ以テ南京城防衛ノ主線タル淳

化鎮附近ノ堅固ナル敵陣ニ対シ率先攻撃ヲ開始スルニ至レリ

4、師団主力亦極力追撃隊ニ追及ヲ努メ(十二月六日) 夕索墅鎮

ニ進出シ6 i B (欠7 i) ヲ先ツ追撃隊ノ右翼ニ展開セシム

其五 追撃間ニ於ケル補給状況

一、中新涇鎮出發以來軍補給点ノ推進ハ師団ノ追撃前進ニ追隨スル

ヲ得スシテ上海附近ヨリ南京ニ至ル約百里ノ間殆ト糧秣ノ補給

ヲ受クルコトナク殆ト現地物資ノミニ依リ追撃ヲ敢行セリ

二、彈薬ノ補給又概ネ糧秣ト同様極メテ不十分ニシテ辛ウシテ蘇州

附近並淳化鎮附近敵陣地攻撃ニ際シ一部ノ補給ヲ受ケタルニ過

キサリキ

三、此間輜重ハ駄馬ノ減耗甚タシカリシニ依リ地方舟小蒸汽船車輔

自動車等凡ユル輸送機関ヲ以テ師団ノ追撃ニ追隨シ補給ニ任セ

リ

第四章 淳化鎮附近ノ戦闘及追撃

一、淳化鎮附近敵陣地ノ状態附図第十二ノ如ク首都南京防衛ノ主線

トシテ一連ノ「トーチカ」陣地ヲ以テ堅固ニ設備セラレ守兵又概

ネ統制ヲ得テ頑強ニ抵抗セリ

二、攻撃戦闘経過

1、(十二月五日) 井出少将ノ指揮スル追撃隊(36 i III/9 BA

基幹) ハ索墅鎮西方敵警戒部隊ヲ駆逐シ淳化鎮附近ノ「トー

チカ」ヲ有スル堅固ナル陣地ニ対シ攻撃ヲ準備ス

2、(十二月六日) 追撃隊ハ淳化鎮ノ敵ニ対シ力攻之努メタルモ

大ナル戦果ヲ見ルニ至ラス

此日師団主力追撃隊ニ追及シ6 i B ヲ右翼隊トシ旧追撃隊ノ

右ニ展開シ山地方面ヨリ攻撃セシム

3、右ノ間II/38 i ヲ基幹トスル部隊ヲ右側支隊トシ索墅鎮―上

七甲村道方面ヨリ中山門ニ向ヒ追撃セシム

4、淳化鎮攻略

(十二月七日、八日) 兩日ニ亘リ当面ノ敵ニ対シ力攻之努メ遂

ニ(十二月八日) 午後二時稍々過36 i 第一線ハ歩、砲、工、飛、

協力ノ下ニ淳化鎮附近ノ敵陣ヲ突破シ一挙敵ヲ急追シ馬鞍山

南麓ニ進出シ該高地附近ニ掘レル敵ニ対シ夜間力攻ニ努ム

此日19 i 主力戦場ニ追及セルヲ以テ直ニ左翼隊ニ増加シ左翼

方面ヨリ追撃ニ移レリ

5、右翼隊方面亦午後三時当面ノ敵ヲ撃破シ追撃ニ移リ本夕刻馬

鞍山東南麓ニ進出シ該高地ヲ占領セル敵ニ対シ夜間攻撃ニ務

ム

6、両翼隊ハ(八日午後十一時) 相前後シテ馬鞍山系ニ掘レル

敵ヲ駆逐シ夜間追撃ニ移リ36 i ハ一挙光華門外ニ敵ヲ急追シ

(十二月九日) 午前五時光華門外「クリーク」ノ線ニ進出セリ

右翼隊ノ35 i 主力ハ(九日) 払曉迄ニ陸軍兵營(中山門東南

方) 附近ニ在リシ敵ヲ撃破更ニ其後方陣地ニ対シ力攻ニ努ム

又7 i ハ35 i ノ左ニ進出シ工兵学校附近ノ敵ニ対シ攻撃ヲ準

備ス

7、19 i ハ淳化鎮―南京道以西ノ地区ヨリ追撃シ(十二月九日)

早朝雨下台附近ノ敵陣地前ニ進出シ之カ攻撃ヲ準備ス

8、當時ニ於ケル軍全般ノ態勢附図第十三ノ如シ

三、本夜間追撃ハ全ク敵ノ不意ニ乘セシ為敵ハ沿道尚灯火ヲ点セル

儘倉惶トシテ退却シ九日払曉後殘敵光華門附近ニ殺到スルノ状

況ヲ呈セリ

第五章 南京城攻撃戦闘

一、南京城内外敵陣地ノ状況附図第十四ノ如ク本陣地ニ掘リ最後ノ

抵抗ヲ行ヒタルハ師団当面ノミニシテ判明セルモノ左ノ如シ

51 D、87 D、88 D 教導総隊等

二、戦闘経過

1、光華門占領

(十二月十日) 両翼隊ハ追撃ニ引続キ必死ノ勢ヲ以テ南京城

攻略ニ努メタル結果左翼隊ノI/36 i ハ此日午後五時他兵団

ニ先チ光華門ヲ占領シ門頭高ク一番乗ノ光輝アル日章旗ヲ掲

クルノ榮譽ヲ担ヘリ

2、(十一月―十二月) 兩日ニ亘リ左翼隊主力ハ一意光華門附近

ノ戦果拡張ニ努メタルモ大ナル成果ヲ収ムルニ至ラス

更ニ砲撃ニ依リ光華門東側ニ突撃路ヲ開設シ(十三日) 午前

十時ヲ期シ決死ノ突撃ヲ再興セント企図シ之カ準備中敵兵退

却ヲ開始セルヲ以テ(十三日) 午前六時光華門両側城壁上ニ

有力ナル部隊ヲ進出セシメ得ルニ至レリ

此間左翼隊ノ一部タル19 i (II 欠) ハ南京附近敵陣地右翼ノ

鎖鑰タル雨下台附近ノ堅陣ヲ力攻シ其東半部ヲ攻略セリ

3、右翼隊方面ニ在リテハ(十二月十日) 以來陸軍兵營西側稜線

ヨリ工兵学校ニ亘ル数線陣地ヲ力攻シ(十一日) 概ネ中山門

東方五〇〇米ノ稜線ヨリ工兵学校西側「クリーク」ノ線ニ進出シ一意城壁占領ニ努メタルモ幅七〇米ニ及フ水濠ニ拒マレ戦況意ノ如ク進展セス

(十二月十二日) 主力砲兵ニ依ル突破孔構成ニ次キ(十三日) 払曉ヨリ決死ノ突撃ヲ準備シツ、アル間夜半敵火減少シ敵兵退却ノ徴アリシヲ以テ直ニ攻撃ヲ再興シ(十三日) 午前六時中山門ヲ占領セリ

此間III/35 iハ独断敵陣地ノ左翼拠点タル紫金山攻撃ニ努メ(十二月十日) 午前十一時三十分先ツ△三八二・五高地ノ要點ヲ奪取シ軍全般ノ攻撃ヲ容易ナラシメタリ

4、南京占領

以上ノ如クシテ(十二月十三日) 午前八時迄ニハ完全ニ師団正面ニ於ケル城壁上ニ日章旗翻騰トシテ驕リ茲ニ敵ノ首都南京城ハ完ク我手ニ帰シ世界青史ニ光輝アル一頁ヲ飾ルニ至レリ

5、

本攻撃ニ當リ(十二月十一日) 以来15 H 10 K 15 K 24 H等ノ重砲部隊ノ協力ヲ得丈ナス城壁ニ三個ノ突撃路ヲ開設スルヲ得タリ

三、城内掃蕩

師団ハ爾後右翼隊主力ヲ以テ城内ノ掃蕩ニ當リ七千余ノ敗残兵ヲ殲滅セリ

四、本戦闘ニ於ケル彼我ノ損害左ノ如シ(淳化鎮附近ヲ含ム)

友軍 死者 將校以下 四六〇名
傷者 將校以下 一、一五六名
敵軍 死体 四、五〇〇他ニ城内掃蕩数 約 七、〇〇〇

1、中山門附近ノ戦闘

十二月七日聯隊ハ右翼隊トナリ追撃隊ノ右ニ展開シ双庄下庄ニ亘ル敵陣地ヲ攻撃スヘキ命ヲ受ク第一大隊ハ午後四時徐塩ノ敵陣ヲ占領ス

八日午後十一時三十分馬鞍山ノ敵ヲ撃退直チニ中山門ニ向ヒ追撃ニ移ル十二月九日払曉聯隊ハ紅土山東方台上ニ進出ス午後二時頃前面ノ敵ヲ撃破シ陸軍兵營ニ進出シ兵營西側地区ニ陣地ヲ占領セル敵ニ對シ攻撃ヲ準備ス第三大隊ハ午前十一時第一大隊ノ右翼ニ進出中旅団命令ニ依リ紫金山ヲ攻撃ス

第二大隊ハ支隊ノ任務ヲ終リ此夜遅ク聯隊ニ復帰シ直チニ右第一線トシテ第一大隊ノ右翼ニ展開セシム第一線兩大隊ハ十日払曉以來極力攻撃ニ努メタルモ敵ハ三線ニ陣地ヲ占領シ各線掩蓋機關銃座及一連ノ鉄条網ヲ有シ且紫金山々系一帯ヨリ歩砲火ヲ受ケ攻撃ノ進捗意ノ如クナラス十一日払曉來敵陣地ノ強行突破ヲ企圖シ山砲兵大隊輕裝甲車中隊各種火器ヲ以テ敵ヲ制圧シ砲兵ノ集中射撃ニ引続キ午後二時鉄条網ヲ強行破壊シツ、突撃ニ移リ第一線陣地ヲ突破シ続イテ第二線第三線陣地ヲ攻略シ午後三時三十分揚家庄東側高地ノ線ニ進出シ中山門東側台地ノ敵ニ對シ攻撃ヲ続行ス十二日南京城ヲ眼下ニ猛攻ヲ続ケタルモ右側山地方向ヨリ側射ト城門前ノ頑強ナル敵ノ抵抗ニヨリ未タ中山門ニ向ヒ突進スルニ至ラス當時第十六師団ハ中央運動場附近ニアリテ未タ進出シ來ラス此夜聯隊ハ明払曉強力中山門一帯ノ城壁占領ヲ企圖シ城壁攻撃ノ諸材料ヲ整備シ極力敵狀地形ヲ搜索中夜半ニ至リ敵ノ銃声頓ニ衰

ヘタルヲ以テ敵兵退却セルモノト判断シ斥候ヲ派遣スルト共

2、紫金山附近ノ戦闘

第三大隊ハ九日午前十一時第一大隊ノ右ニ展開シ当面ノ敵ヲ攻撃中午後零時三十分第三大隊ハ紫金山ヲ占領シ第十六師団ノ進出ヲ掩護シ且敵ノ退路ヲ遮断スヘキ命ヲ受ク當時上石垭万家樓紫金山東部一帯ノ敵ハ兵力三大隊ヲ下ラス堅固ナル陣地ニ抛リ頑強ニ守備シアリ大隊ハ直ニ戦闘ヲ開始シ頑敵ヲ逐次撃破シ薄暮中山路ニ沿フ一帯ノ敵陣地ヲ奪取ス大隊ハ主力ヲ万家樓南側地区ニ集結シ明日ノ紫金山攻撃ヲ準備ス十日午前七時第九中隊ハ馬群北方高地ヲ奪取大隊長ハ第九中隊ヲ遠ク黃馬方向ニ迂回シ側面ヨリ紫金山△三八二・五高地ヲ攻撃セシム各種重火器及大隊主力ハ馬群北方高地ニ進出シ之ニ協力セシム大隊長ハ第一線ニ進出シ高地上ニ在リテ午前十時三十分第十二中隊ヲ第九中隊ノ左ニ展開前進ヲ命セントスル際敵機関銃頭部ヲ貫通シ壯烈ナル戦死ヲ遂ク第九中隊ハ敵ノ逆襲ヲ撃退シツ、敵陣地ヲ側面ヨリ攻撃シ手榴彈戰ヲ交ヘ接戦格闘午前十一時紫金山三八五・五高地ヲ占領ス

大隊ハ第十二中隊ヲ第九中隊ノ左ニ展開攻撃前進中聯隊命令ニ依リ第十六師団ノ進出ト共ニ該正面ヲ交代シ陸軍兵營ニ集結シ聯隊予備隊トナル(要圖第六参照)

之ヲ要スルニ師団カ戦闘開始以來終始第一線兵團トシテ先ツ上海附近ニ於テハ將兵一万二千馬一千六百ノ犠牲ヲ出シ死山ヲ築キ血河ヲ作リツ、尚常ニ軍ノ中心推進力トナリ次テ長驅南京追撃戰ニ移ルヤ更ニ軍ノ先鋒トナリ遂ニ首都南京城攻略ニ當リテハ先頭ノ第一位ヲ占メ光輝アル感狀ヲ拝受スルニ至リタル之一重ニ

第六章节 結 言

○歩兵第三十五聯隊『上海附近・南京附近 戦闘經過概要』

一、二、三略
四、南京附近ノ戦闘(自十二月七日至十二月十五日)

ニ第一線部隊ハ勇躍前進ヲ開始セリ斯克テ十三日午前五時三十分將校斥候ハ城壁ヲ占領シ第二中隊ハ午前七時中山門ヲ完全占領ニ引キ続キ兩大隊主力城壁ヲ占領聯隊本部ハ午前十一時三十分軍旗ヲ先頭ニ中山門ヨリ堂々敵國首都南京ニ入城セリ

○歩兵第七聯隊「戦闘詳報」

自昭和十二年十二月七日
至同 十二月二十四日

十二月十二日 快晴

一、聯隊ハ概ネ十一日夜ノ態勢ニアリテ前面ノ城壁「クリーク」ノ状況ヲ偵察攻撃材料ノ整備等攻撃ノ準備ヲ行ヒツ、城壁ノ破壊口完成ヲ待ツ

第三中隊ハ工兵学校ノ掃蕩ヲ実施ス 此ノ間屢々敵ノ野山砲、迫撃砲ノ砲撃ヲ受ク

二、聯隊長ハ午前十時以來工兵学校西側高地ニ在リ午前十一時頃來着セラレタル旅団長ト共ニ城壁破壊ノ状況ヲ視察セシカ砲兵ノ聯隊正面ニ作リツ、アル二ヶノ破壊口ハ何レモ不完成ニシテ突入スルヲ得ス(午後ニ至リ一ヶハ大ナル危険ヲ冒セハ単独兵ヲ以テ漸ク攀登シ得ル程度ニシテ他ノ一ヶハ全然攀登シ得ス)將兵一同切齒扼腕スルモ致シ方ナシコ、ニ於テ聯隊長ハ敵猶頑強ニ抵抗スル場合ニハ明十三日再ヒ重砲ヲ以テ破壊口ヲ造リタル後突入スヘク決心シ重砲兵ト城壁ノ破壊ニ付所要ノ協定ヲ行フ

十二月十三日 快晴

一、本日ノ戦闘経過別紙附図第八ノ如シ

二、昨十二日ノ砲撃ニ依ル破壊口ハ不完全ナルモ我第一線ハ城壁前約四、五百米ノ線ニアリテ突撃ノ機ヲ窺ヒツツアリ、夜半ノ銃声モ曉近クナルニ從ヒ次第ニ少ク戰場寂タリコノ状況ヲ看破セル第一中隊ハ先ツ後庄ヲ攻撃シ午前五時大ナル抵抗ヲ受クルコ

トナク之ヲ奪取ス、コレヨリ先第一中隊長ハ城壁破壊口ノ情況並ニ其到達線ノ搜索斥候ヲ派遣ス右斥候ハ敗殘兵ヲ驅逐シ歩兵第三十五聯隊正面ノ(イ)破壊口ニ日章旗ヲ掲ケ時ニ午前六時二十五分頃ナリ

午前五時頃第一大隊長ハ戰場沈静トナレルヲ以テ直ニ第一線タル第一第二中隊ノ命令受領者ヲ集メ中隊ニ連絡シ現況ヲ報告スヘキヲ命ス、第二中隊ノ命令受領者ハ大隊命令ヲ伝達スヘク後庄ニ至リタルニ同地ニ於テ中隊ヲ発見セス依テ中隊ハ既ニ城内ニ入りタルモノト判断シ折カラ同地ニ來リシ第一中隊ノ伝令ト共ニ三名ニテ(イ)破壊口ニ上リテ国旗ヲ掲揚セントセシ所後方ヨリ射撃ヲ受ケ歸來ス、時ニ午前六時十五分ナリ

三、右ノ如キ状況ニテ敵退却セルヲ発見セル第一線各隊ハ城壁ニ向ヒ攻撃前進第一中隊ノ先頭ヲ以テ午前七時二十分先ツ(イ)破壊口ヨリ第七中隊ノ斥候ヲ以テ同時刻(イ)破壊口ヨリ突入引続キ(イ)破壊口ヨリハ各大砲隊主力及歩兵第三十五聯隊相踵イテ進入(イ)破壊口ヨリハ第三大隊ノ一コ小隊第三大隊本部進入シヨムニ中山門南方城壁ヲ確實ニ占領ス

聯隊長ハ軍旗ト共ニ(イ)破壊口ヨリ進入シ南京城壁上高ク日章旗ヲ掲ケタリ、時ニ午前十時三十分ナリ、

四、午前十一時三十分飛行場西側「クリーク」ノ線迄敵ヲ追撃スヘキ右翼隊命令(六旅作命第一三三七号ノ要旨ヲ受領直ニ別紙歩七作命甲第一〇四号ヲ下達シ右ヨリ第二、第一大隊(第四中隊欠)ヲ第一線第三大隊ヲ旅団予備トナシ追撃開始午後一時概ネ予定線ニ到着ス

五、十一日乃至十三日通信網別紙附図第九ノ如シ

極秘

歩七作命甲第一〇四号

十二月十三日午後二時
於 南京中山門南方城壁聯隊本部

一、右翼隊ハ当面ノ敵ヲ擊破シ中山門西方約二軒南北ヲ流ル、「クリーク」ノ線ニ進出ス

左翼隊トノ戦闘地境ヲ外五竜橋(中山門西方約一軒)及其西方「クリーク」ノ線ニ延伸セラル

線上ハ左翼隊ニ含ム

二、聯隊(第三大隊ヲ欠キ配屬部隊故ノ如シ)ハ依然左第一線トナリ外五竜橋以北ノ地区ニ転移シ「クリーク」ノ線ニ向ヒ敵ヲ追撃セントス

歩兵第三五聯隊第一大隊ハ右第一線トナリ中山道ニ沿フ地区ヲ「クリーク」ノ線ニ向ヒ追撃ス

一、第一線ノ戦闘地境ヲ飛行場中央ニ連ナル線ニ延伸ス

二、第二大隊ハ右第一線トナリ銅心管橋、外五竜橋、復成橋以北ノ地区ヨリ「クリーク」ノ線ニ向ヒ前進スヘシ

三、第一大隊(第四中隊欠)ハ左第一線トナリ外五竜橋西方橋梁ヲ經テ「クリーク」ノ線ニ向ヒ前進スヘシ

四、第二大隊ハ特ニ有力ナル一部ヲ以テ前進地域ヲ掃蕩シ一部ヲ以テ機ヲ失セス「クリーク」對岸ヲ占領スヘシ

五、兩大隊ノ戦闘地域ノ境界左ノ如シ

六、兩大隊ノ復成橋ヲ連ナル線、線上ハ第二大隊ニ屬ス

七、山砲兵第一中隊ハ飛行場ノ陣地ヲ占領シ第一線追撃ヲ支援スヘシ

八、第四中隊歩兵砲中隊工兵小隊ハ予備隊トナリ

九、予ハ予備隊ト共ニ前進ス

聯隊長 伊佐大佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

注意

一、城内ノ戦闘ニ方リテハ別紙南京入城ニ関スル軍司令官ノ注意事項ヲ敵守シ特ニ古物保存場ニ立入ヲ禁ス

城内掃蕩

十二月十三日 晴

一、午後五時頃城内掃蕩ニ関スル別紙六旅作命第一三三八号ヲ受領直ニ歩七作命甲第一〇五号ヲ下達シ聯隊(第三大隊ヲ復掃セシメラレ工兵一中隊(一小隊欠)、戰車一中隊(一小隊欠)ヲ屬ス)ハ直ニ部隊ヲ飛行場西側地区ニ集結シ掃蕩ヲ開始シ十四日午前三時前後各々終了掃蕩ス

二、午後九時三十分明日ノ掃蕩ニ関スル別紙歩七作命甲第一〇六号ヲ下達ス

〔六旅作命甲第一三八号は五五〇頁ニ掲載〕

極秘

歩七作命甲第一〇五号

歩兵第七聯隊命令

十二月十三日午後五時三十分
於 南京第一公園北側聯隊本部

- 一、右翼隊ハ師団掃蕩隊トナリ担任区域内ヲ掃蕩セントス
- 二、聯隊(戰車一中隊工兵一中隊(各一小隊欠)ヲ屬セラル)
- 三、各大隊(工兵各一分隊ヲ屬ス)ハ別紙区域内ノ掃蕩ヲ実施スヘシ其ノ兵力ハ約三分ノ二ノ兵力ヲ使用スヘシ
- 四、戰車中隊(工兵小隊長ノ指揮スル二分隊ヲ屬ス)ハ別ニ示ス道路上ノ掃蕩ニ任スヘシ
- 五、爾余ハ予備隊トナリ現在地附近ニアリテ待機スヘシ
- 六、予ハ第一公園北側ニ在リ

聯隊長 伊佐大佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

極 秘

歩七作命甲第一〇五号追加

歩兵第七聯隊命令

十二月十三日午後十一時
於 南京東部聯隊本部

- 一、各隊大行李ハ当分ノ内中山門東方兵營附近ニ位置スヘシ

十二月十四日 会報

- 一、本十四日師団司令部ヨリ今次掃蕩間通訳二名ヲ当隊ニ配属セラル

極 秘

歩七作命甲第一〇六号

歩兵第七聯隊命令

十二月十三日午後九時三十分
於 南京東廠街聯隊本部

- 一、聯隊ハ明十四日引続キ担任地区内ノ掃蕩ヲ実施セントス
 - 二、各大隊ハ左記ニ基キ掃蕩ヲ実施スヘシ
 - 1 掃蕩区域別紙要図ノ如シ
 - 2 掃蕩ニ用フル兵力ハ歩兵中隊及機関銃中隊ヲ主トシ必要ニ応シ其他ノ部隊ヲ用フ
 - 3 掃蕩隊ハ午前九時宿营地出發夕刻迄ニ掃蕩スヘシ
 - 4 掃蕩ニ当リテハ旅団長ヨリ与ヘラレタル「掃蕩実施ニ関スル注意」ヲ厳守スヘシ
 - 5 右掃蕩隊服装ハ軍装ニシテ背囊ヲ除ク
 - 6 掃蕩ノ結果ハ各大隊毎ニ取纏メ報告スヘシ
 - 三、戰車第一中隊(一小隊欠)ハ明十四日午前十時宿营地出發担任区域ノ外圍ニ沿フ主要道路ヲ掃蕩掃蕩スヘシ
 - 四、工兵中隊(一小隊欠)ハ一部ヲ殘置シ主力ヲ以テ午前八時宿营地出發担任区域内ノ主要道路及広場等ニ於ケル地雷ノ索出及之ヲ撤去ニ任スヘシ
 - 五、各大隊ハ其担任区域内ニ別紙要図ノ如ク衛兵ヲ配置シ担任区域内ノ警備軍紀風紀ノ保持ニ任セシムヘシ
- 之カ為屢々巡察ヲ派遣スル外國權益ノ建物中重要ナル箇所及銀行錢莊等ニハ歩哨ヲ配置スヘシ
- 右衛兵ノ交代時刻ハ毎日午後三時トシ其ノ服装ハ軍装トシ

立哨中ノ者ハ背囊ヲ除ク但シ明十四日ハ午前八時宿营地出發配置ニ付クヘシ

- 六、爾余ノ部隊ハ所要ニ応シ直ニ出動シ得ル如ク宿营地ニ待機スヘシ
- 七、予ハ南京廠街ニ在リ

聯隊長 伊佐大佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

注 意

- 1 担任区域内ニ無用ノ軍人ヲ立チ入ラシメサルコト
- 2 言語不通ノ為外國人トノ間ニ誤解ヲ生シ衝突スルカ如キコトヲ戒ムルコト

十二月十四日 快晴

- 一、聯隊(戰車第一中隊(一小隊欠)工兵中隊(一小隊欠)ヲ屬ス)ハ昨十三日歩七作命第一〇六号ニヨリ城内担任区域ノ掃蕩ヲ実施ス

- 二、午後一時四十分別紙歩七作命甲第一〇七号ヲ下達ス
- 三、午後九時別紙六旅作命第一三九号ヲ受領之ニヨリ別紙歩七作命甲第一〇九号ヲ下達ス

極 秘

歩七作命甲第一〇七号

歩兵第七聯隊命令

十二月十四日午後一時四十分
於 南京東部聯隊本部

- 一、各隊ハ其担任掃蕩地区内ニ兵力ヲ集結シ掃蕩ヲ続行スヘシ尚ホ掃蕩地区内ニハ歩七(配属部隊ヲ含ム)外ノ部隊ノ勝手ナル行動ヲ絶対ニ禁止スヘシ
- 二、各隊ノ俘虜ハ其掃蕩地区内ノ一カ所ニ收容スヘシ之ニ対スル食料ハ師団ニ請求スヘシ

十二月十四日 会報

- 一、歩七ハ南京ニ宿營セシモノニ非ス掃蕩隊トシテ入城シタルモノナルコトヲ忘ルヘカラス
- 二、外國權益内ニ殘兵多数アル見込ナルモ之ニ対シテハ語学堪能者ヲ撰拔シ之ニ当ランシムル管ナルニ付各隊トシテハ外方ヨリ之ヲ十分監視シ置クヘシ

〔六旅作命第一三九号は五五一頁に掲載〕

極 秘

歩七作命甲第一〇九号

歩兵第七聯隊命令

十二月十四日午後十時
於 南京東部聯隊本部

- 一、九師作命号外ニヨリ師団掃蕩隊及城内集結部隊ノ外城内ニ入ルヲ禁シ且ツ掃蕩隊以外ノ城内集結部隊ハ宿营地附近ヨリ以外ノ地域ニ行動ヲ禁止セラル
- 師団掃蕩隊ハ速ニ殘敵ノ掃蕩ヲ企図ス

二、聯隊(新ニ輕裝甲車一中隊ヲ配屬セラル)ハ明十五日中ニ殘敵ヲ掃蕩シ以テ南京城占領ヲ確實ナラシメントス
三、各隊ハ依然前任務ヲ履行シ速ニ殘敵ヲ掃蕩スヘシ輕裝甲車中隊ハ午後九時宿營地出發掃蕩担任区域内ノ主要ナル二条実線路ヲ掃蕩掃蕩スヘシ
右ノ外各大隊ハ対空監視及射撃ニ関スル区署ヲ実施シ速ニ報告スヘシ

四、予ハ明十五日午後現在地出發シ第一大隊掃蕩地区内ニ至ル

聯隊長 伊佐大佐

下達法

命令受領者ニ印刷交付ス

十二月十五日 晴

一、六旅作命第一四一号ニヨリ聯隊ニ配屬中ノ工兵第一中隊(一小隊欠)ハ午後原所屬ニ復歸ス

二、午後八時三十分掃蕩ニ関シ別紙歩七作命甲第一一一号ヲ下達ス
三、十三日乃至十五日ノ通信網別紙附圖第十ノ如シ

極 秘

歩七作命甲第一一一号

歩兵第七聯隊命令

十二月十五日午後八時三十分
於 南京東部聯隊本部

一、本十五日迄捕獲シタル俘虜ヲ調査セシ所ニ依レハ殆ト下士官兵ノミニテ將校ハ認メラレサル情況ナリ

將校ハ便衣ニ更ヘ難民地区ニ潜在シアルカ如シ

二、聯隊ハ明十六日全力ヲ難民地区ニ指向シ徹底的ニ敗殘兵ヲ捕捉殲滅セントス
憲兵隊ハ聯隊ニ協力スル筈
三、各大隊ハ明十六日早朝ヨリ其担任スル掃蕩地区内ノ掃蕩特ニ難民地区掃蕩ヲ履行スヘシ
第三大隊ハ部下各中隊ヨリ各一小隊ヲ出シ第一大隊長ノ区署ヲ受ケシムヘシ

四、戰車第一中隊及輕裝甲車第七中隊ハ待機スヘシ

五、予ハ十六日午後以後最高法院西方約一軒赤壁路聯隊本部ニ在リ

聯隊長 伊佐大佐

下達法

命令受領者ニ印刷交付ス

十二月十六日 晴

一、担任地区特ニ難民区ノ掃蕩ヲ実施ス

二、聯隊ハ別紙六旅作命第一四四号ニヨリ午後別紙附圖第十一ノ位置ニ移動シ掃蕩ヲ履行ス
〔六旅作命第一四四号は五五一頁に掲載〕

〔附圖 略〕

十二月十七日 晴

一、第三大隊ハ概ネ掃蕩区域内ノ掃蕩ヲ完了ス

十二月十八日 曇後雨

一、午後四時三十分聯隊ニ配屬中ノ戰車第一大隊第一中隊ヲ午後十

一時獨立輕裝甲車第七中隊ヲ即時原所屬ニ復歸セシムヘキ掃蕩隊命令(六旅作命第一四七号及一四八号)ヲ受領シ別紙歩七作命甲第一一四号一五号ヲ下達シ各々原所屬ニ復歸セシム

極 秘

歩七作命甲第一一四号

歩兵第七聯隊命令

十二月十八日午後五時
於 南京赤壁路聯隊本部

一、戰車第一大隊第一中隊ノ配屬ヲ解ク

聯隊長 伊佐大佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

極 秘

歩七作命甲第一一五号

歩兵第七聯隊命令

十二月十八日午後十一時
於 南京赤壁路聯隊本部

一、獨立輕裝甲車第七中隊ノ配屬ヲ解ク
現在地ニ於テ軍ノ直轄トナルヘシ

聯隊長 伊佐大佐

下達法

筆記セルモノヲ交付ス

十二月十九日 晴

〃 二十日 曇

〃 二十一日 晴
〃 二十二日 晴
〃 二十三日 曇後雨

一部ヲ以テ引続キ掃蕩ヲ実施ス

十二月二十四日 曇

一、午後五時聯隊ハ掃蕩隊ノ任務ヲ解除セラレ第十六師團ニ引繼ヲナスヘキ旅團命令(六旅作命第一五二号)ヲ受領之ニヨリ別紙七作命第一一七号ヲ下達ス
二、十三日乃至二十四日ニ於ケル掃蕩ノ成果別表ノ如シ

極 秘

歩七作命甲第一一七号

歩兵第七聯隊命令

十二月二十四日午後六時
於 南京赤壁路聯隊本部

一、掃蕩隊ノ任務ヲ解除セラル

第十六師團ハ本二十四日ヨリ城内ノ掃蕩ヲ実施ス

二、各大隊ハ爾今掃蕩ノ任務ヲ解除ス仍テ第十六師團ノ部隊ニ所要ノ引繼ヲナスヘシ
三、予ハ二十六日出発迄依然現在地ニ在リ

聯隊長 伊佐大佐

下達法

印刷交付ス

第五 戦闘後ニ於ケル彼我形勢ノ概要

本戦闘ニヨリ敵ハ首都ヲ失ヒ且人的物質方面ニ多大ノ損害ヲ受ケ速ク逃走スルト共ニ南京城内ノ残敵ハ略完全ニ掃蕩ヲ完了セリ

第六 齟齬過失其他将来ノ参考トナルヘキ事項

1、本戦闘前半ニ使用シタル地図ハ不正確不鮮明ナル五万分ノ一ノ地図(支那軍ノ使用セルモノヲ再版シタルモノ)ニシテ後半(十二月十日以後)ニ於テ初メテヤム正確ナル二万五千分ノ一地形図ヲ使用スルヲ得タリ而シテ其部数ハ五万分ノ一ハ聯隊ニ八部二万五千分ノ一ハ四部ノミニシテ不便甚タ多ク輕快ナル戦闘指揮連絡ニ支障ヲ来セシ事大ナリ

地図整備ト之カ迅速ナル補給ニ注意スルノ要アリ

戦闘詳報附表左ノ如シ

死傷表	附表	其一
兵器損耗表	附表	其二
鹵獲表	附表	其三

戦闘詳報第七号附表 其一

昭和十二年 自 十二月二十六日 至 十二月二十四日 間 歩兵第七聯隊死傷表

備考	總計	歩兵砲隊	第三大隊	第二大隊	第一大隊	聯隊本部	部 隊			死	傷			生死不明				
							將校	准以士官下	馬匹		將校	准以士官下	馬匹	將校	准以士官下	馬匹		
1 但シ第三大隊ハ七日夕ヨリ旅団予備隊タリ九日聯隊ニ復帰ス	81	3	26	23	23	6	將校	准以士官下	馬匹	5	85	1	7	130	3			
1 山砲兵第一中隊……七日ヨリ十三日迄配属セラル	2,593 (503)	111 (17)	845 (107)	789 (134)	767 (108)	81 (137)	馬匹	准以士官下	馬匹			1 (31)						
工兵小隊	75 (140)	9 (1)	20 (7)	3 (39)	36 (48)	7 (35)	將校	准以士官下	馬匹				2	6				
戦車中隊							將校	准以士官下	馬匹				2					
輕装甲車中隊							將校	准以士官下	馬匹				2	29				
城内掃蕩ニ協力ス							將校	准以士官下	馬匹				2	44				
							將校	准以士官下	馬匹				1	50 (1)	3 (1)			
							將校	准以士官下	馬匹									
							將校	准以士官下	馬匹									
							將校	准以士官下	馬匹									

〔編注〕()は行李、輜重の人馬及馬取扱兵等の数を示す

昭和十二年 自十二月二十四日 間 戰闘將校戰死傷人名表

備考	戰 死					戰 傷		
	階級	氏名	隊号	階級	氏名			
	少尉	板本伊三雄		少尉	的場弘喜			
	少尉	藤岡清		大尉	西野恒夫			
	少尉	柳川正治	6	少尉	中森曠			
	少尉	清水彦治	6	少尉	村本米造			
	少尉	柏谷信治	III MG	少尉	東方喜久			
				少尉	西出一郎			
				少尉	竹中末吉			

戰闘詳報第七号附表其二
昭和十二年 自十二月二十四日 步兵第七聯隊兵器損耗表

第二大隊	第一大隊	聯隊本部	部 隊		種類
			區 分	種類	
29,358	29,898	20	輕機関銃実包	彈 藥	消 費
			小銃実包		
15,900	12,640		重機関銃実包		
196	22		擲彈筒榴彈		
126	55		曲射歩兵砲彈		
			平九式速射榴彈		
			手榴彈		
705	88		拳銃彈	武 器	損 失
80	50		小銃		
30(5)	8(2)		輕機関銃		
			重機関銃		
			擲彈筒		
			曲射歩兵砲		
			平九式速射歩兵砲		
	2		銃劍		
	1		小円匙		
	1		小十字		
			小銃実包	彈 藥	
			輕機関銃実包		
			擲彈筒榴彈		
			手榴彈 其他		

備考	總計	歩兵砲中隊	第三大隊	第二大隊	第一大隊	本部	部隊区分		種類	
							將	校		
21 右ノ外鉄帽 敵遺棄死体 第一大隊方面 第二大隊方面 第三大隊方面 馬具、土囊等若干ヲ鹵獲ス 計五〇五個アリ							將	校	俘虜	
							准下	士官		
							馬	匹		
		43			43			小銃	銃	戦利品
		139		40	65	54		輕機関銃	銃	
		6		1	3	2		重機関銃	銃	
		2			2			拳銃	銃	
		108		4	24	80		砲		
		8,300		2,000	3,500	2,800		実包	弾	
								砲	具	
		130		20	60	50		糧秣		
								手榴弾		
	100		30	30	40					

戦闘詳報第七号附表 其三

昭和十二年 自十二月七日 至十二月十三日 間 歩兵第七聯隊鹵獲表

備考	總計	第 i A 小隊	第 M G 中隊	歩兵砲中隊	第三大隊	
1 損失武器中平射(-)ハ要修理トス 2 損失兵器ハ主トシテ戦死傷者ノ携行セルモノニシテ大部分戰場掃除ヲ実施シ南京ニテ返納ス 3 8(2)ハ損失兵器(8)ノ中破損若クハ遺棄(2)遺棄(1)ナルヲ示ス 4 右表ハ概数トス	70,832				11,556	
		33,470				4,930
		225				7
		211				30
		(平) 240			(平) 240	
		793				
		160				30
		38(7)				
		(平) 1			(平) 1	
		5				3
		5				4
		1				
	315				315	
	8				8	
	78				78	

自十二月十三日 南京城内掃蕩成果表 步兵第七聯隊
至十二月二十四日

一、射耗彈	小銃	五、〇〇〇發		
	重機関銃	二、〇〇〇發		
二、刺射殺數(敗殘兵)		六、六七〇		
三、鹵獲品				
	(品目)	(數量)	(品目)	(數量)
	十五種砲	二門	同彈藥約	六〇〇發
	二十種級砲	八門	同彈藥	約一、〇〇〇發
	小銃	九六〇挺	同実包	三九万發
	水冷式重機関銃	一二挺	輕機関銃	三三三挺
	拳銃	一〇三挺	同彈藥	二六一、三五〇發
	高射砲	一門	高射機関銃	一挺
	山砲	六門	同彈藥	八二發
	迫撃砲	一〇門	同彈藥	五七、二一八發
	戰車砲彈	三九、〇〇〇發	銃劍	三二〇挺
	手榴彈	五五、一二二發	青竜刀	二、〇二〇振
	防毒面	約七〇〇個	鉄条銃	七〇〇挺
	爆彈	七〇個	電話線	二〇〇卷
	鉄帽	一、九〇〇個	將校用軍刀	一振
	指揮刀	二〇〇振	信号短銃	八〇〇挺
	信号彈	三〇〇發	空包	三、五〇〇發
	小銃彈藥盒	一〇、〇〇〇個	円匙	一、七〇〇挺
	大十字鍬	二、一三五挺	小十字鍬	三、〇七〇挺
	喇叭	四〇個	大斧	四、〇五〇挺

小斧	一、〇〇〇挺	無電機	一台
駄鞍	五〇〇個	乘鞍	三五八個
地雷	五箱	火藥	六〇箱
向光彈	一五二箱	爆藥	三箱
對戰車砲	二門	戰車	四台
機関砲	一門	自動貨車	一六台
乘用自動車	九台	人員輸送車	三台
側車附自動二輪車	四台	乾パン	一、六〇〇箱
毛布	数千枚	防寒外套	六、二二〇枚
同チヨッキ	一、三〇〇枚	軍帽	一、二〇〇個
卷脚絆	一、一一〇個	編上靴	一、〇〇〇足
長靴	七〇〇足	運動靴	三、〇〇〇足
風呂敷	五〇〇枚	夏衣袴	二五、三〇〇着
襦袢袴下	二五、六〇〇着	雜囊	一、〇〇〇個
水筒	四〇〇個	軍衣袴	六、六九五着
便衣服	二、三〇〇着	蹄鉄	四九箱
秘密書類	三箱	秘密地図南京附近	若干
		二万五千分ノ一其他	
馬匹	六〇頭	外被	三、〇〇〇着
背囊	二、五三〇個	鉄線	三九卷
天幕	一、三四〇個	敷布	二、〇〇〇枚
飯盒	一、〇〇〇個		

○輜重兵第九聯隊『行動詳報』

自昭和十二年十二月六日
至同十二月二十一日

南京附近ノ戦鬪ニ於ケル輸送業務

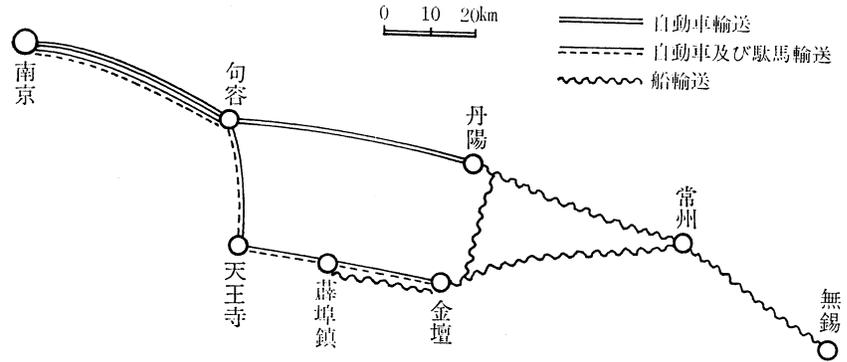
一、[略]
二、期間
自昭和一二・一二・二六
至昭和一二・一二・二二
三、本期間ニ於ケル行動ノ概要
十二月五日先ツ金壇ニ於テ聯隊ヲ掌握シ爾後水路輸送ニ依リ薛埠鎮ニ軍需品ヲ輸送集積スルト共ニ駄馬部隊主力ヲ薛埠鎮ニ前進セシメ爾後軍需品ノ集積ニ伴ヒ逐次師団ニ追及シ補給ニ任スルニ決ス
之カ為一ヨ中隊ヲ師団直轄トシテ追撃隊ニ追隨セシメ適時適切ナル補給ヲ実施セシムルト共ニ更ニ二ヨ中隊ヲ先進セシメテ師団司令部ニ直接連絡セシメテ師団ノ補給ヲ円滑ナラシム而シテ右ノ中隊ハ各々追撃隊師団主力ニ追隨シ、前進屢々敵ノ妨害ヲ排除シ、一意前進補給ニ努メ追撃隊並師団主力ノ南京攻撃ニ於テ句容南京間ノ軍需品ノ輸送ニ全力ヲ尽シ師団ノ戦鬪力ヲ増強シ其ノ活動性ヲ保有セシメタリ
馬廠ハ師団直轄トナリテ病馬ノ治療收容ニ任ズ
駄馬部隊ノ主力ハ薛埠鎮ニ軍需品ノ集積成ルヤ約五十軒ノ間ヲ連日行動シ、糧秣彈藥ノ輸送ヲ実施シ薛埠鎮ニ輸送ナキ時ハ更ニ金壇迄迂リ補充シ張廟野戰倉庫間ノ輸送ニ任ス此ノ間行程

距離ハ八十軒ニ及ブ
自動車班ノ追及シ来ルヤ之ヲ以テ主トシテ金壇一張廟野戰倉庫間及同句容間ノ輸送ヲ実施ス而シテ水路輸送隊カ丹陽ニ集積ヲ開始スルヤ丹陽一旬容間ノ長距離輸送ヲナシテ輸送ニ努ム
當時兵站ハ推進全ク望ナク水路輸送隊ハ常州或ハ無錫ニ至リテ補充ヲナン初メ金壇ニ後ニ丹陽ニ軍需品ヲ集積ス
補給路ノ延長実ニ一八〇軒ニ及ベリ
南京攻略後掃蕩ヲ開始スルニ至リ漸ク一部兵站ハ旬容ニ推進セラレ爾後旬容一南京間ヲ二区間ニ分チテ区間輸送ヲナス而シテ一部兵站推進サレタリト雖モ補充ヲナスニ充分ナラザルヲ以テ水路輸送隊ノ丹陽附近ニ集積セルモノヲ旬容ニ前進シ更ニ旬容南京間ヲ区間輸送ヲナス
四、難易ノ度
兵站ノ推進望全クナキト補給路ノ延長百八十軒ニ及ブ時ニ於テ輸送補給ヲ実施シテ補給ノ円滑ヲ図ラントスルコト容易ナル業ニアラサルヲ痛感セリ然モ一部ノ如キハ第一線ノ果敢ナル進撃ニ追及シテ前進スル時屢々敵ト衝突シ裝備不十分ノ部隊ヲ以テ之ヲ排除シ、遲滞ナキ補給ヲ実施シ或ハ又夜間臂力ヲ以テ輸送スル等所謂大局ヨリ見タル犠牲心ノ発露ニ依ルニアラズンバ之ヲ完全ニ遂行シ得サル所ナリ
而シテ尚先進セルモノ及配属ノ輜重三ケ中隊ヲ統一スルモノナキ時ニ於ケル状況判断任務達成ハ極メテ困難ナリキ

五、成果

師団ハ各所ニ於テ糧秣ノ主食ハ之ヲ蒐集シ得タルモ副食物ニ於テハ全クナキヲ以テ大ナル困難ヲ嘗メタリシカ輜重ノ長距離

輜重補給路概要図



輸送ニ依ル調味料ノ補給ハ円滑ニ実施セラレ絶エス給養ヲ良好ニシテ戦闘力ハ完全ニ維持サレタリ
殊ニ三ヶ中隊ヲ以テ師団ニ直接連絡セシメタルヲ以テ適時適切ニ要求ニ即応スルコトヲ得彈藥糧秣共欠乏ヲ訴ヘシムルコトナク猛烈果敢ナル戦闘ヲ促進セシメタルモノナリ

六、危険ノ度
師団直轄トナリタルモノハ素ヨリ後方ニ在ルモノニ於テ第一線ノ猛攻ニ堪ヘ兼ネテ南京ヲ脱出シ来レル敵ハ好シク後方機関ヲ襲ヒ今迄ニナキ大ナル危険ヲ生シタリ之カ為屢々自衛戦闘ヲ惹起シ都度若干ノ損害ヲ招キタリ後方ナルガ故危険ノ度尠シトノ見方ハ全ク根拠ナキモノナリ所謂敵ノ戦法タル後方擾乱ハシツヨウニ繰返サレタリ
七、天候氣象ノ交感
天候良好ニシテ行動ニ支障ヲ来セシコトナシ

その三 第三師団

○歩兵第六十八聯隊第一大隊『戦闘詳報』

自 昭和十二年十一月二十八日
至 同 十二月十三日

歩六八作命第三百十号

歩兵第六十八聯隊命令

十二月十日午後九時三十分
於 薛埠鎮

一、敵情並ニ師団ノ企図三師作命甲第二百二十八号ノ如シ
二、聯隊(騎兵一分隊工兵一小隊無線一分隊及衛生隊三分ノ一配属)ハ師団ノ先遣隊トナリ天王寺―馬山頭―郭庄廟―湖熟鎮―開溪鎮―上坊門―南京道ニ沿フ地区ヲ南京ニ向ヒ急進第九百十四師団ノ中間地区ニ進出シ南京城ヲ攻撃セン
トス

左第九百十四師団トノ作戦地境ハ黄金山、天王寺及蒲塘附近
以ハ北南京ニ通スル「クリーク」ヲ連スル線トス

三、第六中隊(工兵一小隊伝騎二ヲ属ス)ハ先遣中隊トナリ午前六時三十分宿营地ヲ出発聯隊ノ進路ヲ急進シ南京東南側飛行場附近ニ進出シ第一線兵団ノ部隊ト連絡シ敵情地形ヲ搜索スルト共ニ聯隊主力ノ進出ヲ掩護スヘシ但シ工兵小隊及伝騎二ハ天王寺ニ於テ其ノ指揮ニ入ルモノトス

四、第五中隊ハ尖兵中隊トナリ本隊前方三百米ニアリテ聯隊ノ進路ヲ上坊門ニ向ヒ前進スヘシ

五、第三大隊ハ右縦隊トナリ湖熟鎮ヨリ分進、湖熟鎮―漚化鎮

一高橋門道ヲ高橋門附近ニ進出シ通濟門方向ニ対スル攻撃ヲ準備スヘシ但湖熟鎮ニ到ル道ハ本隊タル第二大隊ノ後尾ヲ続行スヘシ

六、左記諸隊ハ本隊トナリ明十一日午前七時二十分迄ニ薛埠鎮西端ノ線ヲ先頭ニ集合スヘシ

聯隊本部

通信班(無線一分隊含ム)

第二大隊(第五第六中隊大隊砲小队欠)

第三大隊(第十中隊大隊砲小队欠)

第一大隊(第二中隊ノ一小隊大隊砲小队欠)

衛生隊 三分ノ一

七、明十一日ノ行軍ハ一時間五斤(五十分行軍十分休憩)トシ大路口附近ニ於テ昼食(一時間)湖熟鎮附近ニ於テ大休止(別ニ示ス)予定一般ニ携帶口糧甲二日分乙一日分馬糧二日分ヲ携行スヘシ

八、各隊ハ大行李ヲ整理シ駄載編成トシ最少限ニ止メ残余ハ輜重兵ヲ附シ速射砲中隊長ノ指揮ニ入ルヘシ

但シ大行李ヲ以テ編成スル駄馬ハ明十一日午前五時宿营地出発天王寺師団糧秣交付所ニ於テ一日分(馬糧共)ヲ受領シ大休止位置ニ追及交付シタル後可成速ニ天王寺ニ帰還十二日以降師団大行李長ノ指揮ヲ受クヘシ

九、残余ノ諸隊ハ速射砲中隊長ノ指揮ヲ以テ明十一日午前九時薛埠鎮西端ノ線ヲ出発天王寺附近ニ到リ待機スヘシ

十、小島中尉ハ明十一日早朝出発漚化鎮附近ニ先行シ第九師団司令部ニ連絡スヘシ

伝騎一ヲ附ス

十一、予ハ薛埠鎮ニ在リ明十一日本隊ノ先頭ニ在リテ前進ス

聯隊長

鷹森大佐

下達法

大隊副官ヲ集メ要旨ヲ伝ヘタル後命令受領者ヲ集メ口達筆
記セシム

〔中略〕

十二月十二日

1、午前五時三十分五色井ヲ出発昨日同様強行軍ヲ以テ午後四時
前庄ニ到着、左記大隊命令ヲ下達シ露營ス

左記

步六八一大作命第百十一号

第一大隊命令

十二月十二日午後三時三十分
於 蔣廟南方本道上

一、敵ハ南京城ニ抛リ尚頑強ニ抵抗シアリ第一線兵団ハ目下極
力ヲ攻撃中ナリ

聯隊ハ上坊門南側地区ニ兵力ヲ集結シ第一線部隊ト交代シ
爾後ノ攻撃ヲ準備ス

步兵第十九聯隊ハ蔡家營北側高地ノ敵陣地ヲ攻撃中ナリ

二、大隊ハ前庄附近ニ兵力ヲ集結シ爾後ノ行動ヲ準備セントス

第二大隊ハ淹兒港附近ニ第三大隊ハ夏村附近ニ兵力ヲ集結
スル筈

三、各隊ハ前庄東端ニ於テ設營者ヲ大隊副官ノ下ニ差出スト共
ニ兵力ヲ集結シ隊伍ヲ整頓シタル後大隊副官ノ指示スル地
点ニ於テ露營スヘシ

四、部隊日直將校 堀部少尉

五、第四中隊ヨリ露營衛兵(部隊衛兵ヲ兼ヌ)ヲ午後六時迄ニ
本部前ニ差出シ堀部少尉ノ指揮ヲ受ケシムヘシ編成従前通
リ

六、各隊ノ直接警戒ハ従前通りトシテ灯火管制ニ注意スヘシ

七、本夜ノ休養ハ携帶口糧甲ヲ用フヘシ

八、予ハ前庄ニ露營ス

大隊長

金田少佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

自十二月十二日 南京攻撃
至十二月十三日

一、十二月十二日夜

1、午後十時左記聯隊命令ヲ受領ス

左記

步六八作命第百三十三号

步兵第六十八聯隊命令

十二月十二日午後九時三十分
於 淹兒港

一、第九師団ノ一部ハ京和橋附近ニ於テ城壁ニ近迫光華門ヲ攻
撃中ナリ第一一四師団ハ本夕刻中華門ヲ奪取セルカ如キモ
審ナラス

師団ノ企図別紙三師作命甲第百三十二号ノ如シ

二、聯隊ハ成ル可ク速ニ武定門ヲ攻略セントス

右第九師団トノ作戰地境ハ上坊門東端京和門ヲ連ヌル線ト
シ線ハ右師団ニ屬ス

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

2、右聯隊命令ニ基キ左記大隊命令ヲ下達ス

左記

步六八一大作命第百十二号

第一大隊命令

十二月十二日午後十一時五十分
於 前庄

一、第九師団ノ一部ハ京和橋附近ニ於テ城壁ニ近迫シ光華門ヲ
攻撃中ナリ

第一百十四師団ハ本夕刻中華門ヲ奪取セル如クナルモ詳ナラ
ス師団ハ武定門ヲ中心トスル城壁及城壁外ノ敵ニ対スル攻
撃ヲ準備ス

聯隊ハ成ル可ク速カニ上坊門東端京和橋ヲ連ヌル線以西ノ
地区ヨリ武定門ヲ攻略ス

二、大隊(第二中隊一小隊機関銃大隊砲欠)ハ第二線部隊トナ
リ明十三日正午大焦村附近ニ位置シ附近ヲ掃蕩シタル後市
街戦ニ必要ナル応用材料ノ蒐集及訓練ヲ実施セントス

第二大隊ハ第一線トナリ明弘曉飛行場西北端ヨリ鬼神拈附
近ニ亘ル線ニ展開シ武定門ノ攻撃ヲ準備スル筈又第三大隊
ハ予備隊トナリ明弘曉以後郷家橋及福家坦附近ニ位置スル
筈

三、第一中隊横山小隊ハ軍旗小隊トシテ明十三日午前六時五分
迄ニ聯隊本部ニ到リ第五中隊ノ小隊ト交代シ本部直接警
戒ニ任スヘシ

四、機関銃中隊ハ第三大隊ノ武定門攻略ニ協力スヘシ但シ現在

下達法

大隊副官ヲ集メ要旨ヲ伝ヘタル後命令受領者ヲ集メ口達筆
記セシム

〔中略〕

十二月十二日

1、午前五時三十分五色井ヲ出発昨日同様強行軍ヲ以テ午後四時
前庄ニ到着、左記大隊命令ヲ下達シ露營ス

左記

步六八一大作命第百十一号

第一大隊命令

十二月十二日午後三時三十分
於 蔣廟南方本道上

一、敵ハ南京城ニ抛リ尚頑強ニ抵抗シアリ第一線兵団ハ目下極
力ヲ攻撃中ナリ

聯隊ハ上坊門南側地区ニ兵力ヲ集結シ第一線部隊ト交代シ
爾後ノ攻撃ヲ準備ス

步兵第十九聯隊ハ蔡家營北側高地ノ敵陣地ヲ攻撃中ナリ

二、大隊ハ前庄附近ニ兵力ヲ集結シ爾後ノ行動ヲ準備セントス

第二大隊ハ淹兒港附近ニ第三大隊ハ夏村附近ニ兵力ヲ集結
スル筈

三、各隊ハ前庄東端ニ於テ設營者ヲ大隊副官ノ下ニ差出スト共
ニ兵力ヲ集結シ隊伍ヲ整頓シタル後大隊副官ノ指示スル地
点ニ於テ露營スヘシ

野砲兵一大隊ハ聯隊ニ協力ノ為目下極力追及中ニシテ明十
三日夕刻ニハ到着ノ見込ミナリ飛行場附近ニ陣地ヲ占領ス
ル砲兵隊(十二榴一大隊及十加一中隊)ハ爾後聯隊ノ攻撃
ニ協力スル筈

三、第二大隊(工兵小隊ヲ屬ス)ハ第一線部隊トナリ明十三日

弘曉飛行場西北端附近ヨリ鬼神墳附近ニ亘ル線ニ展開シ武
定門攻撃ヲ準備スヘシ

第一第三大隊長ハ各々隸下機関銃中隊ヲシテ第二大隊ノ武
定門攻略ニ協力セシムヘシ

四、第三大隊(第十中隊大隊砲小隊欠)ハ予備隊トナリ明十三
日弘曉以後郷家橋及福家坦附近ニ位置スヘシ

五、第一大隊(第二中隊ノ一小隊欠)ハ第二線部隊トナリ明十
三日正午以後大焦村附近ニ位置シ附近ヲ掃蕩シタル後市街
戦ニ必要ナル応急材料ノ蒐集及訓練ヲ実施スヘシ

歩兵一小隊ヲ軍旗小隊トシテ明十三日午前七時現聯隊本部
ノ位置ニ差出シ第五中隊ノ小隊ト交代シ本部直接ノ警戒ニ任
セシムヘシ

六、先遣中隊長及工兵小隊長ハ成ル可ク速ニ武定門攻撃ノ為敵
情並ニ城門城壁「クリーク」等ノ情況ヲ偵察スヘシ

七、通信班ハ聯隊本部ト師団司令部及第一線大隊本部ト間ニ
電話網ヲ構成スヘシ

八、本夜ノ給養ハ携帶口糧甲ニ依ルヘシ

九、予ハ淹兒港ニアリ明十三日早朝翁家營附近ニ前進ス

聯隊長

鷹森大佐

下達法

地出発ニ関シテハ後命ス

五、爾余ノ諸隊ハ午前十時三十分迄ニ建制順序ニ大隊本部西北側十字路ヲ先頭トシ途上ニ集合スヘシ

六、各隊ヨリ掃蕩及設営トシテ小隊長ノ指揮スル小銃一輕機一ヲ午前八時三十分迄ニ大隊集合場ニ差出シ大隊副官ノ区処ヲ受ケシムヘシ

成ル可ク多ク自転車ヲ携行スヘシ

七、予ハ午前十時三十分十字路ニ在リ後本隊ノ先頭ヲ大焦村ニ向ヒ前進ス

大隊長 金田少佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

午前九時三十分武定門及其ノ兩側城壁ヲ占領セリ

二、聯隊ハ第一線部隊ノ獲得セル戦果ヲ更ニ擴張通濟門ヲ攻略セントス

三、第二大隊ハ一部ヲ以テ城壁ニ添フ地区ヨリ通濟門ニ向ヒ攻撃前進同城門ヲ占領スヘシ

四、第三大隊ハ速ニ飛行場方面ヨリ通濟門ニ向ヒ攻撃前進第二大隊ノ一部ト協力シ同城門ヲ占領スヘシ一部ヲ以テ工兵渡河作業ヲ援助シ材料蒐集ニ任セシムヘシ

第三機関銃中隊ハ招致シテ右攻撃ニ使用スヘシ

五、第一大隊ハ速ニ武定門ニ向ヒ前進スヘシ

六、予ハ軍旗ヲ奉シ武定門ニ向ヒ前進ス

聯隊長 鷹森大佐

下達法 要旨ヲ伝ヘタル後命令受領者ヲ集メ口達筆記

二、十二月十三日

1、大隊副官以下各中隊ノ掃蕩隊ハ午前八時三十分土山鎮十字路ヲ出発シ小焦村大焦村孫家村輜重校址附近ヲ掃蕩ス

2、大隊ハ午前十時三十分土山鎮十字路ヲ出発シ午前十一時十五分上坊門附近ニ達スルヤ左記歩六八作命第一三四号ノ要旨ヲ受領シ直ニ輜重校址附近掃蕩中ノ掃蕩隊ヲ招致スルト共ニ大隊主力ニ刈東崗ヲ経テ武定門ニ前進ス

左記 歩六八作命第三百三十四号

歩兵第六十八聯隊命令 十二月十三日午前十時於 翁家營

一、第一線隊ハ南京城東南角第一五〇聯隊正面ヨリ戦果ヲ拡張

3、午後〇時三十分通濟門外ニ進出第一中隊ヲ聯隊本部直接掩護ノ為派遣スルト共ニ主力ヲ通濟門外及武定門外火藥庫並陸軍兵營ヲ掃蕩ス

其ノ掃蕩要領別紙要図第八ノ如シ

4、午後七時掃蕩ヲ終リ南京東南角陸軍兵營ニ露營ス

附表第一 戦闘詳報第八号附表

自昭和十二年十一月二十七日 至昭和十二年十二月十三日 歩兵第六十八聯隊第一大隊死傷表

隊号	戦闘参加人馬			死			傷			生死不明		
	将校	准士官下	馬匹	将校	准士官下	馬匹	将校	准士官下	馬匹	将校	准士官下	馬匹
第一大隊本部	(三二)	(八一)	(六八)	(二)								
第一中隊	三	一七〇										
第二中隊	三	一六二										
第三中隊	二	一八六										
第四中隊	三	一六八										
第一機関銃中隊	四	一三七		一			二					
第一歩兵砲小队		(五三)	一〇									
總計	(三七)	(八九四)	(六三七)	一		(二)	二					

考 一、本表以外ニ補充ヲ受ケタル者

備	月	日	兵	馬
	一〇月	二日	五九	四三

〔編注〕()は行李、輜重の人馬及馬取扱兵等の数を示す

附表第二 戦闘詳報 第八号附表

備考	員数	区分	種類	
			種類	数量
一、自動貨車「一」「オートバイ」ハ使用出来ス残置 二、其他火薬庫及兵營ヲ押収ス		将校	戦	利
	25	准士官以下		
	15	馬匹		
	1	乗用自動車		
	2	自動貨車		
	7	小銃		
	12	銃剣		
	20	迫撃砲弾		
	2,000	小銃弾		
	20箱	手榴弾		
	50	輜重車	品	
	1	オートバイ		
	3組	乗馬具		
	10	青竜刀		
	多数	軍衣袴		
	2	迫撃砲		
	4	軽機テッコ		
	2	水冷式機関銃		
	多数	其他ノ装具		

自昭和十二年十一月二十七日
至昭和十二年十二月十三日
歩兵第六十八聯隊第一大隊鹵獲表

附表第三 戦闘詳報 第八号附表

備考	計	第一歩兵砲小隊	第一機関銃中隊	第四中隊	第三中隊	第二中隊	第一中隊	大隊本部	隊号	区分	種類	
											彈藥	消費
	150			30	40	20	60		小銃		武器 損失	
	330			80	100	50	100		軽機関銃			
	300	300							機関銃			
									九二式歩兵砲			

自昭和十二年十一月二十七日
至昭和十二年十二月十三日
歩兵第六十八聯隊第一大隊
武器
彈藥
損耗表

○歩兵第六十八聯隊第三大隊『戦闘詳報』

自昭和十二年十一月二十七日
至同 十二月十三日

一、歩六八三大作命第一一九号

大 隊 命 令 十二月十二日午後一時二十分
於 灰 村

- 一、敵ハ南京城ニ頑強ニ抵抗シアリ
- 第一線兵団ハ極力之ヲ攻撃中ナリ
- 聯隊ハ上坊門南側地区ニ兵力ヲ集結シ第一線部隊ト交代並
爾後ノ攻撃ヲ準備ス
- 歩兵第十九聯隊ハ蔡家宮北側附近ノ敵陣地ヲ攻撃中ナリ尖
兵中隊(第五中隊)ハ上坊門クリーク北側鮎家場ニ進出シ
先遣中隊ト連絡飛行場蔡家宮附近ノ敵情ヲ搜索ス
- 二、大隊ハ夏村附近ニ集結シ爾後ノ攻撃ヲ準備セントス
- 三、各中隊ノ集結位置ハ副官ヲシテ現地ニ於テ指示セシム
- 四、各隊ハ集結位置到着後夕食朝食ヲ速ニ炊爨シ兵器ノ手入レ
ヲ行ヒ戦闘準備ヲ完了スヘシ
- 五、余ハ夏村ニ至ル

大隊長 中島少佐

下達法

各隊命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

備 考

- 第一線部隊トノ交代ハ本夕刻ヨリ明払曉迄ノ予定
- 大隊ハ右命令ニ基キ着々諸準備ニ着手シ後命ヲ待ツ

二、戦闘ニ影響ヲ及ホシタル天候氣象地形住民地ノ狀況

- (一) 天候 連日快晴
- (二) 氣象 季節十二月ナルモ氣候温暖ナリ但夜間ハ寒冷ヲ覺ユ

(三) 地形 南京ハ四周ヲ城壁ヲ以テ繞ラシ其ノ高さ一六・七米上幅約五

米ニシテ煉瓦ヲ以テ積ミ立テ其ノ上ニハ銃眼ヲ設備ス
通濟門ハ幅約三米ノ入口ニシテ其ノ内側ニ二重ノ門アリ土囊
数千個ヲ充填シ進入ヲ防止セリ
城内外及内側ハ稍密接セル家屋ニシテ道路ノ外通過不能ナリ

三、彼我ノ兵力交戦セシ敵ノ団隊号

- (一) 彼我ノ兵力

イ、彼

兵力ハ詳ナラス

ロ、我

別紙附表第一ノ如シ

- (二) 敵ノ団隊号

不明

四、彼我ノ損傷

- (一) 彼

遺棄死体各所ニ点在スルモ其ノ数詳ナラス

- (二) 我

別紙附表第一ノ如シ

五、戦闘經過並ニ関聯セル隣接部隊ノ狀況

- (一) 十二月十二日大隊ハ夏村附近ニ於テ攻撃準備中午後十一時頃
左記聯隊命令ヲ受領ス

〔聯隊命令は第一大隊戦闘詳報に掲載〕

- (二) 大隊ハ右聯隊命令ニ基キ左記大隊命令ヲ下達ス
歩六八三大作命第一二〇号

大 隊 命 令 十二月十二日午後十一時五十分
於 夏 村

第九師団ノ一部ハ京和橋附近ニ於テ光華門城壁ニ近迫攻撃
中ナリ

第一一四師団ハ本夕刻中華門ヲ奪取シタルモ詳ナラス
聯隊ハ成可早ク武定門ヲ攻略セントス

右九師団トノ作戦地境ハ上坊門東端京和門ヲ連ヌル線(線
上ハ右師団ニ属ス)

野砲一ヶ大隊ハ聯隊ニ協力ノタメ且下急進中明十三日夕刻
着ノ予定

第二大隊第一線明払曉飛行場西北端附近ヨリ鬼神坦附近ニ
巨ル線ニ展開武定門ニ対スル攻撃ヲ準備ス

第一大隊ハ第二線部隊トナリ大庄村附近ニ位置シ速ニ爾後
ノ攻撃ヲ準備ス

二、大隊(第十中隊大隊砲欠)ハ予備隊トナリ明十三日払曉以
後郷家橋服家坦附近ニ位置シ爾後ノ攻撃ヲ準備セントス

三、第三機関銃中隊長ハ明払曉第二大隊長ノ許ニ至リ第二大隊
ノ武定門攻撃ニ協力ノタメ連絡スヘシ

第十一中隊和田准尉ハ下士官一、兵五ヲ以テ第二大隊ト同
行第一線附近ノ敵情地形ノ偵察並第二大隊トノ連絡ニ任ヌ

ヘシ午前九時迄ニ第一報報告爾後十三日正午迄ニ服家坦附
近ニテ報告スヘシ

第九中隊ノ市岡少尉ハ下士官一、兵五ヲ指揮シ夏村ノ周家
村ノ蔡家宮ヲ経テ服家坦ニ至ル道路偵察ヲ実施十三日午前
八時迄ニ大隊長ニ報告スヘシ

四、第十一中隊ヨリ長一、喇叭一、兵六ヲ展望哨並対空監視ト
シテ午前七時出發服家坦北高地ニ出シ警戒ニ任セシムヘシ

五、本部各中隊ヨリ下士官一、兵三ヲ午前七時迄ニ道路上ニ出
シ本部須田曹長ノ指示ヲ受ケシメ服家坦郷家橋ノ搜索並該
地ニ至ル進路ノ偵察ニ任セシムヘシ

右報告ハ午前八時迄ニ本部ニ提出スヘシ

六、各中隊ハ午前八時迄ニ各々出發準備ヲ完了スヘシ

七、各中隊ノ毛布ハ各中隊ニテ携行スヘシ

八、余ハ明十三日新集結位置ニ至ル

大隊長 中島少佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

- (一) 十二月十三日市岡少尉並和田准尉ヲ斥候トシテ道路偵察並第
九師団トノ連絡ニ派遣シ主力ハ早朝夏村出發郷家橋ニ至リ大
隊副官ヲ連絡ノタメ聯隊本部ニ派遣シ待機ス
午前十一時頃左記聯隊命令ヲ受領ス

〔聯隊命令は第一大隊戦闘詳報に掲載〕

- (四) 大隊ハ前記命令受領前既ニ要旨命令ヲ受領セルヲ以テ左記大
隊命令ヲ下達シ急進ス

歩六八三大作命第一二一号

大隊命令

十二月十三日午前十一時
於 郷家橋

- 一、南京城内ノ敵ハ逐次退却中ナリ
- 第二天隊ハ東南角ヨリ城壁ニ突入東北方ニ戦果ヲ拡張中ナリ
- 二、大隊ハ直ニ通済門ヲ攻略セントス
- 三、第十一中隊ハ尖兵中隊トナリ大隊ノ前方二〇〇米ヲ通済門ニ向ヒ急進スヘシ
- 爾余ハ大隊本部ノ後方ヲ第十二中隊第九中隊小行李ノ順序ニ統行スヘシ

大隊長

中島少佐

下達法

要旨ヲ伝ヘタル後命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム
大田隊ハ前記命令ニ基キ第十一中隊ヲ尖兵トシ通済門ニ向ヒ急進セシム

- (六) 茲ニ於テ第十一中隊ハ勇躍前進ヲ起シ途中敵彈ヲ受ケツ、一意通済門ニ向ヒ急進シ午後零時頃該門ニ到着ス
- 當時第二天隊ノ一部樓門上ヲ占領シアリ 然レ共敵ハ堅固ニ城門ヲ閉鎖シ進入困難ヲ知ルヤ直ニ附近ノ材料ヲ集メ以テ一部ヲ攀登セシメ占領後直ニ附近ノ掃蕩ヲ実施セシム更ニ一部ヲ武定門ヨリ迂廻進入セシメ附近掃蕩ヲ実施セシムルト共ニ主力ヲ以テ通済門開門ノ工事を實施セシム

午後六時頃概ネ掃蕩ヲ終リ軍旗ハ武定門ヨリ城壁上ヲ通済門ニ向ヒ前進入城ス 時ニ午後六時半頃ナリ
(通済門内ニハ土囊数千個ヲ充填シ在リシヲ以テ之カ排除ノ

タメ昼夜兼行翌十四日午後二時漸ク開門ス)

十二月十三日戰闘経過別紙要図第三ノ如シ

〔圖 略〕

- (七) 十二月十三日午後五時頃左記聯隊命令ヲ受領ス
歩六八第一三五号

聯隊命令

十二月十三日午後四時
於 武定門東側

- 一、聯隊ハ武定門及通済門ヲ確保シ附近ノ掃蕩並戰場掃除ヲ實施シタル後概ネ現在ノ態勢ヲ以テ露營セントス
- 二、第二天隊ハ武定門ヲ確保シ城壁上ノ戰場掃除ヲ實施シタル後同門附近ニ露營スヘシ
- 三、第三天隊ハ通済門ヲ確保シ附近ノ戰場掃除ヲ實施シタル後同城門附近ニ露營スヘシ
- 四、第一天隊ハ火藥庫附近ヲ掃蕩並戰場掃除ヲ實施シタル後武定門東側附近ニ露營スヘシ
- 一部ヲ以テ工兵ノ渡河作業ヲ援助シ材料蒐集ニ任セシムヘシ
- 五、本夜ノ給与ハ携帯口糧甲ヲ使用スヘシ
- 六、予ハ武定門東側ニ在リ

下達法

聯隊長

鷹森大佐

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

- (八) 大隊ハ右命令ニ基キ左記大隊命令ヲ下達シ当夜ハ現場附近ニ露營ス

歩兵六八三大作命第一二二号

大隊命令

十二月十三日午後六時
於 南京通済門

- 一、大隊ハ本十三日通済門附近ニ露營セントス
- 二、各隊ハ予メ示セル位置ニ宿營スヘシ
- 三、吉田少尉ハ部隊日直將校トシテ服務スヘシ
- 四、第十一中隊ヨリ部隊衛兵トシテ長一、上等兵一、兵三ヲ午後九時迄ニ本部前ニ差出シ部隊日直將校ノ指示ヲ受ケシムヘシ
- 五、警戒ヲ左ノ如ク担任スヘシ
- 第十二中隊 十字路
- 第九中隊 自隊ノ地域
- 第十一中隊 城門
- 六、本夜ノ給与ハ携帯口糧甲ヲ使用スヘシ
- 七、余ハ通済門内ニ在リ

大隊長

中島少佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム
(九) 十二月十四日更ニ大隊全力ヲ以テ通済門ノ土囊排除作業ヲ行ヒ午後四時頃開通ニ至ル

- (十) 十二月十五日大隊ハ通済門附近ヲ警備スヘキ命ヲ受ケ左記大隊命令ヲ下達ス

歩六八三大作命第一二三号

大隊命令

十二月十五日午後三時三十分
於 通済門

- 一、大隊ハ通済門附近ヲ警備セントス

- 二、第十一中隊ヨリ將校ノ指揮セル半小隊ヲ以テ通済門ヲ警備スヘシ

- 三、第九中隊ヨリ一ヶ分隊ヲ出シ米倉庫ノ監視ニ任セシムヘシ
- 第三、第四項ノ細部ハ村松主計准尉ノ指示ヲ受ケヘシ
- 四、小木曾准尉ハ明十五日午前八時出發自動車三輛ヲ指揮シ天王寺ニ至リ彈藥並車輛及毛布ヲ大隊主力ノ位置ニ運搬スヘシ護衛兵五名ヲ附スヘシ
- 五、警戒担任ヲ左ノ如ク改ム
- 東方 第九中隊
- 西方 第十一中隊
- 十字路 第十二中隊
- 人員 各哨所共長一、上一、兵六
- 六、別紙ノ如ク部隊日直將校トシテ服務スヘシ
- 七、部隊衛兵 第十二中隊
- 人員 前ニ同シ
- 六・七項ノ交代ハ午後五時トス

下達法

大隊長

中島少佐

要旨ヲ伝ヘタル後命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

注意

- 一、爾後大隊ノ宿營地以外ニ出ツルヲ禁ス
- 公用ノタメ出ツル者ハ必ス背囊雜囊水筒ヲ除キタル軍裝トス
- 二、徵発ハ必ス大隊長ノ許可ヲ得テ行フコト
- 三、火災予防ニ対スル注意ヲ徹底セシムルコト
- 四、便所ノ設備ヲ行ヒ附近ヲ清潔ニスヘシ

五、掃除整理担任区域

門——十字路 機関銃中隊
 十字路——大隊砲 第九中隊
 残り道 第十二中隊
 十字路——第十一中隊、第十一中隊
 命令別紙

十五日 吉田 少尉
 十六日 和田 准尉
 十七日 林 少尉
 十八日 小椋 准尉
 十九日 小木曾准尉
 二十日 加藤 准尉

(一) 天王寺ニ残置シアリシ大行李ハ大隊主力ニ合スヘク十二月十一日行動ヲ起シ十二月十四日午後四時二十分頃土橋鎮東方約一里ノ地点山間部ニ於テ約二百名ノ敗残兵右側方ノ松林ヨリ不意ニ大行李ヲ襲撃ス
 敵ハ巧妙ニモ日本軍ノ腕章ヲ附シタル土民ヲ我カ軍ニ近迫セシメ主力ハ森林中ニ遮蔽シ之レノ記号ニヨリ部隊ノ五〇米前
 自 昭和十二年十一月二十七日 南京攻撃ノ為メ前進及南京攻撃戦闘功績顯著者 第十一中隊
 至 同 年十二月十三日

方ヨリ我ヲ射撃ス此処ニ於テ大行李長ハ直ニ小銃ヲ携行セルモノヲ指揮シ道路両側ニ散開セシメ之ヲ攻撃スルト共ニ車輛並金櫃ヲ後方約二〇〇米ノ家屋安全地帯迄後退セシム
 敵ハ我カ軍ノ適切ナル処置ト勇敢ナル行動トニヨリ交戦約一時間ニシテ我ニ危害ヲ加フルコトナク潰走ス
 本戦闘ニ於ケル経過別紙要図第五ノ如シ
 六、将来ノ参考
 (一) 既占領地域ニハ尚多数ノ敗残兵アルヲ以テ自衛力無キ部隊ハ行動ニ相当ノ注意ヲ要ス
 (二) 敵ハ日ノ丸腕章ヲ附シタル土民ヲ叱咤シ連絡ニ任セシメルモノ如シ
 七、戦闘後ニ於ケル彼我形勢ノ概要
 大隊ハ十二月十三日通済門占領後附近ノ掃蕩並警備ニ当リ十二月十七日南京入城式ニ参加シ翌十八日軍慰靈祭ニ一部ノモノヲ参列セシメ次期作戦準備中ノ処十二月二十二日大港附近ニ移動スヘキ命ヲ受ク
 功績顯著者別紙ノ如シ

姓名	氏名	階級	職務	生死別	要	
					生	死
和田 周一	和 田 周 一	准尉	小隊長			將校斥候長トシテ勇敢最モ迅速ニ敵情ヲ偵察シ有利ナル報告ヲナス

死傷表 附表第一ノ如シ
 俘虜獲表 附表第二ノ如シ

兵器彈藥損耗表 附表第三ノ如シ
 各隊編成表 別紙ノ如シ

第一 戦闘詳報第八号附表

自 昭和十二年十二月二十七日 步兵第六十八聯隊第三大隊死傷表
 至 同 年十二月十三日

区分	戦闘参加人馬			死			傷			生死不明		
	將校	准士官 下士官兵	馬匹	將校	准士官 下士官兵	馬匹	將校	准士官 下士官兵	馬匹	將校	准士官 下士官兵	馬匹
本部	(二二)	(九一八)	六八									
第九中隊	三	(一七二)										
第十中隊	二	(一七八)										
第十一中隊	二	(一七三)					一					
第十二中隊	二	(一八八)										
第三機関銃中隊	三	(一四九)	二七									
第三歩兵砲小隊	一	(四七)	一〇									
計	(一五)	(九二五)	一〇五				一					

〔編注 (一) は行李、輜重の人馬及馬取扱兵等の数を示す〕

第二戰闘詳報第八号附表

種類		區分		員數		備考		備	
俘虜		將校		八		一、右ノ外附近戰場ニハ敵ノ遺棄死体多数アルモ其ノ数詳ナラス		馬糧	
		准士官 下士官兵				二、戦利品又多数アルモ全部収集シ得ス		豆	
		馬匹				三、戦利品中糧秣ノ区分左ノ如シ		麦	
戰利品		銃		二〇				味噌	
		砲		二				塩	
		彈藥		五				米	
		其他		四				味噌	
				二六、五〇〇				數千俵	
				若干				數万俵	
				若干				數十樽	
				若干				數百俵	
				多数				數百俵	
								數千	
								若干	

第三戰闘詳報第八号附表

種類		區分		隊号		本部		備考	
消費		彈藥		小銃 重機		第九中隊		自昭和十二年十一月二十七日	
費						第十中隊		至同昭和十二年十二月十三日	
損失						第十一中隊		步兵第六十八聯隊第三大隊兵器彈藥損耗表	
						第十二中隊			
						第三機関銃中隊			
						第三歩兵砲小隊			
						計			
						六五			
						一二五			
						四七			
						四三〇			
						四三〇			
						二三七			

○歩兵第六十八聯隊第三大隊『陣中日誌』

十二月十六日 木曜日 晴天 於南京通濟門内

- 一、大隊ノ各隊ハ三大作命第二百二十三号ニ依リ各々舎内外ノ清潔整頓ヲ実施スヘシ
- 二、午後〇時四十分大隊ハ軍旗奉迎ノ整列ヲ完了ス
- 三、午後〇時四十三分聯隊本部ヨリ電話ニテ軍旗ノ出発ハ都合ニ依リ少時刻遅レル旨來電アリタリ
- 三、午後一時三十二分光輝赫々タル我カ歩兵第六十八聯隊ノ軍旗ヲ通濟門城内ニ迎フ
- 五、午後二時十分軍旗ヲ奉送ス
- 六、午後三時十分歩六八日々命令並ニ會報ヲ受領ス
- 歩兵第六十八聯隊日々命令 十二月十六日午後五時十分 於 武定門東側
- 一、明十七日方面軍ノ南京入城式ヲ明後十八日方面軍戦病死者慰靈祭ヲ実施セラル
- 二、聯隊ハ十七日及十八日方面軍入城式及慰靈祭ニ参加ス依テ別紙指示ニ依リ各隊ハ兩式ニ参加セシムヘシ兩日共午前十一時迄ニ通濟門外南側十字路ヲ先頭トシ聯隊本部混成大隊ノ順序ニ北面ノ途上縦隊ニ集合スヘシ
- 第三大隊ニ於テ編成セラレタル一小隊ハ軍旗護衛小隊トシ明十七日午前十時半迄ニ聯隊本部前ニ集合スヘシ兩日共昼食携行ノコト
- 歩兵第六十八聯隊 會報 十二月十六日

(一) 左記ノ通りソレゾレ祝電ヲヨセラル

左 記

- 1 無敵皇軍ノ追撃ニヨリ南京陥落ノ快報ニ接シ感謝感激ニ堪ヘス 岐阜県知事
- 2 連日連夜ノ御奮戦ニ依リ南京陥落ノ報ヲ受ケ感激感謝ニ堪ヘス 岐阜市長
- 3 御勞苦ヲ謝シ御奮闘ヲ祈ル 関町青年団
- 4 南京陥落ヲ慶祝シ貴部隊ノ武軍長久ヲ祈ル 丸 物
- (二) 藤田部隊會報追加
- 1 戦闘一段落シ警備ニ移ラントスルニ方リ各部隊ハ軍紀風紀ヲ嚴ナラシメ兵ヲシテ過誤ナカラシムルコトニ努ムルコト
- 2 警備ヲ嚴ニシテニ敗残兵等ニ対スル警戒ヲ怠ラサルコト
- 3 爾後捕虜兵ハ一応調査ノ上各隊ニ於テ嚴重処分スルコト
- 4 良民勞力ニ対スル取扱ニ就テハ兵ニ至ルマテ注意スルコト
- (三) 岐阜市會議員玉井幸八郎氏ハ聯隊慰問ノ為來隊セラル本明日中ニ挨拶ヲ受ケシメラレタシ
- 七、午後六時〇分各隊命令受領者ヲ集メ歩六八三大日々命令ヲ下達ス
- (四) 大隊ハ明十七日方面軍ノ南京入城式明後十八日方面軍慰靈祭ニ参加ス
- 依テ左ノ通り心得ヘシ
- 入城式参加ニ就テ
- 十二月十七日午後一時三十分中山路ニ於テ執行サル聯隊ハ本部並ニ混成ノ一ヶ大隊トシ各大隊ヨリ一ヶ中隊 聯隊砲連射砲 聯隊通信 各大隊砲ヲ以テ一ヶ中隊トス

入場式

- 1 編成 第三大隊長
- 編成中隊長 伊神中尉
- 第一小隊長 第九中隊ヨリ一ヶ小隊
- 第二小隊長 第十一中隊ヨリ 第十第十一中隊ヨリ半ヶ小隊
- 第三小隊長 第十二中隊ヨリ 第十二、機関銃隊ヨリ半ヶ小隊
- 喇叭ハ全員
- 全員小銃編成トシ人員ハ戦時編成
- 2 服装 軍装トシテ鉄帽及防毒面ヲ除キ略綬佩用トス
- 下士官、兵ハ背囊ニ天幕外套器具ヲ附シ毛布入組品替靴ヲ除ク 兩日共昼食携行
- 3 集合 十二月十七日午前九時五十分迄ニ通濟門外丁字路ニ北面ニ集合
- 4 大隊砲ハ兩日共二ヶ分隊(長以下一〇名)
- 午前九時迄ニ速射砲中隊長ノ指揮ニ入ラシメ第四中隊 第三小隊ノ編成ニ入ラシムヘシ
- (一) 慰靈祭ニ就テ(十二月十八日午後二時南京中山門内飛行場ニ於テ)

編 成

菅沼大尉

- 第一小隊長 機関銃隊ヨリ
- 第二小隊長 第九中隊機関銃ヨリ各半ヶ小隊
- 第三小隊長 第十中隊ヨリ
- 第十中隊第十一中隊ヨリ 各半ヶ小隊
- 第十二中隊ヨリ
- 第十二中隊ヨリ一ヶ小隊
- 服装携行品前日ニ同シ
- 集合 菅沼大尉ハ各中隊ヨリ出スル小隊ヲ一ヶ中隊編成トシ午前十時五十分迄ニ通濟門十字路ニ至リ第一大隊長ノ指揮下ニ入ルヘシ大隊砲ハ前日ト同様二ヶ分隊編成倉田中尉ノ指揮ニ入ラシムヘシ
- 八、勤 務 部隊日直將校 和田准尉
- 部隊衛兵 第十一中隊(馬場伍長以下八名)
- 日直下士官 須田曹長
- 九、現在人員 本部 一一八名

その四 上海派遣軍直轄部隊

○独立攻城重砲兵第二大隊『戦闘詳報』 第九号附録(十二月十三日午前一時~正午)

目次

(一) 戦闘前ニ於ケル彼我ノ態勢

(二) 戦闘前ニ於ケル部隊ノ状況

(三) 戦闘ノ概要

其ノ一 新庄附近第一中隊主力及連絡班ノ戦闘

一 夜襲時(自午前〇時三十分至午前七時)

(一) 戦闘経過ノ概要

(二) 中小隊長連絡掛將校ノ行動

二 払曉敵襲時(自午前七時至午前十時)

(一) 戦闘経過ノ概要

(二) 中小隊長連絡掛將校ノ行動

(三) 戦闘ニ影響ヲ及ホセシ新庄陣地附近地形ノ状態

其ノ二 仙鶴門鎮附近第一中隊第一分隊及段列丸山小隊ノ戦闘

闘

(四) 戦闘後ニ於ケル状態

(五) 本戦闘ニ得タル教訓

(一)(二)(三)及び(五)略

(四) 戦闘後ニ於ケル状態

正午火砲ノ撤収ヲ完了シ部隊ヲ集結シテ仙鶴門鎮ニ向ヒシカ途中新庄東側泥濘地通過ノタメ相当ノ時間ヲ要シタリ此ノ間中隊長ハ沢田少尉ヲ十加第一大隊長菅野少佐ノ許ニ派遣シ部隊ノ集結ニ関シ連絡セシムル所アリ午後四時頃仙鶴門鎮南端十字路ニ中隊全部ノ集結ヲ完了セリ同日午後七時大隊長万波少佐ハ大隊本部ト共ニ鎮江ヨリ仙鶴門鎮ニ到着シ中隊長梶浦大尉及連絡掛將校富山中尉ヨリ敵襲ニ関スル詳細ナル報告ヲ受ケ爾後部隊ハ大隊長ノ指揮ニ復帰ス十三日早朝ノ敵襲ニ鑑ミ十三日夜ハ集成騎兵隊独立野戦重砲兵第十五聯隊(第二大隊欠)独立攻城重砲兵第二大隊(第二中隊欠)ハ相互ニ協力シテ昼間ヨリ防禦設備ヲ実施シ警戒上余ス所ナシ

同夜午後七時頃仙鶴門鎮西方ニ約二、三百ノ敵襲ヲ受ケタルモ難ナク之ヲ撃退セリ十四日午後四時砲兵指揮官内山少將仙鶴門鎮ニ来ラレ敵襲後ノ状態ヲ視察セラレ

此レヨリ先午後二時頃堯化門附近ニ於テ約七千名降伏シ来リ午後六時歩兵第三十八聯隊ノ一中隊護衛ノ下ニ仙鶴門鎮北側凹地ニ集結ス該俘虜ノ大部ハ十三日早朝仙鶴門鎮及新庄附近ヲ襲撃セルモノニシテ爾後北方ニ退却シ我部隊各所ニ駐屯シ有力ナルタメ遂ニ企図ヲ放棄シ武器ヲ捨テテ降伏シ来レルモノナリ

第四、第十軍

○南京追撃問題

南京追撃

一、中支那方面軍ハ崑山附近ノ地区ニ於テ敵軍主力ノ捕捉殲滅ヲ企図セシモ其結果ハ撃退戦ニ終リ其一部ヲ捕捉殲滅シ得タルニ過キス 然レトモ本会戦ト第十軍ノ嘉興方面ヘノ進出トニヨリ敵軍主力ハ総退却ニ陥リ其指揮組織根本的ニ混乱ヲ来シアルノ徴歴然タリ 故ニ此ノ躍動セル一大戦機ヲ逸スルコトナク万難ヲ排シ猛烈果敢ナル追撃ヲ断行セハ敵軍主力ヲ捕捉殲滅スルコトハ最早困難ナルヘキモ尚徹底的打撃ヲ与ヘテ之ヲ潰乱セシメ南京要塞ニ於テ組織アル抵抗ヲ行ヒ得サラシメ以テ迅速容易ニ南京ヲ攻略シ得ヘシ

敵国首都南京ノ占領力敵ニ与フル政戦両略上ノ打撃ニ就テハ喋々ヲ要セサルヘク又南京攻略ニヨリ初メテ中支那方面ノ作戦ハ一段落ヲ告クルモノト謂ヒ得ヘシ

此際目標ヲ近ク常州湖州等ニ選定シ或ハ十分ナル準備ヲ整ヘタル後南京攻略ヲ行ハントスルカ如キハ敵ニ戦力回復ノ余裕ヲ与フルモノニシテ断シテ採ラサル処ナリトス

二、今ヤ大勢ハ南京攻略ヲ中止シ得ヘキ情況ニ非ス 又第六感のニ南京ハ追撃ニヨリ容易ニ奪取シ得ヘシトノ信念アリ

三、茲ニ於テ十一月十五日夜軍司令官臨席ノ下ニ幕僚會議ヲ行ヒ軍全力ヲ以テ独断南京追撃ヲ敢行スルニ決ス

四、南京追撃ノ主眼点ハ敵ノ政戦両略上ノ重要首都ヲ占領スルニ在リテ本追撃ニヨリ敵軍主力ヲ捕捉殲滅セントセルモノニアラス

軍ニ於テハ最初第二期作戦目標ヲ常州ニ変更スルノ案力不成立ニ終リ其後湖東会戦ニ於テ敵軍主力ヲ逸シタル際ニ於テ最早中支那方面ニ於テ敵軍主力ヲ捕捉殲滅スルノ機会ハ逸シ去リタルモノト判断セリ

五、追撃ニヨリ南京ヲ占領シ得ヘキ期日ハ諸種研究ノ結果軍作戦課ニ於テハ十二月五日ニハ充分占領シ得ヘシト判断セリ

六、軍ニ於テハ右決心ヲナセシハ勿論此躍動セル戦機ヲ把握セハ軍独力ヲ以テ南京ヲ占領シ得ヘキ確信ヲ有スルモノニシテ上海派遣軍力假令急速追撃ヲ困難トスル状態ニ於テモ何等之ニ拘束セラルルコトナク独断追撃ヲ敢行セントスルモノナリ

南京追撃ノ合同命令

一、十一月十九日午前七時金山ニ於テ全軍ヲ以テ一挙南京ニ向フ追撃ヲ命令ス(作命甲第三十一号)

南京追撃頓挫ニ関スル経緯
一、集団ノ独断南京追撃ハ方面軍ノ容認スル処トナラス左記件ノミヲ認メラル

1 二師団ヲ湖州附近ニ一師団ヲ嘉興平望南潯鎮間ノ地区ニ集結シ爾後ノ作戦ヲ準備ス

2 一部ノ先遣隊ヲ前方ニ出スハ可ナリ

二、之カ為十二月二日南京攻略ニ関スル方面軍命令ヲ受領スル迄ノ間ニ於テ或ハ「南京ニ向フ作戦準備」或ハ「追撃準備ノ促進」等甚タ曖昧不徹底ナル命令ヲ下シ曩キニ下達セシ南京一挙追撃命令ノ權威ヲ失墜セルコト大ナルモノアリタリ

三、十一月二十三日南京追撃ニ関スル意見具申ヲナス
南京追撃ニ関スル意見具申

皇軍ノ一大鉄槌ニ依リ心胆ヲ奪ハレタル敵ハ其指揮組織根本的ニ混乱シ今ヤ上海戦線ニ於ケルカ如キ其兵数並陣地設備等物質的威力ハ殆ト其価値ヲ喪失シ其本来ノ怯懦脆弱ナル支那軍ノ質ニ還元シ全軍崩壊ノ兆歴然タリ 此現況ニ処シ将来ニ関スル策案ヲ決スルニ方リテハ叙上ノ実相ヲ把握シ躍動セル戦機ヲ逸スルコトナク一挙追撃ヲ敢行セハ敢テ大ナル兵力ト多クノ日子ヲ要セスシテ敵ノ死命ヲ制スルコトヲ得ヘシ
是敵ノ戦争意思ヲ挫折シ以テ時局ノ解決ヲ神速ナラシムル所ナリ若シ夫レ兵ヲ他ニ用フルノ必要アリトセハ何等ノ不安ナク隨時隨所ニ敵ト離脱スルコト極メテ容易ナリ
右具申ス

昭和十二年十一月二十二日

丁集団司令官 柳川平助

参謀総長
中支方面軍司令官 宛

○南京攻略命令の受領

- 一、十二月二日午前五時於湖州軍司令部ニ於テ南京攻略ニ関スル方面軍命令ヲ受領ス
- 二、軍ハ最初南京進撃ヲ決意セシ際ニ於テハ十二月五日南京ヲ占領

その一 第百十四師団

○『第百十四師団作戦経過ノ概要』

自 金山上陸(十一月七日)
至 南京攻略(十二月十四日)

第百十四師団作戦経過ノ概要

師団ハ十一月十、十一ノ両日ニ亘リ歩、工兵等徒歩部隊ノ大部ヲ以テ金山衛城附近ニ上陸シ十二日直ニ平湖方面ニ向ヒ作戦行動ヲ開始シ十三日新舊鎮西方地区ニ陣地ヲ占領セル約五、六中隊ノ敵ヲ攻撃シテ平湖東方ノ敵陣地ニ近迫シ所在ノ敵ヲ撃破シテ之ヲ平湖方向ニ庄迫中十六日楓涇ヲ経テ嘉興ニ前進スヘキ軍命令ニ接セリ 仍テ師団ハ純然タル徒歩裝備トナリ殆ト道ナキ所ニ道ヲ求メ糧ヲ敵ニ依リツツ所在ニ敗残兵ヲ駆逐シ殆ト不眠不休ノ難行軍ヲ続行シテ平湖東北方ノ大「クリーク」地帯ヲ踏破シ十八日午後漸ク主力ヲ以テ楓涇ニ一部ヲ以テ平湖ニ進出セリ

爾後師団ハ楓涇―嘉興道及平湖―嘉興道ヲ夜ヲ日ニ次テ急進シテ十九日嘉興及其東方地区ニ進入セシカ引続キ南京ニ向ヒ追撃スヘキ軍命令ニ依リ二十日更ニ進撃ヲ再興シ平望鎮及南潯鎮ヲ経テ先ツ湖州ニ向ヒ猛進シ二十二日夕同地東方約十五軒ノ地点ニ達セリ

二十三日朝來師団ハ国崎支隊ト協力シテ湖州附近ノ敵ヲ撃滅スル目的ヲ以テ湖州北方地区ヨリ之ヲ包圍攻撃スルニ決シ八里店附近ヨリ西北進シテ再ヒ大「クリーク」地帯ニ入り昆山附近ニ於テハ夜間密ニ湖州北方地区ニ於テハ昼間敵前ニ於テ共ニ大「クリーク」ノ渡

シ得ヘント判断セシモ其後追撃ノ頓挫ニヨリ相当遅延スヘク今
回南京攻略ノ方面軍命令受領ニヨリ判断セル占領期日ハ概ネ十一月十五日ノ予定ナリ

(之ノ湖州附近ニ於ケル停止期間約一週間ナルモ更ニ之カ為敵ニ準備ノ余裕ヲ与ヘ陣地堅固トナルヘキヲ以テ概ネ十五日頃トナルヘントノ判断ナリ)

○丁集作命第五十号ニ就テ

丁集作命第五十号ニ就テ

十二月二日午前五時中方作命甲第二十五号ヲ受領シ茲ニ初メテ南京攻略ヲナシ得ルコト、ナリシモ方面軍ノ企圖ハ一挙南京追撃ニアラスシテ尚上海派遣軍ヲ以テ磨盤山々系西方地区ニ第十軍ヲ以テ漂水附近ニ進出シテ南京攻略ヲ準備セントスルモノナリ
第十軍ノ企圖ハ十一月十八、十九日ノ命令通り一挙南京追撃ニヨリ奪取スルニアリ
方面軍ト第十軍トハ此ノ点ニ作戦指導ノ根本思想ニ於テ大ナル相違アリ

軍トシテハ甚タ残念ナルモ己ムナク作命第五十号ニ於テ漂水附近ニ進出シテ追撃ヲ準備スルコトヲ命令セリ

(以上『第十軍作戦指導ニ関スル参考資料』其二)

河ヲ敢行シ所在ニ敵ヲ撃破シテ遂ニ一部ヲ以テ二十四日夜主力ヲ以テ二十五日朝湖州西方約十軒ノ本道上ニ達セリ

師団ハ引続キ筐水橋附近ヲ占領セル約一、二大隊ノ敵ヲ撃破シテ二十五日夜全ク敵ノ陣ニ接シテ之ニ抵抗ノ余裕ヲ与フルコトナク長興ニ進入セリ

師団ハ二十六日直ニ秋山支隊ヲ宜興ニ向ヒ先遣シ主力ヲ以テ長興附近ニ於テ爾後ノ追撃ヲ準備セシメアリシカ二十七日更ニ先遣隊ヲ山嶽地帯ヲ経テ直路漂陽ニ向ヒ前進セシム 兩隊ハ各々当面ノ敵ヲ撃破シテ邁進シ十一月二十八日夜宜興ニ十二月一日漂陽ニ進入シ師団主力モ又逐次其兵力ヲ前方ニ推進セリ

爾後師団ハ引続キ前進ヲ続行シ奥支隊ヲ以テ四日午後一時稍々過キ主力ヲ以テ五日夜遂ニ漂水ニ進入シタリ

六日師団ハ奥旅団(実力ニ大隊)ヲ以テ湖熟鎮ヲ経テ方山東方地区ヨリ主力ヲ以テ漂水―秣陵関道方面ヨリ共ニ南京ニ向ヒ追撃セリ 師団主力ハ七日秣陵関附近ヲ占領セル約一千ノ敵ヲ撃破シテ之ヲ急追中同日夕湾里附近ニ於テ敵ノ頑強ナル抵抗ヲ受ケタル為之ヲ攻撃シテ逐次撃退シツ、躍進シ八日朝來引続キ將軍山附近ヲ堅固ニ占領セル約二千ノ敵ヲ攻撃セリ

奥旅団ハ七日方山東方約五軒ニ達シ敵「トーチカ」陣地ヲ逐次攻撃中ナリシカ八日受領セル軍命令ノ作戦地境ニ鑑ミ同夜之ヲ師団主力方面ニ招致セリ

九日夜秋山旅団ハ遂ニ將軍山附近ノ敵陣地ヲ突破シテ敵ヲ急追シ十日朝雨花台附近ニ陣地ヲ占領セル敵前ニ達シ之ニ対シ直ニ攻撃ヲ開始セリ

次テ師団ハ奥旅団其他逐次到着スル諸隊ヲ直ニ戦闘ニ加入セシメ

夕刻迄ニハ略全カヲ展開シテ數線ニ亘リ堅固ニ構築セラレタル敵「トーチカ」陣地ニ對シテ力攻ヲ敢行スルニ至レリ即チ曩ニ後方ニ殘置セル砲兵、大行李、輜重等ノ車馬部隊ハ十一月下旬上海附近ニ上陸シ師団主力ニ追及中ナリシカ南京附近ニ於テ何レモ其目的ヲ達シ南京攻撃ニ参加スルヲ得タリ。力攻ニ晝夜師団ノ第一線ハ逐次敵陣地ヲ蚕食シテ南京城ニ近迫シ十二日午後遂ニ其一部ハ城壁ニ突入シ南京城頭高ク日章旗ヲ掲揚シ得タリ。

師団ハ引続キ興、秋山ノ兩旅団ヲ以テ城内ノ掃蕩ニ任セシメ十三日略ヲ完了シ十四日午後遂ニ師団司令部ヲ以テ南京市府ニ入城セリ。

上陸以來南京攻略迄三十有五日此間ニ於ケル敵ノ遺棄死体ハ合計約七千我損害(戰死傷者)計一千五百弱ナリ。

今ヤ待望ノ南京攻略ヲ果シテ將兵ノ志氣ハ愈々旺盛ナリト雖戰局ノ前途尙遠遠ナルモノアルニ鑑ミ相戒メテ驕ラス師団ハ更ニ重大ナル次期任務ニ備ヘテ只管有形無形上ノ戦力ノ充實警備ノ完璧及治安ノ確保ニ努メツ、アリ。

○第百十四師団『戰鬪詳報』

自 十二月六日
至 十二月十四日

其五 南京附近ノ戰鬪

秋山旅団ハ九日將軍山附近ノ敵ヲ突破シテ直チニ追撃ヲ敢行シ十日五時頃其ノ先頭ヲ以テ林家崗附近ニ達セリ。

樓子北方高地ニ前進ス

師団長ハ重点ヲ曾家門附近ヨリ南京東南角方向ニ保持シテ夜ニ入ルモ攻撃ヲ続行スルニ決シ午後六時之カ部署ヲ為セリ(一一四師作命第六〇号)。

乃チ兩旅団ノ作戰地境ヲ更ニ東方ニ交換スルト共ニ砲兵ノ主力ヲ周家樓子附近ニ陣地占領セシメ主トシテ奧旅団ノ戰鬪ニ協力セシムス諸隊ハ夜ニ入ルモ攻撃ヲ続行シ逐次敵陣ヲ突破シテ十二日午後周家凹雨花台ノ線ニ進出シソノ一部ハ遂ニ城壁ニ突入スルニ至レリ。コノ間師団ハ或ハ獨立機關銃大隊ヲ兩翼隊ニ増加シ或ハ砲兵ノ一部ヲ兩翼隊ニ配屬スル等極力第一線ノ戰鬪進捗ニ努ム。

十二日夕師団ハ主力ヲ雨花台周家凹ノ線以南ノ地区ニ集結シ一部ヲ以テ城内ヲ掃蕩スルタメ所要ノ部署ヲ為セリ。

然ルニ十三日朝ニ至リ城内ノ敵殲滅ノ為ニハアテナル手段ヲ尽スヘキ軍命令ニ接シ師団ハ主力ヲ以テ城内ノ敵ヲ掃蕩スルニ決シ更ニ部署スル所アリタリ(一一四師作命第六十二号)。

諸隊ハ城内ニ突入シ殘敵ヲ掃討シテ十三日夕遂ニ南京城内ノ掃討ヲ概テ完了スルニ至リ師団司令部ハ十四日午後入城セリ。

第二 所見

一、戰場ノ地形ト敵陣地施設ニ對スル觀察

戰場一般ノ地形ハ湖東平地ノ如ク「クリーク」ノ數多カラスト雖起伏多ク蔭蔽錯雜ニシテ展望不良ナリ。

南京南方ノ台地ニ於テ殊ニ然リ。

敵ハコノ地形ヲ利用シテ數線ニ鉄条網ヲ有スル「トーチカ」陣地ヲ構築シ且巧ミニ偽裝シアルトタメ之カ偵察ニハ特別ノ困難ヲ感シタリ。

旅団ハ直ニ南京南門―藤田橋道兩側地区ヨリ逐次前方ニ其兵力ヲ推進シテ速ニ雨花台附近ニ進出セントセシモ花神庙附近ニ於テ一連ノ敵陣地ニ遭遇スルニ至リタル為秋山旅団ハ直チニ之ニ對シ攻撃ヲ開始セリ師団長ハ秋山旅団ノ後方ヲ前進シテ午前八時頃藤田橋十字路附近ニ達ス當時奧旅団及砲兵聯隊ノ主力等ハ其ノ後方ヲ追及中ナリ師団長ハ秋山旅団當面ノ敵情ヲ以テ雨花台附近ニ拋ル敵ノ最後ノ抵抗ナリト判断シ直ニ之ヲ攻撃スルニ決シ午前八時以來逐次到着スル部隊ヲ部署シテ之ヲ戰鬪ニ加入セシム(一一四師作命第五十九号)乃チ秋山旅団ヲ以テ花神庙附近ヨリ雨花台ニ向ヒ攻撃セシムト共ニ奧旅団ヲ其ノ東側周家樓子附近ヨリ周家凹ニ向ヒ攻撃セシム然ルニ奧旅団ハ方山東方地区ヨリ連続強行軍ヲ以テ九日夜半過永慶庵附近ニ到着シ引続キ前進シタル途中ニ於ケル道路不良ナリシ為藤田橋附近ニ到着シタルハ午前九時ニ近ク周家樓子北側地区ニ其ノ展開ヲ完了シタルハ正午過トナレリ砲兵ハ永慶庵藤田橋道カ意外ニ不良ナリシタメ容易ニ戰場ニ到着スル能ハス花神庙附近ニ陣地ヲ占領シテ主トシテ秋山旅団ノ戰鬪ニ協力スヘキヲ命シタルモ正午頃マテニ到着シ得タルハ僅ニ數門ニ過キサリシモ夕刻迄ニハ野砲重砲ノ大半到着シテ戰鬪ニ参加スルニ至レリ永慶庵、藤田橋道ノ道路改修ニ任シアリシ工兵聯隊亦正午ニ近ク戰場ニ到着シタルヲ以テ直ニ其ノ主力ヲ兩旅団ニ分屬セシム。

斯テ我第一線ハ右ヨリ 150 i 115 i 66 i 102 i ノ順ヲ以テ銳意攻撃ヲ力行シタルモ敵ハ曾家門附近ヨリ日家永洞附近ニ亘ル線以北ニ數線ニ亘リ堅固ニ陣地ヲ占領シ多數ノ輕重機迫撃砲ヲ有シ間斷ナク射撃シテ我カ突破ヲ許サス十日夕刻我第一線ハ漸ク堤防附近ノ障礙物ヲ有スル敵トーチカ陣地ニ近迫シ得ルニ過ス師団司令部ハ午後四時朱家

飛行機ノ通報ノ如キモ概略ノ陣地線ハ示サレアルモ「トーチカ」位置ノ如キハ確シ得サルカ如シ。

今回ノ攻撃ハ之等充分ニ施設セラレタル陣地ニ對シ殆ント奇襲的遭遇戰的ニ攻撃ヲ敢行シタルモノニシテ準備ニ於テハ必スシモ遺憾ナシト断言シ得サルモノアリト雖志氣上ニ於ケル差異ノ他前述ノ地形ニヨリ却テ我ハ隱蔽近接シテ一挙ニ突撃スルノ利点ヲ獲得シ比較的損害ヲ少クシテ成功ヲ見ルニ至リタルモノト思考ス。

二、本地方ノ作戰ニ於テハ成ルヘク多クノ山砲ヲ有セシムルヲ可トス。如何ニ奇襲的ニ攻撃スル場合ト雖施設充分ナル陣地ニ對シテハ必ス砲兵火力ノ協力ヲ得ルコト必要ナリ。

而シテ前述ノ如キ波状地帯ナルニ鑑ミルトキ砲兵ハ山砲ヲ可トシ成ルヘク多ク之ヲ有セシムルヲ適當ナリト思考ス。

三、本地方ノ作戰ニ於テハ成ルヘク多クノ工兵ヲ有セシムルヲ可トス之カ為師団工兵聯隊ノ中隊數ハ三個ナルヲ要ス。本地方ハ比較的「クリーク」ノ數少シト雖猶多數ノ橋梁破壞サレアルタメニ全般ノ行動力著ク阻害セラレタル例少ナカラス且道路外ヲ車輛ノ通過スルコト困難ナルタメ砲兵陣地ノ如キハ道路ノ沿ヒヒテ重疊配備セサルノ止ムヲ得サルニ至リシコト少ナカラス。

之等ノ不利ヲ速カニ医スルタメニハ努メテ多クノ工兵ヲ使用シ得シムルヲ要ス。歩工兵ノ協力ニヨリ陣地直前ノ障礙物ヲ破壊セサルヘカラサル場合多キニ於テ殊ニ然リ。

計	野 重 砲	D 通 信	D 衛 生	輜 重 一 一 四	工 一 一 四	野 砲 一 二 〇	騎 一 一 八	歩一二八旅			歩一二七旅			司令部	部隊		区分
								步 一 五 〇	步 一 一 五	司 令 部	步 一 〇 二	步 六 六	司 令 部		戰	死	
四			一							三					准士官以上	下士官兵	
三〇									五	一	一	一	一		准士官以上	下士官兵	
一二										五	六	六	六		准士官以上	下士官兵	
七六			三	六					三	三	三	三	三		准士官以上	下士官兵	
一												一			准士官以上	下士官兵	
八													八		准士官以上	下士官兵	

附表第一其一 秣陵関附近戦傷者 第一百十四師団司令部

- 之カタメ師団工兵ノ中隊數ハ三個トスルヲ要ス
- 二ヶ中兵ハ工兵兵力ノ重点形成ニ於テ亦不利ナルモノアリ
- 四、特設師団ニモ中隊ニ少クモ一人ノ現役將校ヲ有セシムルヲ要ス
特設師団ニ於テ最モ感スルハ幹部特ニ中隊長以下ノ幹部ノ能力
不充ナルコト之ナリ
而シテソノ原因ハ之等幹部ノ殆ント全部カ予後備ヲ以テ充當セ
ラレアルニヨラスンハアラス
- 兵ノ能力勇敢サニ於テハ見ルヘキモノ少ナカラス
唯中隊長以下ノ幹部ノ能力足ラサルタメ隊トシテノ活動価値ニ
於テ甚タ遺憾ニ感セラレタルモノナントセス
之カ為少クモ中隊内ニ活動ノ基幹タル現役將校一人ヲ有セシム
ルヲ必要ナリト感ス
- 第三 我損害使用彈藥敵ノ遺棄屍體戦利品
- 一、我損害情況附表第一其一、其二、其三ノ如シ
- 二、射耗彈藥及使用爆藥概數表附表第二其一、其二ノ如シ
- 三、敵ノ遺棄屍體ノ概數別〔附〕表第三ノ如シ
- 四、我戦利品ノ概數附表第四ノ如シ

附表第一其二 將軍山附近戰鬪死傷者表 第四百十四師團司令部

計	野重砲	D通信	D衛生	輜重 一一四	工 一一四	野砲 一二〇	騎 一一八	步一二八旅			步一二七旅			司令部	部隊	区分		
								步 一五〇	步 一一五	司令部	步 一〇二	步 六六	司令部			准士官以上	戰	
																		死
一																		
三					六	一		六五	六五			三						
三								八	一六			三						
一七					三一	一三	三	一五三	二〇五			一五	二					
一																		

附表第一其三 南京附近戰死傷者表 第四百十四師團司令部

計	野重砲	D通信	D衛生	輜重 一一四	工 一一四	野砲 一二〇	騎 一一八	步一二八旅			步一二七旅			司令部	部隊	区分		
								步 一五〇	步 一一五	司令部	步 一〇二	步 六六	司令部			准士官以上	戰	
																		死
一五	二							一	七			二	三					
一九一	三		一		六	一		六五	六五			三二	一八					
二六	一							八	一六			一						
六五六	一二		三		三一	一三	三	一五三	二〇五			一五一	八五					
六																		

附表第二其一 射耗彈藥概數調査表

昭和十二年十二月十五日 末松部隊

品目	戦闘前ノ携行数	受数	射耗数	残数	補填ヲ要スル員数	摘要
三八銃実包	二、九五九、六五〇	二二〇、三三〇	五九一、九二五	二、四九四、九七〇	四六四、六八〇	本表射耗彈藥ハ金山衛城上陸以後南京ニ至ル間ノ射耗彈藥トス
三年式機関銃実包	八三二、八〇〇	七三、三三〇	二三四、九五〇	六五八、六二〇	一七四、一八〇	
二十六年式拳銃実包	四五、六六四		三、八五〇	四一、八一四	三、八五〇	
九一式曳火手榴彈	一四、四〇〇	二、四八〇	四、五〇〇	一一、三八〇	二、〇二〇	
十一年式平射歩兵砲彈藥	二、五六〇	一、〇五〇	六〇〇	三、〇一〇		
九二式歩兵砲彈藥	三、五六〇		四五〇	三、一一〇	四五〇	
三一式山砲彈藥	一、二八八		六五〇	六三八	六五〇	
三八式野砲榴彈	七、〇四〇	九二〇	二、五七〇	五、三九〇		
同 榴 霰 彈	七、〇三六	二四〇	九一一	六、三六五	六七一	
四年式十五榴榴彈砲榴彈	一、二四〇		一、一〇六	一三四	一、一〇六	
同 榴 霰 彈	九四		七七	一七	七七	
九四式発煙筒	六、六〇〇	一、八〇〇	二、〇〇〇	六、四〇〇		

附表第二 其二 使用爆薬概数調査表

品目	区分	戦闘前ノ携行数	受数	使用数	残数	補填ヲ要スル員数	摘要	
								備考
黄色 薬		七九五疋		五三疋	七四三疋	五三疋	南京附近ノ戦闘ニ於テ使用セルモノトス	
雷 管		二、五〇〇		三五〇	二、一五〇	三五〇		
緩燃 導火索		八二〇米		一〇〇米	七二〇米	一〇〇米		
点 火 管		一、六〇〇		一〇〇	一、五〇〇	一〇〇		
爆 発 缶		二二四		三四	一九〇	三四		
備考		一、本表ノ数量ハ概数ニシテ逐次訂正ヲ要スルモノトス						

附表第三 敵ノ遺棄屍体調査概数表

戦闘 名	屍 体 数
秣陵関附近ノ戦闘	約二〇〇
方山附近ノ戦闘	調査中
將軍山附近ノ戦闘	八〇〇
南京附近ノ戦闘	五、〇〇〇
計	六、〇〇〇

品目	甲	乙	丙	計	処置ノ大要		
					自隊利用数	送致数	棄却数
小銃	二九	六三〇	八五	八四四	一三(七三〇)	一六	八五
チエツコ軽機関銃	四		七〇	七四	二(四一)	三	二八
重機関銃		一		一			
迫撃砲	四			五	(四)	一	
機関銃	二			二	(二)	一	
山砲	三			三		三	
速射砲	二			二	(一)	一	
拳銃	二	三三		三四	二(三二)		
銃剣			二七	二七	(二七)		
小銃実包	七八、〇〇〇			七八、〇〇〇	(四八、〇〇〇)		
手榴弾	二〇、〇〇〇			二〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇		二〇、〇〇〇
火薬箱	三三			三三			三三
歩兵砲	一二〇			一二〇	(一一〇)		
自転車	二		二八	三〇	二		二八
自動車	一		三	五	二		二
円匙	六六			六六	(三六)		三〇

品目	甲	乙	丙	計	処置ノ大要		
					自隊利用数	送致数	棄却数
十字銃	一七			一七	(一七)		
電話機		一七		一七	(一七)		
電話線	五			五		五	
ガソリン	七、五〇〇 ガソリン			七、五〇〇 ガソリン		七、五〇〇	
モビール	六五〇			六五〇		六五〇	
青竜刀	一			一		一	

考
 一、ガソリン及モビールハ漂水及宜興ニ於テ押収シ直ニ通過各部隊ノ為ニ補給所ヲ開設ス
 二、小銃実包一〇、〇〇〇、円匙三〇、電話線五八、南潯鎮ニ於テ押収シ兵站ニ送附セリ
 三、備考一、二以外ノモノハ南京戦ニ於テ押収セリ
 四、送致数中()ヲ附セルハ部隊ヨリ直接野戦砲兵廠ニ送達セルモノトス
 五、其他迫撃砲、機関銃、自動小銃、馬具工、器具ヲ多数(数量不明)ヲ南京金陵兵工廠内ニ於テ押収シ同地ニ於テ野戦砲兵廠ニ送達ス
 六、甲ハ使用ニ堪エルモノ、乙ハ補修ヲ要スルモノ、丙ハ使用出来ザルモノヲ示ス

○第百十四師団『戰時旬報』第五号

自 昭和十二年十二月十一日
至 同 十二月二十日

目次

- 一、彼我兩軍ノ状況ノ概要
- 二、彼我状況概見図 附図第一
- 三、給養衛生ニ関スル事項

一 彼我兩軍ノ状況ノ概要(附図第一参照)

1、九日夜半秋山旅団ハ將軍山附近ノ敵ヲ突破シ直チニ追撃ヲ敢行シ南京南門―蕪田橋道兩側地区ヨリ其ノ兵力ヲ推進シ雨花台附近ニ進出セントセンカ十日未明蕪田橋附近ニ達スルヤ花神廟附近ニ於テ一連ノ敵陣地アルコトヲ偵知シ得タルヲ以テ午前六時頃ヨリ之ニ対シ攻撃ヲ開始セリ當時奧旅団及砲兵聯隊ノ主力ハ秋山旅団ノ後方ヲ追及中ナリ

師団長ハ十日午前八時頃逐次到着スル部隊ヲ部署シテ之ヲ戦闘ニ加入セシメ秋山旅団ヲ以テ花神廟附近ヨリ雨花台ニ奧旅団ヲシテ其東側周家樓子附近ヨリ周家凹ニ向ヒ攻撃セシムルノ部署ヲ為セリ然ルニ奧旅団ハ方山東方地区ヨリ連統強行軍ヲ以テ九日夜半過永慶附近ニ到着シタルモ道路不良ノ為メ遅レテ周家樓子北側地区ニ其展開ヲ完了シタルハ十日正午過トナレリ

砲兵ハ永慶庵蕪田橋道不良ノ為メ容易ニ戰場ニ到着スル能ハス花神廟附近ニ陣地ヲ占領シテ秋山旅団ニ協力セシハ正午頃

迄ニ僅ニ數門ナリシモ夕刻迄ニ野砲重砲ノ大半到着シテ戦闘ニ参加スルニ至レリ工兵聯隊モ又十日正午頃戰場ニ到着セシヲ以テ兩旅団ニ分属セシム

我第一線各隊ハ銳意攻撃ヲ力行シタルモ敵ハ曾家附近ヨリ日家水洞附近ニ亘ル線以北ニ數線ニ亘リ堅固ニ陣地占領シ我ニ猛射ヲ浴ヒセ突破ヲ許サス十日夕刻我第一線ハ漸ク堤防附近ノ障礙物ヲ有スル敵「トーチカ」陣地ニ近迫シ得タルニ過ス師団司令部ハ午後四時朱家樓子北方高地ニ前進セリ

十一日師団ハ重点ヲ曾家門附近ヨリ南京南角方向ニ保持シ夜ニ入ルモ攻撃ヲ続行シ逐次敵ノ縱深陣地ヲ突破シ十二日午後周家凹雨花台ノ線ニ進出シ其ノ一部ハ遂ニ南京城壁ニ突入スルニ至レリ

十二日夕師団ハ主力ヲ雨花台、周家凹ノ線以南ノ地区ニ集結シ一部ヲ以テ城内ヲ掃蕩セシムルノ部署ヲ為セリ

然ルニ十三日朝ニ至リ城内ノ敵殲滅ノ為アラユル手段ヲ尽スヘキ軍命令ニ接シ師団ハ主力ヲ以テ城内ノ敵ヲ掃蕩スルノ処置ヲナセリ十三日夕遂ニ南京城内ノ掃蕩ヲ概ネ完了スルニ至リ師団司令部ハ十四日午後入城セリ

2、自十二月十五日正午至十二月二十日ノ間師団司令部ヲ南京市政府ニ置キ各隊ハ概ネ南京東南地区ニ宿營ス其ノ間十二月十七日入城式 十八日慰靈祭ヲ施行セラル

3、丁集團ハ既ニ之ヨリ先キ一部ヲ以テ南京及蕪湖附近ヲ警備セシメ主力ヲ以テ速ニ杭州攻略ヲ企図シアリ之カ為メ第十八師団ヲシテ下泗安広徳ノ地域ヨリ杭州ニ向ヒ前進セシメ第百一師団ヲシテ湖州、後備歩兵団ヲシテ滬杭角鉄道ニ沿フ地区ヨ

リ前進セシメ杭州攻略ヲ準備スルト共ニ第六師団ヲシテ南京及蕪湖附近ヲ警備セシメタリ

4、十二月十五日午後四時南京ニ於ケル師団命令要旨

- (一) 集團ハ一部ヲ以テ南京蕪湖附近ニ残置シ主力ヲ以テ速ニ杭州攻略ヲ準備ス
- (二) 國崎支隊ハ浦口附近ヲ占領シアリ
- (三) 第六師団ハ一部ヲ以テ蕪湖ヲ主力ヲ以テ南京ヲ警備ス第八師団ハ下泗安広徳ノ地域ニ前進シ杭州ニ向フ攻撃ヲ準備ス
- (四) 第一師団ハ湖州附近ニ集結シ杭州ニ向フ攻撃ヲ準備ス
- (五) 師団ハ速ニ宜興及長興ニ前進シ爾後ノ行動ヲ準備セントス
- (六) 各部隊ハ別紙計畫表(別紙計畫ハ附セス)ニ基キ宜興及長興ニ向ヒ前進スヘシ
- (七) 予ハ第五梯団ト同行ス
- (八) 師団ノ各部隊ハ右命令ニ基キ夫々十六日ヨリ十九日ニ亘リ南京ヲ出発シ目的地ニ向ヒ行軍ヲ実施シ二十日徐舍鎮東側地区ヨリ会塘ニ亘ル間ニ達シ宿營セリ

脱シ南京入城ト共ニ豊富ナル物資ヲ獲得シ給養ハ良好ナル状態ニアリタリ

宜興長興集結ニ當リテハ集結地ニ部員ヲ先遣シ野戰倉庫ヲ開設セシメ出発ニ際シテハ規定給養裝備ヲ充足スル外各人馬一日分ノ増加携帶ヲナシ途中兵站ノ補給及師団輜重積糧糶ノ卸下ニ依リ給養ヲ実施セリ

2 主要ナル処置

- (イ) 南京攻略間ハ時々部員ヲ第一線ニ派遣シ各部隊ト連繫セシメ南京入城ニ當タリテモ全市物資利用ノ為部員ヲ派遣シ南門外ニ於テ師団三分ノ精米ヲ又市内ニ於テ煙草專売局在庫ノ支那香烟相当多量ヲ獲得シ何レモ軍經理部ニ引継タリ
- (ロ) 十三日朱家樓子野戰倉庫ヲ南京南門城外停車場南側ニ移転シ追送品及現地品ヲ以テ之ヲ充實シ各部隊ノ補給ニ任シタリ
- (ハ) 特ニ被服品ニアリテハ靴下軍靴ノ補給ヲ實施シ爾後ノ行動ヲ準備シ得タルハ幸ナリキ
- (ニ) 宜興長興ニ兵力ヲ集結スルニ當リテハ前進間給養計畫(別紙)ニ基キ途中秣陵関、漂水、漂陽及集結地宜興長興ニ部員ヲ先遣シ各兵団ノ補給ニ遺憾ナキヲ期シタリ

二 彼我状況概見図別紙ノ如シ

〔図略〕

三 給養衛生ニ関スル事項

- 1 給養ニ就テ
- 南京城攻撃間戦闘ノ激烈ナルト共ニ現地物資又無ク給養ハ困難ナル状況ニアリタルモ野戰倉庫ノ開設等ニヨリ漸ク危機ヲ

- 3 衛生ニ就テ
- (イ) 衛生機関業務ノ概要
- 丁家巷ニ綑帶所ヲ開設中ナリシ衛生隊ハ十二日花神廟ニ前進シ第三野戰病院ト協力患者ノ収療ニ任スルト共ニ野戰病院ノ患者ヲ車輛ヲ以テ南京野戰予備病院ニ送致セリ
- 第一野戰病院ハ杭州攻略戦ニ参加中
- 第二野戰病院ハ引続キ丁家巷ニ病院ヲ開設傷者収療ニ勉メ

4 徵発給与担任左ノ如シ

- 第一中隊——III口。第二中隊
- 第三中隊——第十中隊
- 第四中隊——第十一、十二中隊
- 第一機関銃隊——第三機関銃隊

注意

- (イ) 徵発ハ城外ニ於テ行ヒ城内ニ於ケル徵発ハ絶対ニ禁ス
- (ロ) 徵発ハ主食調味品トシ金品等ハ徵発ナサ、ルコト
- (ハ) 南京ハ国際都市ナルヲ以テ日本軍トシテノ体面ヲ傷ツケサル様注意スルコト
- (ニ) 特ニ当師団之カ始メテニシテ試金石トナルカ故ニ注意ヲ要ス
- (ホ) 防毒面ハ何時ニテモ装着シ得ル様準備シ置クコト
- (ヘ) 水ハ絶対ニ飲マサルコト

命令受領者ヲ出シ置クヘシ

第一大隊長代理 洪谷大尉

右命令下達中当面ノ市街ニ通入セル敵ハ家屋ニ抛リ機銃、歩兵

砲、手榴彈ヲ以テ抵抗シ窓ヨリ狙撃ヲナス第一線部隊ハコノ敵

ヲ圧迫シツ、アリ

茲ニ於テ大隊長ハ当面ノ敵ヲ掃蕩シ南京城南側「クリーク」ノ

線ニ圧迫シ殲滅セント企図シ

第四中隊ヲシテ(RMG一小隊協力)東側地区ヨリ第一中隊ヲ

シテ(1/2 IMG協力)中央地区ヨリ第三中隊ヲシテ(独機二小

隊協力)南門ニ通スル本道東側地区ヨリ侵入掃蕩ヲ開始セシム

IMGハ主力ヲ以テ高地ヲ占領セシメ反撃シ来タル敵ニ対シ

準備セシム

(附圖一〇)

收容患者二八二名ヲ南京野戦予備病院ニ転送ス

第四野戦病院ハ引続キ永慶庵ニ病院ヲ開設患者一六五名ヲ

野戦予備病院ニ後送ス

患者輸送ノ状況

野戦病院ノ收容患者ハ衛生隊車輛及患者輸送部患者車ヲ以

テ南京野戦予備病院ニ輸送セリ

衛生材料ハ主トシテ南京ニ於テ衛生材料廠ヨリ補給セリ

一般衛生状況

靴下ノ支給ヲ見タルノミ被服ノ汚損ノ程度著シ

糧食給水等特記スヘキ事項ナシ

患者ノ状況

新患者総数約七〇〇内戦傷三五〇戦死七七平病患者ハ前旬

ト大差ナシ。

○歩兵第六十六聯隊第一大隊『戦闘詳報』

自 昭和十二年十二月十日
至 同 十二月十三日

大隊命令

十二月十二日午後二時三十分
於 南京南門外高地大隊本部

- 1 天佑ヲ保有スル皇軍ハ諸官連日連夜ノ勇戦奮闘ニヨリ茲ニ
目出度ク南京入城ノ光榮ヲ担フ
- 2 第一大隊ハ南門城外ヲ午後三時占領シ聯隊主力ノ南京入城
ヲ掩護シタル後城外隣接部落ヲ掃蕩ヲ実施セントス 各中
統隊ノ掃蕩区域ハ現地ニ於テ各中統隊長ニ示ス
- 3 入城掩護撤去ノ時期ハ後命ス

三、当面ノ敵ヲ掃蕩中午後四時三十分左ノ聯隊命令ヲ受ク

歩六十六作命甲第八十三号

歩兵第六十六聯隊命令

十二月十二日午後三時三十分
於 南京南門外聯隊本部

- 一、敗退セル敵ハ城門壁上ニ於テ我カ城内侵入ヲ阻止シアルモ
其兵力僅少ナリ
- 二、聯隊(第三大隊第九中隊欠配属部隊旧ノ如シ軍旗中隊モ含
ム)ハ南門ヲ突破シ城内ニ侵入シ残敵ヲ掃蕩シ要所ヲ確保
セントス
- 三、第三大隊ハ城門外両側屋上ニ軽重火機ヲ配置シ城門破壊ニ
砲兵及工兵ノ動作ヲ援護シ且城壁ノ残敵ヲ掃蕩シ爾後城門
開放セハ城門内ニ掃蕩ヲ行ヒ以テ突入シ城内東方地区ノ残
敵ヲ掃蕩シ要所ヲ確保スヘシ
- 四、第一大隊(配属部隊旧ノ如シ)通信班聯隊砲中隊工兵小隊
ハ第三大隊城内侵入後掩護射撃ヲ撤シ軍装ヲ整ヒ死傷者ノ
整理ヲナシ城門外ニ於テ前命令ノ物資ヲ徵発シ後南門外本
道上ト鉄道線路トノ交叉点トヲ先頭トシ途上縦隊ニ集合シ
後命ヲ待ツヘシ
- 五、予ハ軍旗ト共ニ城内ニ進入ス南門内楼上ニ在リ 皇居ヲ遙
拝ス命令受領者ヲ出シ置クベシ

聯隊長

山田中佐

下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

三、第四中隊ハ舊進シ来タルISi配属ノ輕裝甲車中隊(小倉五大
隊)ト協力シ擲彈筒手榴彈ヲ以テ頑強ニ家屋ニ抛リ抵抗スル敵
ヲ制圧シツ、進入ス敵ハ最初歩兵砲ヲ撃チ手榴彈ヲ屋上ヨリ投

擲シテ抵抗セルモ裝甲車ノ威力ト歩兵ノ勇敢ナル突進ニ惧レヲ
ナシ逐次白旗ヲ掲ケテ投降スルモノ続出セリ此ノ間各將兵ハ手
榴彈ノ下ヲ潜リテ屋内ニ侵入シ或ハ階上ニ駈ケ登リテ随所ニ白
兵戦ヲ演ス

敵將校中ニハ投降ヲ肯セス最後マテ抵抗シ或ハ投降セントスル
部下ヲ後方ヨリ射殺セルモノアリ第四中隊田名網伍長ノ如キハ
敵歩兵砲ノ火制セル直前ニ突入シ該砲ヲ鹵獲セリ

第一中隊方面ハ当初屋上ヨリ投擲スル手榴彈ノタメ侵入困難ナ
ル情況ニアリシカ第四中隊方面ノ進捗ニ伴ヒ之ニ呼応シテ猛突
シ逐次掃蕩シ之又多数ノ捕虜ヲ得

第三中隊方面ハ大ナル抵抗ヲ受クルコトナク予定ノ通り進捗セ
リ午後七時頃手榴彈ノ爆音モ断続的トナリ概ネ掃蕩ヲ終リ我カ
損害極メテ輕微ナルニ反シ敵七〇〇名ヲ殲シ捕虜一、五〇〇余

名及多数ノ兵器彈藥ヲ鹵獲シ該方面ニ遁入南門城扉ヲ鎖サレ退
路ヲ失ヒシ敵ヲ城壁南側「クリーク」ノ線ニ圧迫シ殆ント殲滅
シ其策動ヲ封スルヲ得タリ最初ノ捕虜ヲ得タル際隊長ハ其ノ三

名ヲ伝令トシテ抵抗断念シテ投降セハ助命スル旨ヲ含メテ派遣
スルニ其ノ効果大ニシテ其ノ結果我カ軍ノ犠牲ヲ尠ナカラシメ
タルモノナリ捕虜ハ鉄道線路上ニ集結セシメ服装検査ヲナシ負

傷者ハ勞ハリ又日本軍ノ寛大ナル処置ヲ一般ニ目撃セシメ更ニ
伝令ヲ派シテ残敵ノ投降ヲ勸告セシメタリ

一般ニ觀念シ監視兵ノ言ヲ敵守セリ

十四、午後七時五十分左ノ大隊命令ヲ下達セリ
大隊命令 於 十二月十二日午後七時五十分
南京南門外大隊本部

- 1 敵ハ揚子江ヲ渡リ続々退却中ナルモ尚多数ノ残敵ハ城内外ニ在リテ頑強ニ抵抗シツ、アリ
 - 2 大隊(第二中隊欠、独機二小隊RMG 1/4ヲ附ス)ハ午後七時概ネ南門外ノ掃蕩ヲ終リ南京城外ヲ占領シ四周ノ敵ニ對シ警戒シ夜ヲ徹セントス
 - 3 各隊ハ大隊副官ノ指示ニヨリ各々配備ニツクヘン
 - 4 警戒ニ関シテハ四周ニ對シ歩哨ヲ配置スル外第一中隊ハ南側高地ニ第三中隊ハ警備地西側ニ第四中隊ハ警備地東側ニ各々下士哨ヲ配置スル外一部ヲ以テ掃蕩担任区域ノ警戒ニ任スヘシ又別ニ第三中隊ヨリ一ヶ小隊ヲ出シ警備地南側高地ヲ占領スヘシ
 - 5 給与ハ現地物資ニ依ルヘシ
 - 6 余ハ大隊本部ニ在リ
- 命令受領者ヲ出シ置クヘン
第一大隊長代理 渋谷大尉
- 下達法 各隊長ヲ集メ要旨ヲ伝ヘタル後命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム
- 注意事項
- 1 南京城外ノ掃蕩ニ於テ捕虜一、五〇〇余名
 - 曲射砲 二
 - 歩兵砲 一
 - 自動車 一
 - 重機 六
 - 輕機 二〇
 - 小銃 一、五〇〇

- 拳銃 五〇
高射砲 二
彈藥 五〇、〇〇〇
- 1 我友軍砲兵(重砲)又終夜城内ヲ砲撃シ頭上ヲ越エテ敵砲兵ヲ命中セリ
 - 2 南京附近ニ於テ生水ヲ飲用スル某隊ノ兵二名ハ即死セリ絶對ニ飲用セサルコト
 - 3 火焰ヲ絶對ニ戸外ニ洩ラサス且ツ喧噪ニ亘ラサルコト砲撃ヲ受クル顧慮大ナリ
(現ニ二回ニ亘リ砲撃ヲ受ケタリ)
 - 4 尚各隊共ニ家屋防禦ノ設備ヲナシ敵ノ來襲ニ備フヘシ更ニ第四中隊ハ全員ヲ以テ捕虜ノ監視ニ任スヘシ
残置セル背囊ハ明日中ニ中隊ノ半数ノ人員ヲ以テ運搬シ得ルノ準備ニアルヘシ服装ハ執銃帶劍トス
- 十二日夜ニ於ケル配備附圖一ノ如シ
- 六、物資ハ米、味噌砂糖等若干ヲ徵発シ得將兵ノ欲望ヲ満シ得タリ
 - 七、聯隊主力ハ南門扉固ク入城スルニ至ラス城外ニ露營スルニ決ス
 - 六、敵ハ終夜城壁ヨリ盲射ヲ続ケタリ日没後前半夜數回ニ亘リ野砲、迫撃砲ノ射撃ヲ受ケ損害ナカリシモ本部附近ノ家屋ニ數彈命中セリ

制庄シタリ我カ砲兵射撃ヲ開始セハ敵砲兵沈黙シ我レ射撃ヲ中止セハ彼レ又射撃ヲ開始セリ

本十二日ニ於ケル死傷者左ノ如シ

月	日	隊	号	戦	死	重	傷	輕	傷
一、二	一、二	第一	中隊	歩上	高橋一郎			荒井正夫	
		第二	中隊	歩少尉	荒牧新一郎			關隆行	
		第三	中隊	歩伍	岩山本清			大田良三	
				歩上	中山久			古谷武	
				歩上	根岸在久			小川昇	
				歩一	岩本幸太郎			福田市太郎	
				同	君島壯七郎			松本鶴治	
		近衛獨立機関銃隊		歩少尉	坂本光将			小川円真	

十二月十三日

一、午前一時三十分左記聯隊命令ヲ受ク

歩六六作命甲第八十四号

步兵第六十六聯隊命令

十二月十三日午前零時二十分
於 南京南門東南高地

- 1 師団ハ南京入城ヲ企図セシモ城門ヲ破壊スルニ至ラス止ムナク侵入スルヲ得ス
- 2 聯隊(第二大隊第九中隊欠)獨立機關銃二小隊工兵小隊ヲ屬セラルルハ南門東南方高地線ヲ占領シ夜ヲ徹セントス
- 3 第一大隊(聯隊機關銃隊一小隊 獨立機關銃二小隊屬ス第二中隊欠)ハ左第一線トナリ本道東側約二百米ノ線ヨリ鐵道線路ニ沿ヒ集團家屋ニ亘ル間ヲ占領シ夜ヲ徹スヘシ但シ陣地東側高地ハ一小隊ヲ以テ確實ニ占領セシムヘシ
- 4 第三大隊(第九中隊欠)聯隊機關銃(一小隊欠) 歩兵砲中隊ヲ屬スハ右第一線トナリ左第一大隊ニ連繫シ集團家屋東側ヲ經テ南側ニ亘ル間ニ陣地ヲ占領シ夜ヲ徹スヘシ但シ一小隊ヲ以テ集團家屋南方高地ヲ確實ニ占領セシムアルヘシ
- 5 聯隊砲中隊通信班ハ別ニ指示スル位置ニ在リテ露營スヘシ工兵小隊ハ南門破壊ノ為敵狀地形ヲ偵察スヘシ
- 6 第二中隊ハ聯隊本部前ニ單哨ヲ配置シ警戒セシムルト共ニ別ニ指示スル位置ニ警戒兵ヲ配置スヘシ
- 7 第四中隊ハ捕虜ノ警戒ニ任セシムヘシ
- 8 本夜ニ於ケル合言葉ハ宮常トス
- 9 予ハ聯隊本部ニ在リテ命令受領者ヲ出シ置クヘシ

聯隊長

山田中佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

二、右聯隊命令ニ基キ左ノ大隊命令ヲ下達ス

大隊 命令

十二月十三日午前一時四十分
於 南京東南高地大隊本部

- 1 師団ハ南京入城ヲ企図セシモ城門ヲ破壊スルニ至ラス止ムナク進入スルヲ得ス
 - 2 聯隊ハ南門東南方高地線ヲ占領シ夜ヲ徹ス
 - 3 第一大隊ハ左第一線トナリ本道東側約二〇〇米ノ線ヨリ鐵道線路ニ沿ヒ集團家屋ニ亘ル間ヲ占領シ夜ヲ徹セントス
 - 4 各隊ハ前大隊命令ニ基キ益々警備ヲ嚴ニシ夜ヲ徹スヘシ
 - 5 本夜ニ於ケル合言葉ハ「ミヤ」「ツネ」トス
 - 6 余ハ大隊本部ニアリ
 - 7 命令受領者ヲ出シ置クヘシ
- 第一大隊長代理 渋谷大尉
- 下達法 命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム
- 三、午前四時三十分左記聯隊命令ヲ受ク
- 歩六六作命甲第八十五号
- 步兵第六十六聯隊命令 十二月十三日午前三時十分
於 南京南門東南方高地聯隊本部
- 1 敵ハ城壁ニ於テ頑強ナル最後ノ抵抗ヲ試ミツ、アリ
 - 2 旅団ハ本十三日更ニ中華門突撃ヲ復行ス野砲一大隊重砲一中隊ヲ以テ直接協力セシムラル
 - 3 突撃実施要領左ノ如シ

- イ、重砲兵第一中隊中華門附近城壁ノ破壊次テ野砲隊ノ支援射撃ノ下ニ突入ス
- ロ 突撃ニ當リテハ各種重火器等ヲ屋上及雨花台等ニ配置シ徹底セル支援射撃ヲ実施
- ハ、突撃順序ハ歩兵第百貳聯隊歩兵第六十六聯隊トス
- 2 聯隊(編組旧ノ如シ)ハ成ル可ク多クノ重火器ヲ以テ歩兵第百貳聯隊ノ突撃ヲ支援シ歩兵第百貳聯隊突撃後突入シ左ノ地区ヲ掃蕩セントス
- 協和門ヨリ西方ニ通スル大街以南ノ地区ニシテ南門ヨリ北方ニ通スル大街ノ東側ニシテ更ニ周家凹東端―養虎巷―琵琶湖敬政府社会局―大陸銀行ニ通スル大街以西地区ヲ旅団ノ担当地区トシ其ノ西半分ヲ歩兵第百貳聯隊突入部隊ニ於テ其ノ東半分ヲ歩兵第六十六聯隊ニ於テ担任ス
- 3 歩砲協定ノ要領左ノ如シ
- イ、中華門附近城壁ニ突撃路開設ハ重砲隊担任シ天明後ヨリ開始ス
- ロ、突撃路開設後時間ヲ協定シテ砲兵ノ支援射撃ヲ実施ス
- ハ、突撃路開設ノ為メ射撃開始及其終期並ニ突撃支援射撃ノ実施時刻並回数等ハ本日之ヲ示ス
- 4 第一大隊ノ重火器及配屬重火器及聯隊砲中隊及歩兵砲中隊ハ本道上雨花台附近ニ午前七時陣地ヲ占領シ歩兵第百貳聯隊ノ突撃及聯隊ノ突撃ヲ援助スヘシ
- 5 第三大隊(配屬部隊旧ノ如シ)ハ突入部隊トナリ歩兵第百貳聯隊ニ引続キ突入シ前項掃蕩区域ヲ掃蕩スヘシ
- 6 軍旗中隊タル第二中隊ハ聯隊本部ト共ニ掃蕩成功後城門ニ

四、右聯隊命令ニ基キ午前五時左記大隊命令ヲ下達ス

大隊 命令

十二月十三日午前五時〇分
於 南京東南高地大隊本部

- 1、敵ハ城壁ニ於テ最後ノ抵抗ヲ試ミツ、アリ旅団ハ本十三日更ニ中華門突撃ヲ敢行ス
- 2 野砲兵第一大隊重砲兵一中隊ヲ以テ直接協力セラルル突撃実施要領左ノ如シ
- 3 重砲兵ノ中華門附近ノ城壁ノ破壊次テ野砲隊ノ支援射撃ノ下ニ突入ス
- 4 突入ニ當タリテハ各種重火器等ヲ屋上及雨花台高地ニ配置シ徹底セル支援射撃ヲ実施ス
- 5 突撃順序ハ第百貳聯隊次テ第六十六聯隊トス
- 6 大隊ハ午前七時迄ニ雨花台高地ヲ占領シ聯隊ノ中華門突入ヲ掩護シ併セテ昨日ニ引続キ殘敵ノ掃蕩ヲ實施セントス各隊ハ同時刻迄ニ配備ヲ完了シアルヘシ細部ニ関シテハ現地ニ於テ指示ス
- 7 軍旗中隊タル第二中隊ハ聯隊本部ト共ニ掃蕩成功後城内ニ

入り楼上ニ上リ皇居ヲ遙拝スルニツキ其ノ時機ニ於テ大隊
ハ共ニ皇居ヲ遙拝スヘシ

4、子ハ午前七時左ヨリ第一線配備ヲ巡視シタル後本部位置ニ
在リ

命令受領者ヲ出シ置クヘシ

第一大隊長代理

渋谷大尉

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

五、午前七時〇分予定ノ如ク行動ヲ起シ機関銃ヲ斉射シテ聯隊主力
ノ城門進入ヲ援護スルト同時ニ当面ノ掃蕩ヲ開始ス午前七時四
十分頃日ノ出ヲ見ルヤ全軍一斉ニ立チ上リ万歳ヲ唱ヘ遙カニ皇
居ヲ遙拝シ感激ニヒタル

掃蕩愈々進歩スルニ伴ヒ投降スルモノ続出シ午前九時頃迄ニ三
百余名ヲ得友軍砲弾ハ盛ニ城内ニ命中スルヲ見ル

六、午前十時遙ニ破壊サレタル南門城壁上ニ日ノ丸ノ揚ルヲ認メ聯
隊主力ノ南京城入城セルヲ知り全員ハ隊長ノ音頭ヲ以テ感激ノ
万歳ヲ三唱シ皇居ヲ遙拝ス

七、午後零時左記聯隊命令ヲ受領ス

聯隊命令ノ要旨

師団ハ南京城内ノ敵ヲ掃蕩シタル後明十四日城内東南部及其
附近ニ宿営ス

旅団ハ明十四日日本日掃蕩セル区域内ニテ北方法院南側ヲ東西
ニ通スル頼樓外以北ノ地区ニ宿営ス

聯隊ハ希望街(二万五千分ノ一)市政府北側ヲ東西ニ通スル
道路ノ以北ノ地ニ宿営セントス

歩兵第百式聯隊ハ市街以南地区ニ宿営ス(旅司、旅団予備隊
ハ同地ニ宿営ス)聯隊砲及歩兵砲中隊ハ明十四日午前現宿營
地ヲ進発城内ニ至リ別ニ宿営スル地域ニ移宿ス

聯隊長注意事項

イ、聯隊戦死者ノ聯隊諸兵慰靈祭ヲ行ハントセシモ情況之ヲ許

ササルニ附諸兵ニ伝達シ置ク事

戦没者ヲ出シタル各中銃砲隊ハ午後七時建制ノ順序ニ聯隊
長礼拝ノ時巡回スルニ附各中銃砲隊ハ一室ニ遺骨ヲ奉安シ
準備シアルコト

礼拝者ハ聯隊長大隊長中隊長小隊長以下ノ代表者ヲ可トセ
ン但聯隊内ニ姻戚者アルトキハ其ノ隊ヨリ連絡シ礼拝スル
コト各中銃砲隊南京攻撃中長クモ侍従武官ヲ御差遣アラセ
ラレ諸兵勞苦ノ情態ヲミソナワセラレタリ

其ノ際下賜セラレタル聖旨令旨ノ伝達式ヲ本日中午中ニ行ヒ其
際上司ノ訓示祝詞ヲ徹底セシムベシ尚昨十三日午前十一時
三十五分南門楼上ニ於テ軍旗ヲ捧持シ聯隊將兵ヲ代表シ軍
旗中隊ト共ニ遙カニ皇居ニ対シ聖旨ニ答ヘ奉ル此件モ諸兵
ニ徹底セシムヘシ

參謀注意事項

イ、十五日頃入城式十六日頃慰靈祭ヲ実施セラル、予定之カ參
加部隊ハ一部ニシテ主力ハ可成速ニ長興宜興間ニ集結スル
慰靈祭ノ服装ハ軍装ニシテ鉄帽ヲ除ク入城式ニ参加スル部
隊ハ歩兵二個大隊慰靈祭ニ参加スル部隊ハ歩兵一大隊聯隊
砲聯隊機関銃ハ一銃携行

ロ、各部隊ハ大隊長若ハ大隊長代理ノ引率ヲ以テ十四日午後待

歩ヲ以テ行軍スル事ヲ得(服装ハ執銃帶劍)

ハ、特ニ軍紀風紀火災掠奪ノ防止ニ注意スル事支那人以外ノ住
宅ヲ侵カサ、ルコトヲ嚴守スヘシ

ニ、橋梁ハ南門ノミ車輜ヲ通ス

ホ、大行李案内ノ為十四日午前九時迄ニ案内者ヲ師団司令部ニ
差出シ大友大尉ニ連絡スヘシ師団ハ雨花台要塞山下ニアリ

又十四日午後五時迄ニ宿營地ニ還ラセシメラレタシ
ヘ、給水車班ハ南門外停車場附近ニアリ開設シツ、アリ

經理部注意事項

イ、各部隊ハ宿營地ニ散在セル物資ハ其ノ宿營部隊ニ於テ適宜
処置スヘキモ大量ナル場合ハ通報スル事(聯隊本部ニ通ス)

ロ、糧秣ハ南門外ノ糧秣倉庫ニ於テ何時タリ共渡ス

兵器部隊注意事項

イ、十四日ノ彈藥補給時間ハ午後二時迄ニ補給スヘシ

補給スヘキ彈藥左ノ如シ

小銃 平射砲

總家門(雨花台附近)

ロ、射耗彈數ヲ調ヘ定數ヲ補給スヘシ

ハ、彈藥箱及藥莢ハ同地ニ集結スルコト

副官部注意事項

イ、地雷敷設多シ特ニ注意スル事

宿營スヘシ

大行李ハ明十四日諸隊ノ位置ニ分進シタル後華層樓附近ニ

師団經理部長ハ藤田橋附近ニ野戰倉庫ヲ開設シテ後方ヨリ
來ル糧秣ヲ集メルト共ニ速ニ南京ニ於テ糧秣ヲ徵発シ先ツ
之ヲ以テ諸隊ニ補給スヘシ

八、午後二時零分聯隊長ヨリ左ノ命令ヲ受ク

左記

イ、旅団命令ニヨリ捕虜ハ全部殺スヘシ

其ノ方法ハ十数名ヲ捕縛シ逐次銃殺シテハ如何

ロ、兵器ハ集積ノ上別ニ指示スル迄監視ヲ附シ置クヘシ

ハ、聯隊ハ旅団命令ニ依リ主力ヲ以テ城内ヲ掃蕩中ナリ
貴大隊ノ任務ハ前通リ

九、右命令ニ基キ兵器ハ第四中隊ニ命シ整理集積セシメ監視兵
ヲ附ス

午後三時三十分各中隊長ヲ集メ捕虜ノ処分ニ附意見ノ交換ヲナ
シタル結果各中隊(第一第三第四中隊)ニ等分ニ分配シ監禁室
ヨリ五十名宛連レ出シ、第一中隊ハ路營地南方谷地第三中隊ハ
路營地西南方凹地第四中隊ハ露營地東南谷地附近ニ於テ刺殺セ
シムルコト、セリ

但シ監禁室ノ周囲ハ嚴重ニ警戒兵ヲ配置シ連レ出ス際絶対ニ感
知サレサル如ク注意ス

各隊共ニ午後五時準備終リ刺殺ヲ開始シ概ネ午後七時三十分刺
殺ヲ終リ

聯隊ニ報告ス

第一中隊ハ当初ノ予定ヲ変更シテ一氣ニ監禁シ焼カントシテ失
敗セリ

捕虜ハ観念シ恐レズ軍刀ノ前ニ首ヲ差シ伸フルモノ銃剣ノ前ニ
乘リ出シ従容トシ居ルモノアリタルモ中ニハ泣キ喚キ救助ヲ噴
願セルモノアリ特ニ隊長巡視ノ際ハ各所ニ其ノ声起レリ

十、午後十時〇分左記聯隊命令ヲ受ク
歩六六作命甲第八十六号

歩兵第六十六聯隊命令 十二月十三日午後九時零分
於 南京南門北方千五百聯隊本部

イ、南京ヲ死守セシ敵ハ我聯隊ノ猛攻ニ依リ捕虜千数百名ヲ残
シ本十三日午前十一時三十五分南京南門ヲ奪取シ次テ掃蕩
隊ヲシテ指定区域ヲ掃蕩シ殘敵約百名ヲ斃シ南京ヲ明朗化
セリ尚鹵獲兵器彈藥物資多ク得タリ

ロ、聯隊ハ本十三日夜本部及ビ掃蕩隊ヲ次テ南京市内ニ其他ヲ
南京市外ニ宿營セントス

ハ、各隊ハ指示セシ区域ニ舎營スヘシ

ニ、南京宿營部隊ハ指示セシ位置ニ下士哨ヲ配置シ尚宿舎直前
ニ警戒兵ヲ配置スヘシ市外宿營部隊ハ第一大隊長ニ於テ警
戒ヲ担任スヘシ

ホ、軍旗中隊タル第二中隊ハ軍旗歩哨ノ外本部前ニ単哨ヲ配置
シ本部ノ直接警戒ヲナサシムルト共ニ下士哨ヲクリーク橋
梁南側ニ出シ道路南方ニ對シ警戒セシムヘシ

ヘ、第三大隊長ハ歩兵一小隊ヲ柳川部隊本部(上海銀行)ニ至ラ
シメ同管理部長ノ指示ヲ受ケシメ警戒ノ任ニ當ラシムヘシ
ト、通信班ハ聯隊本部ト旅団司令部間ニ電話ヲ架設スヘシ
チ、本夜ニ於ケル合言葉ハ宮 常トス

リ、予ハ南京市内聯隊本部ニ在リ命令受領者ヲ出シ置クヘシ

下達法

聯隊長

山田中佐

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

注意

南京市内ニ各国ノ国旗ヲ掲揚シアル箇所ハ特ニ侵入セサル様
注意スルコト外人自動車ニ依リ視察シ且写真撮影シアル形跡
アリ一兵ニ至ル迄個人ノ意志ヲ以テ微発等行ハサル如ク注意
ヲ要ス

十二、大隊ハ聯隊命令ニ依リ大小行李及之レカ監視ノタメ一部ヲ殘置
シ雨花台露營地ヲ撤シ午後九時零分同地出發南京城内ニ入ル途
上激戦ノ跡ヲ徳ヒ雄大ナル城壁ヲ仰キ見ツ、南門北方約四キロ
ノ宿營地ニ到着聯隊ノ指揮下ニ入り宿營ス

十三、午後十一時左ノ聯隊命令ヲ受ク
歩六六作命甲第八十七号

歩兵第六十六聯隊命令 十二月十三日午後十一時〇分
於 南京南門北方千五百聯隊本部

イ、師団ハ南京城内ヲ掃蕩シタル後明十四日城内東南部及其ノ
附近ニ宿營ス

旅団ハ明十四日日本日掃蕩セル区域内ニ於テ地方法院南側ヲ
東西ニ通スル道路(頼樓街)以北ノ地区ニ宿營ス

ロ、聯隊ハ希望街(二万五千分ノ一地形図市政府北側ヲ東西ニ
通スル道路)以北ノ地区ニ宿營セントス

歩兵百式聯隊ハ該市街以南地区ニ宿營ス(旅団司令部及旅
団予備隊モ同地ニ宿營ス)

ハ、聯隊砲中隊及歩兵砲中隊ハ明十四日午前現宿營地ヲ出發城

内ニ至リ別ニ指示スル区域ニ移宿スヘシ

ニ、予ハ依然現在地ニ在リ

聯隊長

山田中佐

下達法

先ツ要旨ヲ各別ニ下達シ次テ命令受領者ヲ集メ口達筆記セ
シム

十三、午後十一時四十分左ノ大隊命令ヲ下達セリ

大隊 命令

十二月十三日午後十一時四十分
於 南京南門北方千五百大隊本部

イ、南京ヲ死守セシ敵ハ我カ聯隊ノ猛攻ニ依リ捕虜一千数百名
ヲ殘シ本十三日午前十一時三十分南門ヲ奪取次イテ掃蕩隊
ヲシテ指定区域ヲ掃蕩シ殘敵約百名ヲ倒シ南京ヲ明朗化セ
リ尚鹵獲兵器彈藥物資多ク得タリ

ロ、大隊ハ本十三日夜南京市内希望街ニ宿營セントス

ハ、各隊ハ指示セシ区域ニ舎營スヘシ

ニ、第三中隊ヨリ長以下七名ノ下士哨ヲ橋梁上ニ第四中隊ヨリ
同宿營地南側本道上ニ配置シ尚宿舎直前ニ警戒兵ヲ配置ス
ヘシ

巡察將校ハ北詰少尉トス

ホ、本夜ニ於ケル合言葉ハ宮一常トス

余ハ南京南門北方千五百大隊本部ニ在リ

大隊長代理

渋谷大尉

下達法 口達筆記

十四、攻撃開始以來當大隊正面ニ遺棄セル敵ノ遺棄死体ハ千四百余名
ト推定ス

備考	総計	配属		第一大隊					団隊号		区分												
		近衛独立MG二小隊	66iMG小隊	第一MG中隊	第四中隊	第三中隊	第一中隊	本部	戦闘参加人馬														
									将校	准下士官		馬匹											
本表外輕傷ニシテ尚隊中ニ在ル者 步六六第一大隊 下士官兵三名	計																						
	一七	二	一	二	二	二	三	五	将校	准下士官	馬匹												
	四八六	三八	一八	五八	一二八	一一六	一〇六	二二	准下士官	馬匹													
										将校	准下士官	馬匹											
	一七			二		一〇	五		准下士官	馬匹													
										将校	准下士官	馬匹											
	一	一							准下士官	馬匹													
	三七			三		二六	八		准下士官	馬匹													
										将校	准下士官	馬匹											
										准下士官	馬匹												
										将校	准下士官	馬匹											
										准下士官	馬匹												

昭和十二年十二月 自十一日 至十三日 第一大隊死傷表

考備	計	近衛独立MG小隊	聯隊MG小隊	第一MG中隊	第四中隊	第三中隊	第一中隊	隊号	種類		区分
									銃	銃	
1 武器ノ損失ハ砲彈ニ抛ルモノ多シ	8,270			5	1,700	4,845	1,720	小銃			昭和十二年十二月 自十三日 至 第一大隊武器彈藥損耗表(甲)
	14,800				4,050	6,570	4,180	輕機関銃			
	26,730	4,020	6,070	16,640				機関銃			
								平射歩兵砲			
	188				60	88	40	手榴弾			
								其ノ他			
	10					4	6	小銃			
	2						2	輕機関銃			
	2						2	機関銃			
	2						2	銃劍			
								平射歩兵砲			
12						12	器具				
							小銃				
							輕機関銃				
							機関銃				
							平射歩兵砲				
							曲射歩兵砲				
							其ノ他				

昭和十二年十二月 自 十三日 第一大隊鹵獲表

備考	員数	区分		種類	俘虜	戰利品
		將校	士官 兵士			
一、戰場ニ於ケル敵ノ遺棄死体ハ約一、四〇〇ナリ	18			馬匹		
	1,639			銃		
	602			砲		
	5			実包		
	50,000			砲彈		
	300			器具		
	17			銃		
	20石			糧		
	20			劍		
	7			重機		
	40			輕機		
	31			拳銃		
	35			手榴彈		
	1			自動車		
	6			眼鏡		

○歩兵第五百十聯隊『戰闘詳報』第六号

自 昭和十二年十二月十日
至 同 十二月十三日

十二月十二日

午前四時聯隊ハ予定ノ如ク転進ヲ始ム
 星明ニ淡ク光ル細道ヲ肅々トシテ本道ヲ越エ西北進ス
 午前六時三十分聯隊ハ曾家門西南側凹地ニ兵力ノ集結ヲ了リ
 朝食ヲ喫シ兵器ノ手入整備ニ着手シ午前七時四十分諸準備ヲ完了セ
 リ

午前八時聯隊長ハ左ノ命令ヲ下達ス

歩一五〇聯隊命令

十二月十二日午前八時
於 曾家門西南側凹地

一、敵ハ逐次退却ノ徵有リ

二、聯隊(野砲兵第八中隊ヲ属セラレ工兵小隊ノ配属如故)ハ115 i
 ノ右翼ニ進出シ周家凹東側ノ敵陣地ヲ攻撃シタル後南京東南角
 ニ進出セントス

三、第一大隊(第二第三中隊欠第五中隊聯隊機関銃一小隊平射砲小
 隊工兵小隊ヲ配属ス)ハ第一線115 iノ右ニ進出シ展開スヘシ

四、第二大隊ノ歩兵一小隊及機関銃一小隊ハ右側掩護隊第一線大隊
 ノ右側後ヲ前進シ攻撃前進間右側ノ警戒掩護ニ任スヘシ

五、爾後ノ予備隊第一線中央後ヲ左ノ順序ニ依リ疎開前進スヘシ
 予備隊 第一線 第二大隊(第五中隊欠)

第二線 右聯隊機関銃(一小隊欠)

第三線

左第三大隊(9 11 12欠)
歩兵砲隊(平射小隊欠)

各線ノ距離二百米トス

六、野砲兵第八中隊ハ終始第一線大隊ト連絡シ同大隊ノ攻撃ニ協力
 スヘシ現在ノ位置ニ於テ攻撃ノ進捗ニ伴ヒ敵陣地ノ銃眼ノ制庄
 爾後南京城壁ノ破壊射撃ニ任スヘシ

七、通信班ハ前任務ヲ履行スヘシ

八、余ハ暫ク現在地ニ在リ爾後第一線ノ中央後ヲ前進ス

聯隊長

山本中佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

午前八時三十分第一線大隊ノ前進準備完了スルヤ聯隊長ハ全員ヲ整
 列セシメ旗手ニ命シテ軍旗ノ覆ヲ脱シ部隊中央前ニ誘導セシメ左記
 要旨ノ訓示ヲ与フ

訓示

愈々今ヨリ軍旗ヲ奉シ敵國ノ首都南京城ヲ攻撃スルニ先ンシ恭
 シク軍旗ヲ奉迎ス時コソ到レリ各自一死奉公ノ誠ヲ尽セ決シテ
 人後ニ落ツル勿レ

次ニ東方宮城ヲ遙拝シ聖寿万歳皇国万歳ヲ祈念ス將兵ノ士氣頓ニ昂
 リ戦前既ニ敵ヲ呑ムノ概アリ

終ルヤ聯隊長ハ直チニ「第一線前進」ヲ命令シ予備隊之ニ統行シ目
 標ニ向ヒ急進ス此頃19 iハ東方ニ転進ノ為メ部隊ヲ集結中ナリ

午前九時三十分頃第一線ハ曾家門高地上ヲ占領シ歩兵第五百十五聯隊
 ノ右翼ニ展開ヲ終ル同地砲兵觀測所ニ於テ聯隊長ハ野砲兵聯隊長ト
 城壁ヲ指呼シ細部ノ協定ヲ遂ケ配属砲兵中隊ニ対スル要求ヲナス此

頃雨花台方向ヨリ数十発ノ敵迫撃砲弾及野砲彈道路ノ兩側附近ニ落
下シ轟然タル爆音ヲ挙ゲ炸裂スルモ我ニ損害ナシ
聯隊長ハ直チニ第二大隊(ニケ中隊欠)ヲ第一線ニ増加シ聯隊機関
銃隊(一小隊欠)ヲ兩大隊中間ニ陣地進入セシメ兩大隊ニ協力ヲ命
ス

第一線兩大隊ハ攻撃前進ヲ開始シ陸家東北方台地本道附近ノ堆土及
集團家屋ヨリ敵自動火器ノ射撃ヲ受クルモ逐次之レヲ撃退シツ、午
前十一時第一線ハ南京東南方約三百米ノ陸軍高射砲兵団ニ達シ戦線
標示ノ為メ十一時十分高サ三十米ノ桿頭ニ国旗ヲ掲ク予備隊モ又相
次テ此ノ附近ニ到達セルモ敵ハ周家凹附近ノ高地及城壁方向ヨリ自
動火器野砲及迫撃砲ヲ以テ猛烈ナル射撃ヲナシ我又之カ制圧ニ勉メ
タルモ数名ノ死傷者ヲ生スルニ至レリ正午頃旅団予備隊タリシ第九
中隊ハ聯隊ニ復帰ヲ命セラレ到着セルヲ以テ予備隊ニ加フ最後ノ目
標タル南京城ヲ眼前ニ睨ミ將兵ノ士氣弥カ上ニモ昂揚セル時聯隊長
ハ左ノ命令ヲ下ス

歩兵第百五十聯隊命令

十二月十二日午前十一時四十分
於 高射砲兵団兵舎

- 一、城壁外ノ敵ハ逐次撃退セラレツ、アリ
- 歩兵第百十五聯隊ハ周家凹高地ヲ奪取セルモノト如シ
- 二、聯隊ハ現在ノ線ニ先ス突撃ヲ準備シ砲兵ノ射撃終了ト共ニ南京
城東南角ニ突入之ヲ奪取セントス
- 二、第一大隊(配属部隊故ノ如シ)ハ現在ノ線ニ態勢ヲ整ヘ東南角
城門ヨリ城内ニ突入スヘシ勇敢ナル將校以下一小隊ヲ選抜シ砲
兵射撃間城壁ニ接近セシメ城門ノ奪取ニ任セシムヘシ
- 四、第二大隊(配属部隊故ノ如シ)ハ現在ノ線ニ態勢ヲ整ヘ城壁破壊

當時ニ於ケル彼我ノ態勢附図第□図ノ如シ〔略〕

當時尙武定門東方地区及南門附近並城壁上ヨリ射撃ヲ受ケ彼我ノ銃
砲彈盛ニ飛来ス砲兵ハ射撃ヲ開始シ城壁ニ命中轟々タル爆音ハ青空
ニ響キ一弾毎ニ彈着良ク逐次破壊ノ度ヲ進ム十五種榴彈砲ハ彈着近
ク或ハ低キヲ以テ旅団ヲ通シ観測ノ結果ヲ通報セリ

當時所々ニ敵眼ニ遮蔽シテ日章旗ノ幟ヲ南京城一番乗ニ対シ必勝ノ
信念ハ愈々堅ク將兵全員意氣正ニ軒昂タリ

同時工兵第百十四聯隊副官一分隊ヲ率テ當聯隊ニ來着シタルヲ以テ
「クリーク」通過及爆破ヲ協定シ又野戦重砲兵第十四聯隊第二大隊
ノ連絡將校ト城壁破壊射撃ニ関スル連絡ヲナス午後一時聯隊長ハ第
二大隊長ノ許ニ至リ前方ノ情況ヲ仔細ニ聴取シ砲兵ノ射撃終了ヲ待
ツ之ヨリ先第二大隊長ハ三村上等兵以下三名ノ部下ヲシテ「クリー
ク」ヲ渡河シ城門ニ国旗ノ植立ヲ命シ一時二十分城門左側ニ之レヲ
樹ツ

時ニ前方ヨリ伝令來リ「敵約二百名「クリーク」ノ兩側ヲ退却中小
隊ハ之ヲ射撃中城壁ニ既ニ登レマス左前ノ橋梁ハ破壊サレテ居リマ
セン」ト報告ス既ニシテ砲兵ノ射撃ハ中止ノ時機刻々迫レルヲ以テ
射撃中止ヲ要求シ聯隊長ハ午後一時二十分突撃前進ヲ命シ軍旗ノ覆
ヲ脱シテ「クリーク」ノ線ニ到ル伝令ノ報告ニアル橋梁(鉄橋)ハ
手前三米ノ所ヨリ約一橋節破壊セラレアリ惟フニ伝令ノ掃還直後敵
ノ装置セル爆薬ニ我砲兵ノ射命中爆破シタルモノナルヘシ

一部ノ兵ハ携行シタル机戸板等ヲ以テ輕架橋ヲ實施セントセシカ
「クリーク」ノ幅大ニシテ応急ノ間ニ合ハサルヲ知り工兵ヲシテ橋
梁ヲ修理セシムルニ決シ聯隊長ハ第二大隊ト共ニ橋梁南岸ニ進出シ
茲ニ第二次ノ突撃準備ニ着手ス時ニ午後二時二十分頃ナリ

口ヨリ城内ニ突入スヘシ勇敢ナル將校以下一小隊ヲ選抜シ砲兵
射撃間逐次城壁ニ接近セシメ城壁破壊口ノ奪取ニ任セシムヘシ

五、第一線兩大隊ハ直チニ「クリーク」通過点及城壁附近ノ敵情地
形ヲ搜索スヘシ

六、野砲兵第八中隊ハ城壁破壊射撃ヲ實施スヘシ之カ終了時刻ハ午
後一時二十分トス

七、爾余ハ予備隊トス左大隊ノ後方ヲ前進スヘシ

八、余ハ暫ク現在地ニ在リ後左大隊ノ後方ニ在リテ突撃ス

聯隊長 山本中佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

注意

一、城内ニハ毒瓦斯及細菌撒布ノ疑アリ殊ニ水ニ就キ注意ヲ要ス被
毒ノ疑アルモノハ速ニ報告スヘシ化学実験部ハ師団ト同行シテ

二、突入部隊ハ国旗ヲ振り突入ノコト又第一線部隊ハ敵眼ニ見エサ
ル所ニ国旗ヲ標示セシムヘシ

三、選抜兩小隊ノ外第一線部隊ハ兵營ノ北側ノ線以北ニ進出スルコ
トナク突撃準備ヲ整ヘ後命ヲ俟ツヘシ

四、現在ノ線ヨリ突撃前進ニ際シテハ重火器ヲ以テ城壁上ヲ制圧シ
突撃ヲ掩護セシムルヲ要ス

五、第一線ハ速ニ「クリーク」通過及城壁攀登ノ為ニ應用材料ヲ蒐集
スヘシ

第二大隊ハ正午兵營北端ノ線ニ達シ机丸太戸板等ヲ以テ輕渡河
ノ材料ヲ準備シ尚城壁攀登ノタメ梯子机等蒐集スルニ勉ム

我砲撃ニ依リ一時制圧セラレタル敵ハ射撃中止ノ長引クニ從ヒ再ヒ
城壁上ニ姿ヲ現シ各銃眼ヨリ狙撃ス城壁迄ノ距離二〇〇米ナルヲ以
テ敵ノ狙撃ハ正確ヲ極メタリ

我ハ機関銃平射歩兵砲擲彈筒等ヲ以テ之カ制圧ニ努メタルモ死傷者
続出ス

茲ニ於テ聯隊長ハ今ニシテ工兵ノ架橋ヲ成功セシメ統一テ城門ヲ爆
破スルニアラサレハ成功望ミ難シトナシ全聯隊ノ重火器ヲ家屋内ニ
隱蔽配列シ銃砲眼ヲ穿タシメ掩護射撃ヲ準備セシメ電話ヲ以テ更ニ
城壁上際ニ對スル砲兵ノ射撃復行ヲ要求ス時ニ午後二時四十分頃ナ
リ

然ルニ旅団高級副官ヨリ城内ニハ既ニ歩一五ノ一部午後一時二十
分頃進入シアルヲ以テ射撃スルヲ得ストノ回答ヲ得他ニ突入ノ場所
ナク誤報タルハ明瞭ナルモ其ノ隊ハ何レヨリ進入セシヤ然ラハ當聯
隊ハ攻撃ノ要ナキヤヤ反問セルモ共ニ明瞭ナル回答ナクシテ黙セリ
當時鐵道踏切ヲ隔テ聯隊ノ第一線ノ左側道路上ニハ歩兵第一一五聯
隊ノ第一線タル第三大隊密集シ突撃ヲ準備中ニシテ城門ハ閉サレ城
壁破壊口ハ友軍ノ射撃連続シ何レヨリモ通過点ナク同隊ノ斥候ニテ
「クリーク」ヲ泳キ渡リシモノスラ城内ニ潜入シ得サルハ明瞭ナル
ヲ以テ旅団ノ接受セル報告ハ単ナル予想報告若クハ誤報タルヲ現認
セルヲ以テ聯隊長ハ砲兵不要ト絶叫シ全然歩工兵ノ協力ニ依リ之ヲ
敢行セントシテ鐵道ヨリ東方ノ重火器ヲ北沢大尉ヲシテ統制セシメ
西方ヲ内田大尉及小林大尉ヲシテ統制セシム茲ニ於テ工兵聯隊副官
阿部中尉及小隊長浅川少尉ヲシテ協力シテ歩兵掩護射撃下ニ迅速ニ
電柱戸板梯子等ヲ利用スル橋梁修理材料ノ準備ヲ終ラシメ爆破班ノ
区処了ヘ射撃効果ヲ俟ツ當時阿部中尉モ又砲兵ノ掩護射撃ヲ要求

シタルモ旅団トノ電話一時間ヘス同時頃幸ニモ配属砲兵城壁ニ対スル短時間制庄射撃ヲ開始ス彈着稍低キニ失シ友軍ニ危害ヲ与フル惧レアルヲ以テ射距離ノ修正ヲ要求スルモ意ノ如シ時刻ハ良シ此ノ勢ニ乗シ聯隊長ハ全重火器ヲシテ銃眼ヲ逐次ニシラミツブシノ制庄スル如ク一斉ニ射撃開始ヲ命ジ彼我ノ銃砲声駭々タル中ヲ工兵ハ煙幕ヲ構成シ架橋決死隊先ツ突進シ辛ウシテ一列ヲ通過シ得ル架橋終ルヤ間髪ヲ入レス爆破班之ヲ超越シテ突進ス更ニ先頭突撃部隊タル第六中隊ノ一小隊次ニ第八中隊聯隊本部第七中隊等統行ス同時歩兵第百十五聯隊配属ノ工兵ハ其ノ梯子短クシテ届カサル為我カ聯隊配属工兵ノ架設セル電柱及梯子ニ托シテ梯子ヲ倒シ掛ケ歩一五ノ一小部隊ハ聯隊ニ混淆シテ渡橋セルヲ見ル電話ヲ以テ砲兵ノ射撃中止ヲ要求スルニ須臾ニシテ止ム此ノ頃敵ハ三度射撃ヲ開始スルモ決死隊ハ意トスルコトナク猛然前進シテ城門ニ爆薬ヲ装シ遅レテ到着セル歩一五聯隊配属工兵爆破班ヲ待チ合セ傍ナル城壁外ニ身ヲ匿ス轟然タル爆音ハ耳ヲ聾シ燦々タル黒煙ハ天ヲ掩ヘリ爆薬ノ装着不完成ナル為カ城門ニ僅ニ匍匐シテ通スル程度ニ破壊セラレタルノミナリ

然レ共我勇敢無比ナル歩兵ハ第二大隊長児森少佐先頭トナリ城門内ニ突入ス同時聯隊長ハ軍旗聯隊本部及軍旗中隊ノ一部ヲ率イ前方ニアル部隊ヲ超越シテ城壁ノ破壊口ヲ攀登シ崩壊スル土砂礫石ニ悩マサレツ、強行ヲ続ケ突進シ聯隊本部書記浜曹長先頭第一ニ日章旗ヲ城壁上ニ打ち振り軍旗聯隊長之ニ統キ敵國首都南京城壁上ニ敵彈高雨飛ノ裡軍旗ノ光ハ燦然トシテ斜陽ニ輝キ仰キ視ル將兵感極リテ奮進ス時当ニ午後四時七分ナリ

シ城壁上ニ於テハ聯隊長直接此ノ任ニ當リ城外橋梁等後方警備ハ第三大隊長ヲシテ担任セシム

折シモ勇敢ナル通信手ハ聯隊長ノ許ニ電話ヲ開設セシカ彼我ノ銃砲声盛ニシテ聴取得サリキ

第一線部隊ハ漸ク彈藥特ニ手榴彈機関銃彈ノ不足ヲ訴フルニ至レリ折ヨク広陳鎮西北方部落ヨリ別路ヲ前進セシメタル桜井技術准尉ノ卒ユル聯隊小行李到着シ十分ニ彈藥ヲ補給シ得タルハ戦闘上特ニ士氣上ニ与ヘタル効果預ツテ大ナルモノアリタリ

時間ノ経過ト共ニ各隊各々地歩ヲ進メ之ヲ確保スルニ勉ム日ハ西山ニ没シ暮靄漸ク四辺ヲ包ム頃ヨリ敵ノ火力次第ニ衰ヘ南京城東南角及城壁ハ確實ニ我カ聯隊ノ有ニ帰シタリ

此ノ間城壁上ニ於テ聯隊本部ハ森下中尉壯烈ナル戦死ヲ遂ケ小沢少尉旗手小山少尉及副官滝沢少尉相次キ負傷シ救急処置ノ儘後退ヲセス任務ヲ継統セリ聯隊長ハ軍旗ヲ擁シテ城壁内部ノ階段ヲ経テ城内ニ到リ具ニ内部ノ配備及児森少佐重傷ノ状況ヲ聴取ス當時ニ於ケル彼我ノ態勢附図第二ノ如シ

茲ニ於テ新ニ部隊ヲ整理シ既ニ奪取シタル地域ヲ堅固ニ保持シ夜ヲ徹スルノ決心ヲナシ左記要旨ノ命令ヲ下ス

城門ノ爆破不十分ナリシタメ当初第二大隊本部笹沢曹長聯隊本部林一等兵第二大隊本部樺葉上等兵第二大隊長児森少佐ノ順序ニ突入セシカ爾後土砂ノ崩壊ニヨリ破壊口ヲ閉塞セラレ一時部隊ノ突進ヲ阻止セラレシカ以上ノ四名ハ寡兵奮闘克ク拠点ヲ確保セリ此ノ情況ヲ知レル工兵ハ殺到スル我兵ヲ抑制シ午後四時十五分第二回ノ爆破ヲ敢行ス轟然タル爆音ト共ニ一列通過ニ支障ナキ程度ニ開カレ燦々タル黒煙ニ掩ハレ一時咫尺ヲ弁セザリシカ煙ノ消ユルト共ニ第一大隊本部甘利曹長ハ第一中隊征矢上等兵ノ指揮スル輕機関銃ヲ率イテ突入シ一軒家ノ扉ヲ破リテ之レヲ占領シ逃クル敵ヲ猛射ス之ニ引続キ第八第七中隊陸續突入シテ第二大隊長ノ指揮下ニ入り第一大隊長又第一中隊ヲ伴ヒ突入シ兩大隊長ハ城内確保ニ就キ協定セリ此頃歩兵第百十五聯隊ノ一部混淆シテ突入セリ然ルニ第一大隊長ハ旅団ヨリ城外ノ警備ニ任スヘキ電話命令ヲ受領シ一旦城外ニ出ツルノヤムナキニ至レリ

城壁上ニ於テハ破壊口峻峻ナルタメ戦果ノ拡張遅々トシテ進捗セス聯隊長ハ躍起トシテ叱咤激励シ滝沢少尉森下中尉小沢少尉ヲ潤ラシテ之カ力達ニ勉メ第二回ノ爆破以後漸ク進捗ヲ見ルニ至レリ

然レトモ執拗ナル敵ハ城壁上下ヨリ各種火力ヲ集中シ或ハ手榴彈ヲ投シ又ハ喇叭ヲ吹奏シツ、逆襲ヲ試ムル等城壁奪回ニ死力ヲ竭シタリ為ニ我カ死傷続出セシカ我カ兵ハ勇奮蹶起シ既ニ占領セル地歩ヲ確保シ各敵彈雨飛ノ裡ニ射撃ト工事ヲ反復実施シ極力戦果ノ拡張ニ勉ムルトコロアリタリ折シモ第三機関銃中隊長内田大尉ノ指揮スル一銃ハ破壊口ヲ攀登シ来リ機関ニ陣地進入ヲナシ射撃ヲ開始セリ之ニ依リ敵ハ一時動揺ヲ来セリ我ハ歩一歩ト戦線ノ拡張ニ勉メタリ時ニ各隊混淆シアリシヲ以テ城門内ニ於テハ第二大隊長之ヲ整理区処

歩兵第百五十聯隊命令

十二月十二日午後八時二十分
於 南京城内東南角

- 一、敵ハ首都南京ヲ放棄シテ北方ニ退却セルカ如キモ一部ハ尚至近距離ニ止リテ我ヲ撃退スルニ汲々タリ
- 二、聯隊ハ既ニ奪取セル地歩ヲ堅固ニ保持シ夜ヲ徹セントス
- 三、会田少佐ハ城内第一線部隊ヲ指揮シ現在ノ線ヲ確保シ敵ノ逆襲

ニ對シ至敵ナル警戒ヲナスヘシ

一部ヲ以テ雨花門ヲ守備セシムルヲ要ス

四、内田大尉ハ城壁破壊口ヨリ右野口中尉ハ其ノ左側城壁占領部隊ヲ指揮シ城内ノ第一線ト密ニ連絡シ特ニ現在ノ線ヲ確保スヘシ

特ニ兩側城壁上ヨリスル敵ノ逆襲ヲ警戒スルヲ要ス

五、第三大隊長大塚少佐ハ其ノ指揮ニアル部隊及第四中隊獨立機関銃第五大隊ノ二小隊ヲ指揮シ城外ヲ警備シ城外ノ敵ノ逆襲ヲ警戒シ現在ノ線ヲ確保スヘシ

六、第八中隊ノ二分隊ハ軍旗ノ直接護衛ニ任スヘシ

七、砲兵部隊ハ大逆襲ニ對シテハ友軍ニ危険ナキ地域ニ射撃シ得ル如ク準備スヘシ

八、通信班ハ前任務ヲ統行スヘシ

予ハ雨花門内第一線ノ直後ニ位置ス

聯隊長 山本中佐

下達法

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

日ハ没シタレトモ十日ノ月ハ冲天ニ懸リ刺ヘ南方部落ニ火災起リタルタメ城壁上ニ行動スル我ハ一兵ト雖空際ニ投影シ敵ハ其ノ都度迫撃砲自動火器ヲ以テ猛射シ我カ行動ハ大イニ制シセラレタリ

夜ノ更クルニ從ヒ敵ノ火力ハ次第ニ衰ヘタリシカ大小ノ逆襲ハ數回ニ亘リ繰リ返サレタリ然レトモ第一線各隊ハ克ク陣地ヲ確保シ之ヲ撃退セリ

午前二時三十分頃関中尉ニ左記旅団命令ヲ傳達ス

注意

〔旅団命令は五七七頁に掲載〕

幹部ニ於テ露營火ノ警戒ノタメ(迫撃砲)至敵ナル注意ヲ要ス
右命令ニ基キキ田少佐ヲ招致シ第一大隊(第二第三中隊欠)野砲兵
第二百二十聯隊第八中隊及第五第六第七中隊第一機関銃中隊歩兵砲
(二分ノ一欠)ヲ指揮シ十三日天明後ヨリ指定区域ノ掃蕩ヲ実施ス
ヘク命シ通信班ヲシテ之ト有線連絡ニ任セシム午後五時兵力不明ノ
敵大部隊ハ喇叭ヲ吹奏シツム大逆襲ヲ試ミタリシカ第一線諸隊ハ颯
然之ヲ撃退シ午前六時三十分頃ヨリ附近ハ全ク静穏トナリタリ
午前七時十分頃ヨリ掃蕩隊ハ至敵ナル警戒ヲナシツ、掃蕩ニ着手シ
午前八時三十分既ニ武定門ヲ占領ス此頃歩兵第百十五聯隊ハ軍旗ヲ
擁シテ城壁上ニ至リ万歳ヲ三唱セリ

當時第三師団ハ武定門ヨリ入城スル能ハサルタメ当隊ノ占領セル雨
花門ヨリ入城セシメラレ度キ旨通報ヲ受ケ聯隊長之ヲ承認ス該師団
ハ約一ケ中隊ヲ雨花門ヨリ入城セシメ内側ヨリ武定門ヲ開キ該門ヨ
リ主力ヲ入城セシメタリ午後五時掃蕩隊ハ担任区域ノ掃蕩ヲ完了ス
同時頃旅団ヨリ兩聯隊ハ掃蕩区域ノ北部ニ前進集結スヘキ命ヲ受ケ
聯隊長ハ第八中隊ヲ率イテ前進シ第一大隊第二大隊ヲ区処シ第三大
隊ハ依然前夜ノ位置ニヨリ後方ノ警備戰死傷者ノ收容糧秣ヲ補給行
李ノ掩護ニ任シ至敵ナル警戒ヲナシ夜ヲ徹ス

第五 戦闘ノ成績

- 一、彼我ノ損害
イ、友軍 死傷 附表第一ノ如シ
損耗 附表三ノ如シ
- ロ、敵軍 遺棄セル死体約八五〇
鹵獲品 附表第二ノ如シ

日没 午後五時十分

二、戦闘地ノ状況

- 1、附近一帶丘陵地ニシテ処々ニ雜木アルモ中距離以内ニ於ケル
展望射撃ヲ妨ケス陣地編成ニ好適タリ又観測ニ適スル高地
(標高四〇—八〇米)点在ス
- 2、道路ノ景況
又路口—南京道林陵関—南京道(二万五千分ノ一図)ハ共ニ
重車輛ノ通過ヲ許スモ上述道路ノ中間地区ニアル点線道路ハ
殆ト車輛ノ通過ヲ許サス但シ又路口—南京道ニ對戰車壕ノ構
築鉄条網及土囊ニヨリ遮断等ニヨリ車輛通過ノタメ工兵ノ作
業ヲ要セリ
- 3、河川(クリーク)
障碍タルヘキ「クリーク」ハ城壁外ノモノヲ除キ殆トナシ城
壁外ノ「クリーク」ハ幅七、八十米水深三、四米位ニシテ橋
梁破壊セラレアリタルタメ大ナル障碍ヲ呈セリ
- 4、住民地及南京城内ハ地図ト大差ナク家屋ハ煉瓦建瓦屋根多ク
住民ハ大部分避難シアリ
- 5、南京城壁(東南角附近)ハ上際ニ銃眼ヲ有シ所々屈折部ニ掩
蓋防禦機関アリ大部分煉瓦ニシテ斜面垂直高サ約三十米上部
ノ幅概ネ五米位アリテ射撃設備ヲ施セリ城門(雨花門武定
門)ハ鉄扉アリ且土囊等ニヨリ閉塞セラレアリ

第七 交戦セシ彼我ノ兵力

一、友軍 歩兵第百五十聯隊本部

二、戦闘ノ成果

イ、十日以來聯隊カ曾家門台上ノ敵ノ左翼側ニ對シ石婆婆廟毛家
營ノ線ヨリ猛烈ナル力攻ヲ加ヘ雨花台回花營周家凹等一帶ノ
要地ニ在ル敵ノ内部防禦線ノ側背ニ大ナル脅威ヲ与ヘ有力ナ
ル敵ヲ同方面ニ牽制セルノミナラス終ニ二十二日払曉南京一帶
ノ陣地ヲ放棄セシメ助攻ノ目的ヲ達成セリ
ロ、十二日南京東南角雨花門ニ對スル攻撃ハ配屬砲工兵ト緊密ナ
ル連絡ノ下ニ頑強ナル敵ノ最後ノ抵抗ヲ破碎シ全軍ニ先シ一
拳ニ雨花門附近ノ城壁上及城内ヲ奪取シ午後四時七分軍旗城
壁上ニ翻リ爾後十數回ノ逆襲ヲ撃退シ以テ敵國首都占領ノ魁
トナリ歴史の戦捷ニ光榮ナル戦果ヲ挙げタリ

第六 戦闘ニ影響ヲ及ホス天候氣象及戦闘地ノ状況

- 一、天候、氣象
1 十二月十日ハ朝來曇天ナリシモ十一日、十二日兩日ハ快晴ニ
シテ温暖戦闘行動ハ容易且地上、上空ヨリ展望視察ニ好適タ
リ然レトモ十一日ノ朝ハ靄深クシテ砲兵ノ射撃ヲ困難ナラシ
メタリ
 - 2 夜間ハ概ネ前半夜月明(旧十一月十日頃)アリテ夜間ノ行動
容易ナリシモ敵ノ射撃効果ヲ大ニシ且我企圖ノ秘匿上尠カラ
ス不利ヲ招キタリ但シ後半夜ハ暗夜ニシテ企圖ヲ秘匿スル行
動ニ適セリ
 - 3 後半夜氣温下降霜甚シク對陣中ノ第一線部隊ハ相当苦痛ヲ感
セリ
- 日出 午前七時五十分

通信班

- 第一大隊(第二第三中隊欠)
 - 第二大隊
 - 第三大隊(第十一第十二中隊欠)
 - 聯隊機関銃隊
 - 歩兵砲隊
 - 工兵第百十四聯隊第二中隊ノ一小隊
- 尚十一日ヨリ野砲重砲兵第百十四聯隊第二大隊(一中隊欠)
十一日ノ夜ヨリ野砲兵第百二十聯隊第八中隊各々協力ス
十二日午後ヨリ工兵第百十四聯隊ノ副官ノ指揮スル工兵
一分隊配属

二、敵軍

毛家營石婆婆廟附近
迫撃砲機関銃多數ヲ有ス敵ハ約三大隊ナリシカ十一日午後三時頃
ヨリ逐次増加シ約四大隊ナリ十二日高射砲兵団正面約一大隊城壁
附近約一大隊十數回ニ亘リ実施シタル逆襲兵力ハ約三大隊ニ上ル
蔣介石直系ノ八十八師及八十七師ニシテ野砲迫撃砲機関銃ヲ多數
所持シ巧ニ地形ヲ利用シテ構築セル鉄条網及堅固ナル「トーチ
カ」掩蓋銃座及所在不明ノ側防禦機関ニ抛リ極メテ頑強ニ抵抗セリ
特ニ防禦機関ニ長シ我カ重砲野砲ノ集中射撃ヲ蒙ル間ハ一時沈黙
スルモ射撃ヲ中止スルヤ直ニ射撃ヲ開始シ突撃ノ機ヲ与ヘサルカ
如キハ慥ニ彼ニ一日ノ長アルカ如シ又我城壁占領後ノ十二日午後
四時過ヨリ深更迄十數回ニ亘リテ逆襲ヲ試ミ之カ奪回ニ勉メタル
首都防衛ノ任ヲ有スル敵トシテ当然ナルモ城内城外城壁上相呼応
シ喇叭ヲ吹奏シ其ノ堂々タル逆襲振リハ賞讃ニ値シ其ノ精神教育
モ又徹底シアルモノト認メラレタリ

昭和十二年十二月 自 十三日 步兵第五百十聯隊武器彈藥損耗表(甲)

計	工兵第一小隊	野砲第八中隊	歩兵砲隊	聯隊機關銃隊	第三大隊	第二大隊	第一大隊	聯隊本部	隊号		種類	消	費	損	失
									区分	種類					
32,255	200			150	8,602	15,181	11,224	2,005	小銃	銃	彈				
41,154					7,235	16,849	23,860		輕機関銃	銃					
56,930				9,880	17,330	9,820	29,500		機関銃	銃					
209			209						平射歩兵砲	砲					
170			170						九二式砲	砲					
275						150	125		手榴彈	彈					
104							104		拳銃	銃					
76		76							野砲	砲					
22	22								爆藥	藥					
13							12	1	小銃	銃					
1								1	輕機関銃	銃					
1				1					機関銃	銃					
									平射歩兵砲	砲					
									九二式砲	砲					
									小銃	銃					
									輕機関銃	銃					
									機関銃	銃					
									平射歩兵砲	砲					
									九二式砲	砲					
15			2				13	3	銃	劍					
27					6		21		彈	藥					
72					7		34	31	器	具					

その二 第六師団

○第六師団『戦時旬報』第十三・十四号

自 昭和十二年十二月一日
至 同 十二月二十日

目次

- 第一 晨舎鎮附近ヨリ南京ニ向フ追撃発起
- 第二 先遣隊(歩兵第三十六旅団)ノ行動
- 第三 師団主力晨舎鎮村附近出発ヨリ南京攻撃開始迄
- 第四 南京城攻撃

附 図

- 第一 第六師団先遣隊広徳ニ向フ前進要図
- 第二 第六師団主力漂水ニ向フ追撃要図
- 第三 第六師団第二梯団前進要図
- 第四 第六師団南京内部防禦陣地攻撃ノ為ノ開進要図
- 第五 第六師団南京内部防禦陣地攻撃經過要図
- 第六 第六師団南京直接防禦陣地攻撃經過要図

[第一、二、三及び附図略]

第四 南京城攻撃(1)(2)略

(3) 十二月十日

イ、鉄心橋ニ向フ前進及内部防禦線ニ対スル攻撃命令ノ下達
九日夜半第一線部隊ノ決行セル夜襲ノ成果ヲ直ニ利用スル為
師団長ハ午前六時東善橋ニ至リシ予備隊並砲兵隊ハ鉄心橋ニ

向ヒ前進ヲ命ス
途中水口附近ニ於テ敵ノ行ヘル橋梁破壊ニ妨害セラレ砲兵主
力ノ挺進ニ困難ヲ来セシモ師団長ハ午前十時鉄心橋西南天家
街ニ達ス

而シテ第一線ハ鉄心橋前面ニ在ル敵ヲ攻撃(13 i 第一線)シ
雨花台ニ向ヒ前進セントスル情況ニ在リシヲ以テ南京南側内
部防禦線ニ対スル攻撃方向ヲ判断シ歩兵第四十五聯隊(第一
大隊欠)ヲ歩兵第十一旅団長ノ指揮ヨリ脱シ之ヲ西善橋ヲ經
テ小米行附近ニ前進セシメ安徳門附近ノ攻撃ヲ実施シツ、ア
ル歩兵第三十六旅団長ノ指揮ニ復帰セシメ次テ一一三〇南京
内部防禦線タル雨花台ニ対スル一般攻撃命令別紙六師作命甲
第八十一号ヲ下達ス(別紙第五)

ロ、師団長ノ小米行ニ転進

師団長ハ命令下達後歩兵第四十五聯隊第一大隊ヲ伴ヒ一五〇
頃小米行ニ到着ス

而シテ安徳門ハ既ニ奪取セラレアルト判断セシモ歩兵第三十
六旅団(☆23 i III A)ハ地形一般ノ關係上敵ハ広正面ナルニ
比シ我ハ隘路ヨリ進出セシ状況ニシテ攻撃容易ニ進捗セス
然レトモ砲兵火力ノ集中ト歩兵第二十三聯隊トノ協力ニ依リ
日没頃蚕業試験場西北高地(道路北側)ヲ占領ス
而シテ歩兵第三十六旅団ノ攻撃目標ヲ水西門及其ノ以北ト示
セルモ地形一般ノ關係特ニ「クリーク」西側ノ水濠地帯ノ関
係ハ之カ実行ヲ困難ナラシムルノ情況ニ在リシヲ以テ十日午
後七時歩兵第三十六旅団ニ南京城西南角ヲ攻撃目標トシテ与
へ歩兵第十一旅団ニ右方ニ転位ヲ命ス

(別紙第六、六師作命甲第八十二号参照)

同日右翼隊(11iB)正面ニ在リテハ雨花台ノ堅固ナル正面ニ衝突シ步兵第十三聯隊及步兵第四十七聯隊共ニ相当ノ苦戦ヲナセリ

特ニ步兵第四十七聯隊ノ安德門東南方約五〇〇米ノ最高地点奪取ハ夜襲ニ次クニ敵ノ反覆逆襲十一回ニ及フモ能ク同地ヲ固守シ十一月以後ノ攻撃ヲ容易ナラシメタリ
十二月十一日

(4) 十一月十日以後ノ攻撃ヲ容易ナラシメタリ

然シテ左翼隊方面ニ在リテハ敵ハ尚安德門東南方約二〇〇米ノ高地ヲ軸トセル掩蓋機関銃陣地ニ依リテ抵抗ヲ持續ス

茲ニ於テ野砲兵聯隊長ノ意見具申ニ基キ該高地ニ砲火ヲ集中後步兵第二十三聯隊ハ之ヲ奪取セシム為ニ戦況大ニ進展スルト共ニ右翼隊モ敵ノ抵抗ヲ排除シ十一月夕第一線諸隊ハ雨花台北端ノ台端ニ進出ス

而シテ一九〇〇時南京城々壁ニ対スル攻撃命令(別紙第七、六師作命甲第八十四号ノ如シ)

又十一日午後敵ハ船舶十数隻ヲ利用シ揚子江上流方面ニ逃走シツツアル情況ヲ目撃スルヲ以テ二一〇〇時步兵第四十五聯隊第一中隊(MG一小隊大隊砲一分隊ヲ附ス)野砲兵一小隊ヲ大勝圍ニ派遣シ其ノ退路ヲ遮断セシム

同部隊ハ舟ニテ撃沈又ハ航行不能ニ陥ラシムルコトヲ得タルト共ニ敵ノ退路ヲ脅威セシムルヲ得タリ

(5) 十二月十二日(十三日)

イ、諸隊ノ突撃準備

同夜一時右翼隊步兵第十三聯隊正面ニ於テモ中華門ヲ占領ス左翼隊ニ属スル騎兵聯隊ハ夕刻新河鎮ニ於テ下関方向ヨリ南下スル約一万ノ敵ト遭遇激戦後死体約一千ヲ残シ対岸三角洲ニ壊走セシム

斯クテ十三日〇八三〇歩兵第二十三聯隊ノ第三大隊水西門ヲ占領一部ヲ城内ニ進メ掃蕩ヲ開始ス

歩兵第四十七聯隊又一〇〇〇頃約一ヶ大隊ヲ城内ニ入ラシメ掃蕩ヲ開始ス

左翼隊左第一線タリシ歩兵第四十五聯隊十一日以来数多ノ「クリーク」ヲ利用シ頑強ニ抵抗セル敵ニ対シ苦闘ヲ続ケツツアリシモ十二日夜半遂ニ江東門ヲ占領引続キ南京城内ヨリ敗退スル敵ノ退路ヲ遮断スル目的ヲ以テ下関方面ニ向ヒ前進シ一〇〇〇上保廠北端ニ達ス

十三日夕刻ニ於ケル態勢左ノ如シ
右翼隊

歩兵第十三聯隊主力南門ト三里店トノ中間ニ集結

第三大隊(機関銃一小隊旅団無線一ヲ附ス)ヲ以テ清涼山及五台山ヲ占領

歩兵第四十七聯隊主力三里店附近ニ集結

歩兵一ヶ中隊(旅団無線一ヲ附ス)ヲ以テ四眼井占領

警備隊トシテ

南門ヨリ城壁西南角ニ至ル中間

三里店無名寺院

三里店南端

ニ各歩兵一小隊ヲ配置ス

突撃目標左ノ如シ

13 i 中華門
47 i 中華門ノ中間
23 i 西南角

45 i 水西門

諸隊ハ前夜來突撃準備ニ特ニ力ヲ致シ城壁占領ノ名譽ヲ担ハシコトニ努力セリ

ク、砲兵ノ城壁破壊

砲兵ノ統一指揮ヲナサシメ城壁南側ニ於イテ三個ノ突撃路ヲ構成セシム

聯隊長ハ右計画ニ基キ

突撃路ノ構成ニ努力セル結果西南角ニハ相当大ナル破壊口ヲ作製セシモ右及中正面ハ彈薬ノ不足ト命中角トノ關係ニ依リ大ナル戦果ヲ現スコトヲ得サリキ

ハ、突撃実施

歩兵第四十七聯隊ハ砲兵ノ破壊射撃充分ナラサルモ自ラ準備セル突撃器機ニ依リ一二三〇時第三中隊先ツ突撃ヲ敢行スルヲ得タリ 然レトモ城外「クリーク」ノ通過困難ナルト敵ノ抵抗頑強ナル為爾後ノ戦果容易ニ進展セス

又左翼隊方面ニ於テモ砲兵隊主力ノ協力ニ依リ城壁西南角ニ極メテ完全ナル破壊口二個所ヲ設ケラレシモ城外ノ「クリーク」及其ノ附近ノ敵ノ抵抗ヲ受ケ突入容易ナラス砲兵数次ノ支援集中火ノ後午後四時四十五分歩兵第二十三聯隊第一大隊遂ニ之ヲ占領シ夜間逐次城壁上ニ戦果ヲ拡張ス

旅団司令部ハ南門外部落ノ中央三叉路ニアリ

左翼隊

歩兵第二十三聯隊主力水西門附近ニ集結一部ヲ以テ清涼山砲台清涼門附近ニ派遣

歩兵第四十五聯隊主力下関ニ集結

第三大隊ヲ江東門ニ其ノ一部ヲ以テ上河鎮ニ派遣ス

旅団司令部水西門外

砲兵隊ハ安德門王家凹間ニ集結

工兵隊ハ中隊長ノ率ユルニ一小隊ヲ以テ軍司令官ニ直轄タラシ

メラレ主力ヲ以テ各ニ一小隊宛左右兩翼隊ニ配属

輜重兵第六聯隊ハ一部既ニ戰場ニ到着セルモ主力ハ緑口鎮附

近ヲ急進中ニシテ

第三野戦病院ハ俞家村ニ第四野戦病院ハ安德門ニ夫々開設傷

者ヲ收容中ナリ

先遣隊タル歩兵第三十六旅団ノ広徳附近ノ敵ヲ攻撃以來本戦

闘ニ於ケル

(イ) 戦死 二二三

負傷 一、〇四一

(ロ) 射撃彈数概約

重砲彈 四五〇

野砲彈 七、八九〇

山砲彈

歩兵砲彈 聯隊砲 一、二〇〇 大隊砲 二、一〇〇

機関銃彈薬 二五五、〇〇〇

小銃彈薬 五二六、二〇〇

手榴弾 五、六〇〇
 ニ及ヒ
 押収兵器
 小銃 一、〇〇〇 機関銃 一、七〇〇 野砲 一二
 迫撃砲 一八〇 小銃彈 約九〇〇、〇〇〇
 各種砲彈 一七、〇〇〇
 ニシテ此所ニ敵カ最後ノ陣地トシテ数年來ノ準備ヲ完フシ死
 守不落ヲ以テ聞エシ首都南京城モ遂ニ我有ニ帰シ其ノ占領ヲ

完フス
 (6) 十二月十四日
 師団長南京城内ニ入城
 (7) 十二月十七日
 入場式実施
 (命令第八 六師作命甲第八十五号ノ如シ(別紙第八))
 (8) 十二月十八日
 慰靈祭舉行

追撃並ニ南京攻撃ニ於ケル彼我損傷一覽表

戦闘名	日次	主トシテ戦闘セル部隊	受ケタル損害	交戦セシ敵兵力	戦場遺棄死体
河南店	3 ~ 4 / 12	45 i (- I II) 1/6A	戦死 三 戦傷 一三	三、〇〇〇	一〇〇
牛首山	8 ~ 9 / 12	師団主力	戦死 一九 戦傷 九七	六、〇〇〇	一、六〇〇
板礪村	8 ~ 9 / 12	36 i B (-45 i)	戦死 七 戦傷 四二	八八師 一、〇〇〇	五〇〇
安德門	10 ~ 11 / 12	師団主力	戦死 一六三 戦傷 二八八	八八師、八九師 憲兵教導隊 八、〇〇〇	二、二〇〇
上河鎮下関	10 ~ 13 / 12	45 i (- I) 2 BA's 主力 6 K	戦死 五八 戦傷 一四二	一〇八師、五八師 八四軍、憲兵補充団 二〇、〇〇〇	一、一〇〇〇

計	城 (含掃蕩) 壁	師団主力	戦死	戦傷	七八師、八七師 七二軍補充旅保安隊 四、〇〇〇	一、七〇〇
	12 ~ 13 / 12		五六	三〇〇		
			三〇六	八八四	四二、〇〇〇	一七、一〇〇

備考

- 1 師団主力ハ当時配属ノ 6LPW, 14SA, 2BA'sノ戦死者ヲモ含ムモノトス [LPW は軽装甲車、SA は野戦重砲兵、BA's は独立山砲兵]
- 2 戦死傷者数ハ各隊提出ノ戦死傷者名簿ニヨル
- 3 本表中敵ノ死体ハ戦場ニ於テ目撃セシ概数ナリ
- 4 南京攻撃ニ於ケル捕虜及鹵獲兵器左ノ如シ

捕虜 五、五〇〇
 小銃 一、〇〇〇
 機関銃 一、七〇〇
 野砲 一二
 迫撃砲 一八〇
 小銃彈 九〇〇、〇〇〇
 各種砲彈 一七、〇〇〇
 軍旗 二

○第六師團『戰時旬報』第十五号附録

本旬報ハ北支転進以降南京占領迄ノ欠ヲ補ヒ且ツ綜合的所見ヲ記載ス

戰時旬報第十五号目次

第一 聖旨 令旨

第二 感状 訓示

第三 所見

第四 上陸以後ニ於ケル衛生狀況

第五 経理(乗船ヨリ南京占領迄ノ給養補給)

第一 聖旨令旨

十二月二十八日賜ハリタル聖旨令旨及方面軍司令官ノ奉答文別紙第一、第二ノ如シ

第二 感状訓示

一、十一月三十日湖東会戦ノ快捷ニ當リ中支那方面軍司令官ヨリ別紙第三ノ如キ感状ノ授与セラル、ノ光荣ニ浴ス

二、北支千軍台ニ於テ武勲ヲタテシ Π /23 iニ對シ十一月三十日北支第一軍司令官ヨリ別紙第四ノ如キ感状ヲ授与セラル

三、十二月一日南京攻撃ヲ前ニシ中支方面軍司令官ヨリ別紙第五ノ如キ訓示アリ

四、十二月十四日南京占領ニ當リ丁集團司令官ヨリ別紙第六ノ如キ訓示アリ

五、十二月十六日平望鎮支隊ニ對シ第十軍司令官ヨリ別紙第七ノ如キ感状ヲ授与セラル

十二月十八日中支那方面軍司令官ノ訓示別紙第八ノ如シ

七、一カ月有余ノ戰闘ヲ終リ直チニ蕪湖附近ノ警備ニ任シアルニ多事ナリシ昭和十二年ヲ送ルニ方リ師團長訓示スル所アリ別紙第九ノ如シ

第三 所見

一、鉄道輸送及乗船

鉄道輸送実施ハ概ネ順調ニユキシモ塘沾到着ヨリ乗船迄ノ日時僅少ナリシ為部隊ノ掌握不十分ニシテ各種命令指示ノ徹底ヲ欠キ亦新作戦地ニ必要ナル裝備ヲ整フル暇ナク上陸及其ノ後ノ戰闘ニ若干困難ヲ生セリ

二、上陸戰闘

上陸作戦ハ極メテ複雑困難ナルヲ以テ揚陸計画適切ナルノ外關係各指揮官即各部隊長輸送指揮官揚陸作業隊長及碇泊場司令官ニ克ク徹底シ相互ノ連絡協同密接ニシテ其ノ実行ヲ洪滞錯誤ナク円滑ニ進捗セシムルコト極メテ緊要ナリ然ルニ今次上陸作戦ニ於テハ八口浦ニ於ケル當師團輸送船團ノ集結充分ナラサルノミナラス各船間ノ交通発動艇ノ運行意ノ如クナラザリシ為作戦命令ノ下達分配揚陸ニ関スル打合七十分ニ出来ザリシ為杭州灣上陸ニ際シテハ上陸部隊ノ順序ヲ紊リ上陸地ハ混淆シ名状スヘカラサル混雜錯誤ヲ生シ為ニ上陸ハ著シク遅延シ戰闘実行ニ多大ノ影響ヲ与ヘタリ將來此ノ種作戦ニ於テハ再ヒ之ヲ繰返サ、ルコト緊要ナリ

三、敵情判断ト空中搜索ノ必要

支那軍ニ對スル敵情判断ハ常則ヲ以テ律シ難キ所アリ例ヘハ師團カ松江附近ヨリ敵軍ノ背後ニ突進セル際ノ如ク敵カ左右ノ連繫ナク雜然トシテ敗退スル場合師團当面ノ敵情ニ依リテ敵ノ企

隊ノ輸送或ハ彈藥糧秣ノ補給或ハ患者ノ後送等作戦上極メテ有利ナリ

七、敵砲兵及迫撃砲ニ對スル戰闘

北支及湖東会戦ニ於テハ有力ナル火炮ヲ有スル敵ト戰闘スルコト少ナカリシニ慣レ南京要塞ノ攻撃ニ當リテハ城門又ハ城壁ニ比較的大ナルニ鑑ミ常ニ對砲兵の顧慮ヲ以テ行動シ砲兵ハ曝露陣地ヲ避ケ或ハ不必要ナル人馬車輛等ヲ第一線ニ近ク出サ、ル等ノ着意必要ナリ

八、城壁攻撃

直接城壁ニ抛レル敵ヲ攻撃スルハ成ルヘク之ヲ避クルヲ要スト雖モ已ムヲ得サル場合ニ於ケル攻撃ニ當リテハ城門又ハ城壁ニ突撃路ヲ構成シ突入スルヲ一般トスルモ敵ノ注意ヲ避ケ奇襲的ニ小部隊ヲ梯子ヲ利用スル等ノ方法ニヨリ城壁ニ攀登シ逐次戰果ヲ擴張スルモ又有力ナル方法ナリ

九、馬匹ノ損耗

道路泥濘ニシテ過大ノ輓曳力ヲ要求スル一方馬糧不十分加フルニ追撃急ヲ要スル狀況ニ於ケル馬匹ノ損耗ハ著シク大ナルヲ一般トスルヲ以テ馬匹ノ愛護特ニ緊要ナリ又斯カル狀況ニ於テハ砲兵ノ如キハ能力十分ナル馬匹ヲ選定シ砲数ヲ減スルカ又ハ中隊數ヲ減スルカニ依リ戰闘能力ヲ發揮スル如ク編成スルヲ有利トス

十、地形

上陸以後師團ノ作戦セシ地方ハ「クリーク」網ノ目ノ如ク存在シ新設道(自動車道)ヲ除ク外ハ概ネ一列縱隊ノ小路ナリ黃浦江蘇州河ヲ初メ大小「クリーク」ニハ殆ント橋梁ナク之ヲ

四、歩兵独力ヲ以テスル戰闘

上陸後砲兵ノ追及遅ク湖東会戦ニ於テハ殆ト歩兵独力ノ戰闘ヲ以テ終始セリ蓋シ上陸地点既ニ敵ノ側背ニ當リ亦全面的陣地ニ遭遇セザリシニ依リ砲兵ノ協力無キヲ意トセス之ヲ敢行シ得タルモ松江青浦及崑山ノ如ク敵收容陣地ノ攻撃ノ如キハ歩兵聯隊ノ有スル重火器及「クリーク」ヲ利用シ追及シタル独立山砲ノ効果ニ俟ツヘキモノ多クシテ此ノ種火器ノ極メテ重要ナルヲ実証セリ

五、退路遮断並追撃

將兵ノ疲勞部隊ノ損傷及彈藥ノ欠乏等ニ拘束セラル、コトナク猛烈果敢ニ敵ノ背後ニ突入シ又ハ追撃ヲ敢行スルノ効果ハ特ニ湖東会戦間所々ニ見受ケシ所ナリ例ヘハ蘇州河北岸ニ向フ師團ノ突進ニヨリ敵軍ヲ全ク敗退ニ陥ラシメ又師團追撃隊タル歩兵第十三聯隊カ三ヶ村附近ニ於テ敵縱隊ノ退路ヲ遮断シ之ヲ殲滅セシメタルカ如キハ其ノ顯著ナルモノナリ

六、「クリーク」ヲ利用スル前進

中支一般ノ地形ハ新設自動車道ヲ除ク外殆ント畦道ニシテ有力ナル部隊ニ車輛部隊ノ交通極メテ困難ナリ此ノ場合地方舟ヲ蒐集シ「クリーク」ヲ利用スルコトハ迂回隊ノ派遣或ハ車輛部

ルモ又破壊セラレ或ハ不完全ニシテ部隊及車輛ノ通過ノ為ニハ
予メ斥候ニヨリ之ヲ偵知シ工兵ノ活躍ヲ期スル外ナシ 大河ノ
渡河ニ於テハ地方舟ノ蒐集ハ唯一ノ渡河準備ノ方策ナリ
補給給養地方物資

今次作戦間ノ後方補給不可能ノ為湖東会戦ニ於テハ携帶糧秣四
日分ヲ以テ十日間崑山転進ヨリ南京攻略迄ハ崑山松江及嘉善ニ
於テ補給ヲ受ケンシ(大行李到着セズ)ニテ殆ント一カ月間
ノ戦闘行動ヲナセリ此間主トシテ地方物資ノ徵発ニヨリ給養セ
リト雖モ嘉興ヨリ株陵関ニ至ル間ハ師団重復セシ爲第二線兵団
トナリシ師団ハ地方物資ノ徵発困難トナリ師団ノ給養ハ著シク
粗悪トナレリ一般ニ中支那方面ハ北支ト異ナリ精米豊富ナルヲ
以テ作戦間ノ人糧ノ補給ハ容易ナルモ馬糧及調味品ニ乏シ
宿 營

中支地方ニ於ケル部落ハ滿州及北支ニ於ケル集團のナルニ反シ
分散的ナルモ綜合宿營力ハ相当大ニシテ北支中支ニ於テ大ナル
変化ナク給養モ概ネ良好ナラシムルヲ得

第四 上陸以後ニ於ケル衛生狀況

一、衛生機關ノ運用
1、湖東会戦ニ於テハ上陸計画中左右先遣隊ニ各 $\frac{1}{2}$ ヲ本隊ニ衛
生隊主力及2FLヲ附シ爾後其他ノ野戦病院ヲ追及セシムル
予定ナリシモ天候不良ナリシト共ニ軍ノ揚陸作業遅滞ノ為僅
ニ右先遣隊ノ $\frac{1}{2}$ 、Sト2FLノミ上陸シ而カモ2FLハ人員ノ
ミニテ材料ノ揚陸遅延シ週日ヲ要セリ之カ爲師団ノ神速ナル
前進ニ追及容易ナラス本会戦中期ニ於テ漸ク追及シ得タル状
況ニシテ之カ爲師団ニ於テハ臨時救護班ヲ編成シ或ハ隣接師

杭州灣上陸以來平病頓ニ減少セルモ湖東会戦終了後ヨリ南京
ニ向フ転進ノ初期ニ亘リ下痢患者稍々多発シ加フルニ各隊ニ
「コレラ」患者發生ノ徵ヲ認メタルニ依リ一時前進ヲ停止シ
防疫業務ニ専心セシ爲十一月下旬以來全ク終熄ス爾來南京占
領迄平病著シク減少セリ
戦死傷
2、上陸以來ノ戦死傷者数ハ別紙ノ如ク二、二〇一名ニシテ内戦
死五七一名 戦傷一、六三〇名ナリ又会戦間比較的犠牲者ノ
多発セシハ南京攻撃ニシテ戦死二二三名戦傷一、〇四一名計
一、二六四名ナリ

三、傷病者ノ收容後送
湖東会戦ニアリテハ師団衛生機關大部ノ上陸不可能ナリシト上
陸部隊ノ追及困難トニ依リ軍医部々員ヲ班長トシテ救護班ヲ編
成シ戦傷者ヲ收容セシメタルモ軍ノ後送機關未着ノタメ後送ノ
途ナキヲ以テ偶々上海ヨリ彈藥糧食補給ノ兵站自動車中隊ノ帰
リ空車輛ヲ利用シ三二名ヲ上海兵站病院ニ後送セリ又南京占
領後師団ノ蕪湖転進ニ際シテモ軍ノ患者輸送部ノ能力不足ノ為
東善橋第一野戦病院ノ一四〇名ノ前送ヲ依託セルノ外九〇〇名
ハ衛生隊及師団輜重車輛ヲ以テ五日間ニ亘リ南京野戦予備病院
及第六師団第一野戦病院ニ輸送セリ

四、衛生材料補給ノ狀況
湖東会戦時携行衛生材料欠乏シ敵ノ遺棄セル衛生材料ヲ徵發衛
生材料ノ利用ニカムルト共ニ軍ニ要求セシモ地理的關係上改メ
テ上海軍ニ依頼セシニ速ニ自動貨車一輛豐富ニ輸送ヲ受ケ多大
ノ便宜ヲ得タリ爾後再度ニ亘リ飛行機ヨリ若干ノ材料ノ投下ヲ

団ノ衛生機關ト協力シテ傷者ノ収療後送等遺憾ナキヲ得タリ
而シテ衛生隊主力及三箇ノ野戦病院ハ十一月十六日以後上海
ヨリ上陸スルノ已ムナキニ至リ遺憾ナリキ

2、南京攻撃ノ爲行動開始ノ十一月二十五日午後ニ於テ掌握セル
衛生機關ハ衛生隊(内担架一中隊「コレラ」發生ノ爲松江ニ
隔離セラレ欠)及1FL2FLニシテ當時 $\frac{1}{2}$ 1FLハ「コレ
ラ」患者收容ノ爲松江ニ亦 $\frac{1}{2}$ 2FLハ嘉善ニ開設セリ3FL
4FLハ十一月二十三日上海ニ上陸シ爾後師団ニ追及中ナリ
シモ師団ノ前進ハ愈々急速ニシテ十二月八日東善橋ニ達シ陣
地攻撃ニ移ルニ至リテ同地ニ1FL(1) $\frac{1}{2}$ ノ開設ヲ命ス2FL
L(1) $\frac{1}{2}$ ハ尚到着セズ敵ハ頑強ニ抵抗スルモ攻撃逐次進展シ
同九日夕2FL及3FLヨリ連絡アリ2FL(1) $\frac{1}{2}$ ハ漂水ニ
到着セルトノコトニテ約一日半行程遅レアリ依ツテ十日朝自
動貨車ニテ2FLノ一部ヲ輸送ニ出スト同時ニ3FLノ連絡
者ヲシテ速ニ進出スル如ク指示ヲ与ヘ同日午後三時半2FL
ノ先発者西善橋ニ到着直ニ綱帶所ト交代セシ残余モ逐次到着
ス 次テ3FL4FLノ先発者各自自動貨車ヲ利用シテ到着
FLヲハ俞家村ノ綱帶所ト交代開設セシメ4FLヲハ西善橋
ニ待機セシム第一線ノ攻撃進歩ト共ニ傷者多発シ西善橋ノ2
FL(1) $\frac{1}{2}$ ノ收容傷者三〇〇名以上ニ達シ又約五〇〇米前方
ノ安德門綱帶所ニハ既ニ六十余名ノ傷者アリ 依テ同所ニ4
FLヲ交代開設セシメ茲ニ於テ逐次四箇ノ野戦病院ノ開設ヲ
見ルニ至レリ

二、戦死傷病者發生狀況
1、平病

受ケ益々治療ノ究壁ヲ期シ得タリ
五、給水
中支地方ハ市街ヲ除ケハ井戸極メテ稀ニシテ殆ント全部カ「ク
リック」或ハ池水ニ依ルノ外途ナカリキ而モ甚タ濁濁夜間ニ非
サレハ到底使用敢テシ得サル狀況ヲ認メタリ此ノ際防疫給水班
ノ給水ニ尽力セラレタルアリテ將兵一同蘇生ノ思ヒアリ又各隊
ニハ輜重車載式濾水機ヲ配当シアリシモ道路不良ノ為部隊ト行
動ヲ共ニスル能ハサル場合尠カラズ加之中支転進後ハ揚陸遅レ
滯在以外ノ時ニ其ノ恩恵ニ浴セシ機会ハ稀ナリキ濾水自動車又
道路及重量ニ制限セラル、コト屢々ニシテ其活躍意ノ如クナラ
サリシハ寔ニ遺憾トス之ニ鑑ミ師団ニ於テハ山地或ハ道路不良
ノ狀況ヲ顧慮スル場合ハ自動車載ノ著脱式濾水機ヲ携行シ師団
司令部及其ノ附近ノ部隊ニ飲料水ヲ供給スル如ク常ニ給水班ヲ
指導督励ニ努メツ、アリ

第五 經理(乘船ヨリ南京占領迄ノ給養補給)
一、乗船地塘沽ニ於テ糧秣、被服給養器具戰闘資材等ヲ師団塘沽野
戰倉庫ヨリ乘船各部隊ニ交付シタル際ハ「コレラ」流行ノ為輸
送列車ノ塘沽到着後數時間ニシテ乘船セシ結果各部隊ハ之レカ
受領、運搬、積込ニ甚タ困難セリ
殊ニ一部ノ部隊ハ補給品特ニ新品軍靴等ノ所要數ヲ受領スルヲ
得サルモノアリテ裝備ニ若干ノ欠陥ヲ生ジタルハ遺憾ナリ將來
船舶ニ依ル作戦輸送ノ際ハ乘船地ニ於テ相当ノ日時ヲ与フルコ
ト肝要ナリ

二、上陸時ノ給養裝備
金山衛城上陸ノ際ノ給養裝備ハ乘船時携帶糧秣(人)甲一日分

乙二日分携帯燃料二箇(馬)制規ノ通大行李糧秣ハ人馬共ニ二日分ノ尋常糧秣ヲ積載スルコト、セシモ軍命令ニ依リ特ニ甲一日分ヲ増加スルコト、ナリ船内糧秣ヲ以テ之ヲ補充セリ尚上陸当日ノ夕食又ハ夕飼迄ヲ携行スルコト、セリ
(但シ實際ニ於テハ更ニ上陸時刻ニ関セス二食二飼分ヲ携行上陸ス)

三、上陸後ノ給養法並糧秣補充

各部隊ノ上陸後ノ給養ハ兵站ノ補給開始ノ日時、地点等不明ノ為給養裝備セル糧秣及部隊ノ直接購買又ハ徵発セル糧秣ニ依ルコト、セルモ住民通走シアル為各部隊共殆ンド全部徵発ニ依リタリ

但シ大行李車輛ハ追及遅レ一、二部隊ノ大行李崑山ヨリ転進ノ途中ニ於テ追及セシ外ハ南京入城直前ニ於テ漸ク追及シ轎重ハ南京入城後ニ於テ追及セル為大部分人馬共ニ給養ハ携帶糧秣ニ依レリ其ノ補充ハ各部隊ノ直接徵発糧秣及師団經理部ニ於テ徵発又ハ押収セル糧秣ニ依レリ師団經理部ニ於テ補充セル場合左ノ如シ

- 一、金山 (徵発品)
- 二、白王廟 (追送品)
- 三、徐公橋鎮、白鶴港鎮及施記浜 (追送品)
- 四、崑山 (徵発品)
- 五、松江 (徵発品)
- 六、金山及松陰鎮 (軍野戰倉庫ヨリ)
- 七、楓涇鎮 (兵站ノ交付品)
- 八、嘉善 (兵站ノ交付品)

ヲ代用スルノ止ムナキ場合多カリキ南京攻撃間ニ於テハ戰鬪地域附近ノ物資ハ殆ンド敵ニ依リ消尽セラレアリシニ依リ糧食欠乏スルニ至リ給養困難ヲ極メタルモ經理部ニ於テ極力現地散在隱匿物資ノ蒐集ニ努メ且師団所有ノ貨物自動車ヲ極度ニ運用シテ遠ク南京南方二十数里ノ洪藍埠ニ於テ発見シアリシ精米ヲ輸送補給ニ努メタル結果漸ク給養ノ不足ヲ防止スルヲ得タリ

その三 国崎支隊

「歩兵第9旅団陣中日誌」

十一月十二日

八、上海戦線ニ於テ瓦解セル敵軍ハ殆ント戦意ヲ失ヒ我ニ投降スル者多ク本日午後我ニ投降セル者營長宋慧敏以下六百余名ニシテ其投降状左ノ如クナルモ時刻ノ關係上本日武装ヲ解除スルニ至ラス

降伏状

窃謂天所昌逆天所亡此古今不異明証也蔣介石倒行逆施不度德不量力以中国劣弱之軍隊旧式之武器強与大国抗衡中外人士皆知其不可也慧敏等為順天庇人謹率所屬及收容各師旅官兵投誠計官兵五百余名名步槍百餘支听候驅策倘蒙採用願効犬馬之蒙幸乘隣焉仰祈派員点收謹呈

大日本軍戦区司令官鈞簽

營長鈞王

宋 慧 敏 謹 呈

- 九、晟舍鎮 (徵発品及軍倉庫補給品)
- 十、広徳 (徵発品及押収品、追送品一部)
- 十一、礪口鎮 (徵発品及押収品、追送品一部)
- 十二、東善橋 (徵発品)
- 十三、鉄心橋 (徵発品)
- 十四、西善橋 (徵発品)
- 十五、南京 (徵発品、追送品)
- 十六、蕪湖 (徵発品、追送品)

四、大行李及轎重ノ携行

各部隊大行李ハ揚陸作業遅延ト金山衛城―帝林鎮―松陰鎮迄ノ道路不良ノ為追及意外ニ遅レ、又轎重ハ前方糧秣ノ消費量ヲ減少スルト共ニ軍直屬トシテ各兵団ノモノヲ統一運用シテ上海―松江間ノ輸送ニ任セシメアリシ為追及遅延シ為ニ師団及各部隊共ニ多量ノ集合物資ヲ発見シナカラ之ヲ其当日ノ給養及携帶糧秣ノ補充ニ利用スルニ止マリ之ヲ運搬シテ爾後ノ給養ニ充当スル能ハサリキ将来ハ斯カル場合ニ於テモ万難ヲ排シテ必ス轎重ノ一部ヲ師団ノ直後ニ各部隊ノ大行李ノ一部ヲ各部隊ノ直後ニ跟随セシムルヲ要ス

五、各部隊ノ給養実施

各部隊金山衛城附近上陸後南京攻略迄ノ給養補給ノ状況ハ前記ノ通りニシテ追送補給困難ヲ極メタル為給養ハ殆ント現地ニ於テ徵発セル糧秣ニ依リタリ幸ニ師団ノ作戦地域ニ於テハ至ル所精米ヲ徵発スルヲ得散在物資モ相当豊富ナリシ為南京攻撃間ノ外ハ人糧ニ於テハ大ナル困難ヲ感セザリシモ馬糧ノ徵発ニハ頗ル困難ヲ感シ馬匹ノ保健上憂慮スヘキモノアリシモ立稱、糲等

十一月十三日 曇

一、支隊本部ハ松江位置ス

六、午後零時十分第六師団參謀岡田參謀ヨリ左ノ通報アリ
本日午前七時三十分松江発松江―青浦道ヲ前進中午前九時四十分松江北方約六杆附近ニ於テ投降兵約一〇〇〇名ト遭遇シ目下武装解除中ナリ小銃数百部隊ハ師団ニ追及スヘキヲ以テ至急受領者派遣被下度

右投降部隊ハ昨日我ニ投降状ヲ呈出セル宋慧敏部隊ナラム我方ニ於テハ最モ安全ナル方法ヲ以テ目下交渉中ナリシモノナリ
支隊ハ直ニ1/41 i (長水野大尉) ヲ派シ之ヲ受領セシム

七、上海軍及第六師団国崎支隊ノ包囲圈内ニ入りタル敵軍ハ己ニ戰意ヲ失シ統々降伏中ニシテ本朝来北橋鎮第二大隊方面ニ於テハ

午後四時三十分大隊副官梨和少尉以下三名一〇八旅ノ副旅長以下將校三名下士官以下七〇二名小銃三〇九拳銃五ヲ又松江方面に於テモ午後三時二十分使者歩兵第四十一聯隊本部ニ来タリ師団長以下約一〇〇〇名投降スト目下之カ交渉中ナリ狀況斯クノ如クナルモ支隊ノ現況ハ捕虜ヲ收容スル場所及給養ノ法無キヲ以テ軍ニ対シ速ニ適當処置セラレ度旨電請セリ

八、上陸以來支隊ニ配屬中ナリシ第六師団無線第六分隊ハ配屬ヲ解カル

十一月十四日 晴

一、支隊本部ハ松江ヲ発シ金山ニ到リ同地ニ位置ス

二、本朝八時三十五分左ノ軍命令ヲ飛行機ニ依リ受領ス